

読谷村自治会振興基礎調査

報告書



「写真：読谷村役場前の各自治会石碑」

平成 27 年 3 月

読谷村

はじめに



本村の集落形成は、古く 16 世紀ごろの「おもろさうし」に 7 村落が記された文献から歴史が確認できます。その後、琉球王朝時代の読谷山間切を経て、1908 年（明治 41 年）町村制が敷かれ読谷山村のころには 19 個所の村落がありました。

先の第 2 次世界大戦後、1946 年（昭和 21 年 12 月 16 日）にこれまでの「読谷山村」から「読谷村」へ村名変更をし、22 村落で戦後復興の基点となり 1985 年（昭和 60 年 4 月 1 日）に大添が、2014 年（平成 26 年 4 月 1 日）に横田が村公民館連絡協議会に加盟し、現在 24 自治会の構成となりました。また未加盟の 3 自治会を含め村内 27 自治会で今日の地域自治会活動を展開しているところです。

これまで本村のむらづくりは、地域自治会の活動が基盤となり、村民の融和と団結により先の第 2 次世界大戦からの復興、沖縄の日本復帰時の慌ただしい時期、この間の目まぐるしい社会構造の変化に対応しながら地域の伝統行事・芸能などを継承・発展させ今日に至っております。近年の社会を取り巻く環境は、少子高齢化、核家族化、都市型生活の浸透による住民と住民の希薄化が浮き彫りになっています。本村においても、自治会の組織率（加入率）が年々低下している現状があり、村民の地域活動と住民自治との関係性を把握することを強く感じているところです。

平成 26 年 4 月よりこれまで字、部落などと称し、村内各公民館等を拠点に活動していた団体・法人を“自治会”と称することに統一しました。また、村民に対し行政サービスの充実を図るため、村内に新たに 19 行政区域を設定しました。これにより自治会と行政区域の役割が明確となりました。

これからも本村のむらづくりは、村内の各自治会が基盤となり、村の諸事業の担い手・支援者、各地域の伝統行事・芸能を継承する母体となることを認識するとともに今回の調査が各自治会の諸問題・課題解決の基点となれば幸いに思います。重ねて今後とも各自治会の活性化・振興のため村もいっしょに取り組んでいくことを確認したいと思います。

最後に本調査を進めるにあたって「対米請求権地域振興事業」のご配慮を賜り心からお礼申し上げます。

平成 27 年 3 月

読谷村長

石嶺 傳實

読谷村自治会振興基礎調査

報告書目次

序 調査の目的等	
1. 調査の目的	1
2. 調査の進め方	2
第1章 読谷村の概要	
1. 戦後の「字（自治会）」の移転状況	3
2. 人口の動向等	8
3. 自治会加入動向	14
第2章 自治会活動の現状	
1. 自治会活動の動向	17
2. 自治会の組織形態と活動内容	20
第3章 村民アンケート調査とヒアリング調査の概要	
1. 村民アンケート調査概要	43
2. ヒアリング調査概要	55
第4章 自治会活動の問題点・課題と今後のあり方	
1. 問題点・課題	63
2. 今後のあり方	66
第5章 各種団体の活動動向	
1. 各種団体の会員数の動向	75
2. 各種団体の歳入・歳出の動向	77
3. 各種団体の活動状況	79
4. 各種団体の問題点・課題・今後のあり方	85
資料編	
自治会カルテ	91

序 調査の目的等

1. 調査の目的

読谷村における住民自治組織は、これまで「字（行政区）」を中心に担ってきた。戦後の集落再建から現在に至る教育・福祉・産業等の振興、及びその原動力である各字のアイデンティティ（拝み・祈りの年中行事や伝統芸能等）が継承されてきたともいえる。

一方、戦後70年を経る中、都市化の進展に伴う人口増加・ライフスタイルの多様化など、村民の価値観もこれまでの“農村地域の共同体的性格（農村自治）”を基盤としたものだけでは収まらない、多様な考え方、生き方が出てきた。

このような都市化が進む中での現実の問題として、例えば、自治会加入率をみると、読谷村では加入世帯と未加入世帯の割合が逆転し、未加入世帯が全世帯の5割を超す。そのことは、行政区としての「字」の立ち位置のあり方、あるいは様々な地域活動を担う老人クラブ・婦人会・青年会・子ども会等の社会教育団体の今後のあり方にどのような影響を及ぼすのかなど、その対応が求められている。加えて、読谷村の「地域自治会」の複雑性を示す「属人的組織」（居住地以外の行政区（字）に加入）のもつ属性も依然として抱えている。

振り返って、読谷村におけるこれまでの「字」中心とした“村づくり”に関わる取組みをみると、昭和49年の「読谷村社会計画」を皮切りに、第3・4次の総合計画における字別構想、各分野の基本計画策定等がなされてきた。なお、昭和48年・昭和50年の「行政区審議会」及び平成11年の「行政区特別委員会」設置と、行政区改善への取組みがその都度試みられたが、新たな改善策を打ち出すには至らなかった。

そのような中で、平成26年3月の「読谷村自治基本条例」制定及び4月の「新たな行政区域（19行政区域）」の設定に伴い、「字」（自治会）を含む読谷村における住民自治の枠組みも新たな段階に入った。

したがって、本業務は上記の経緯を踏まえつつ、本村むらづくりの基盤である「地域自治会」について、地域活動と住民活動の視点から社会活動としての現状把握及び問題抽出・分析を行い、今後の自治会のあり方・あるべき姿を模索するための基礎調査として実施するものである。

2. 調査の進め方

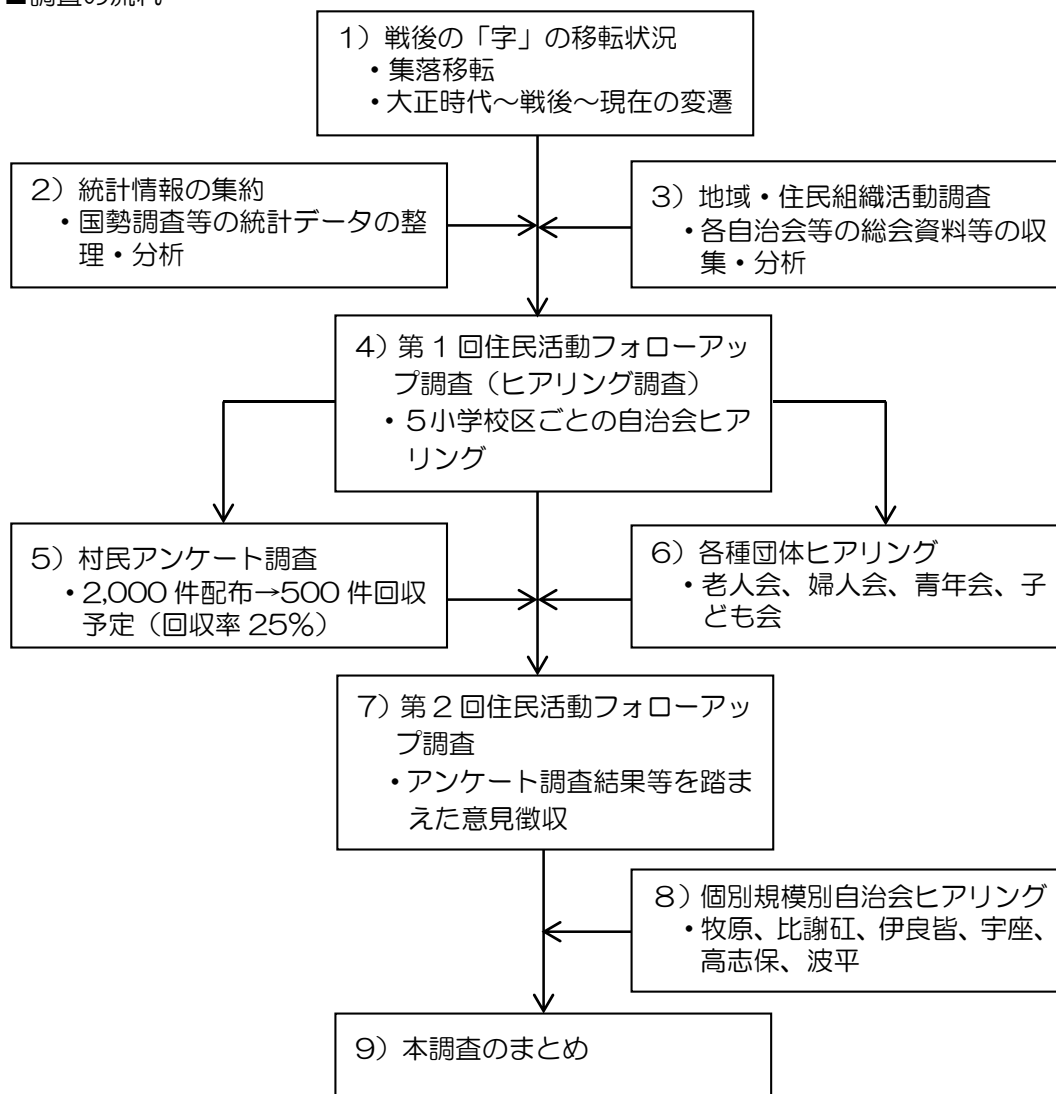
調査は、統計資料により村全体の社会状況を整理するとともに、村内 27 自治会のうち「読谷村公民館連絡協議会」に参加している 24 自治会を対象に、各字（自治会）の総会資料等を基に地域・住民組織の活動状況を把握する。

その結果を踏まえ、小学区毎に第 1 回住民活動フォローアップ調査（ヒアリング調査）を実施し、自治会や各種団体の現状等の把握を行うものとする。

上記の取組みを踏まえ、村民アンケート調査を実施し、自治会加入者及び未加入者からなる村民が考えている「地域コミュニティ（自治会）」に関する意向の把握を行う。また、村の各種団体のヒアリングも実施し、村レベルからみた各種団体の動向を把握する。

以上の自治会に関わる実態把握を踏まえ、第 2 回住民活動フォローアップ調査を実施し、問題点・課題の確認、今後の自治会のあり方等について意向の把握を行うものとする。調査をまとめるに当たっては、自治会の規模別の個別ヒアリングを実施し、より実態に即した自治会活動の現状把握に努める。

■調査の流れ



第1章 読谷村の概要

1. 戦後の「字（自治会）」の移転状況

読谷村は、1946年時点で村土の約95%が米軍基地に占領され、その後、漸次基地は返還されてきたが、2015年現在でも約36%を占める。

そのことは、戦後の米軍用地接収に伴う他字への移動を余儀なくされた字（自治会）があり、現在でも、戦前の元の場所に戻ることができない字（自治会）も存在することを物語るものとなっている。

具体的には、現在でも他字の地番に自治会公民館が位置する字もある。読谷村の字（自治会）が「属人的自治組織」であるといわれる所以である。

加えて、復帰後の都市化の進展に伴う村外からの転居者の増加、あるいは分家住宅の分散化などにより、字（自治会）が有する「属人的自治組織」の意味合いが益々複雑なものとなりつつある。

■米軍撮影航空写真



○1945年1月3日撮影



○1945年12月10日撮影

資料：村提供資料

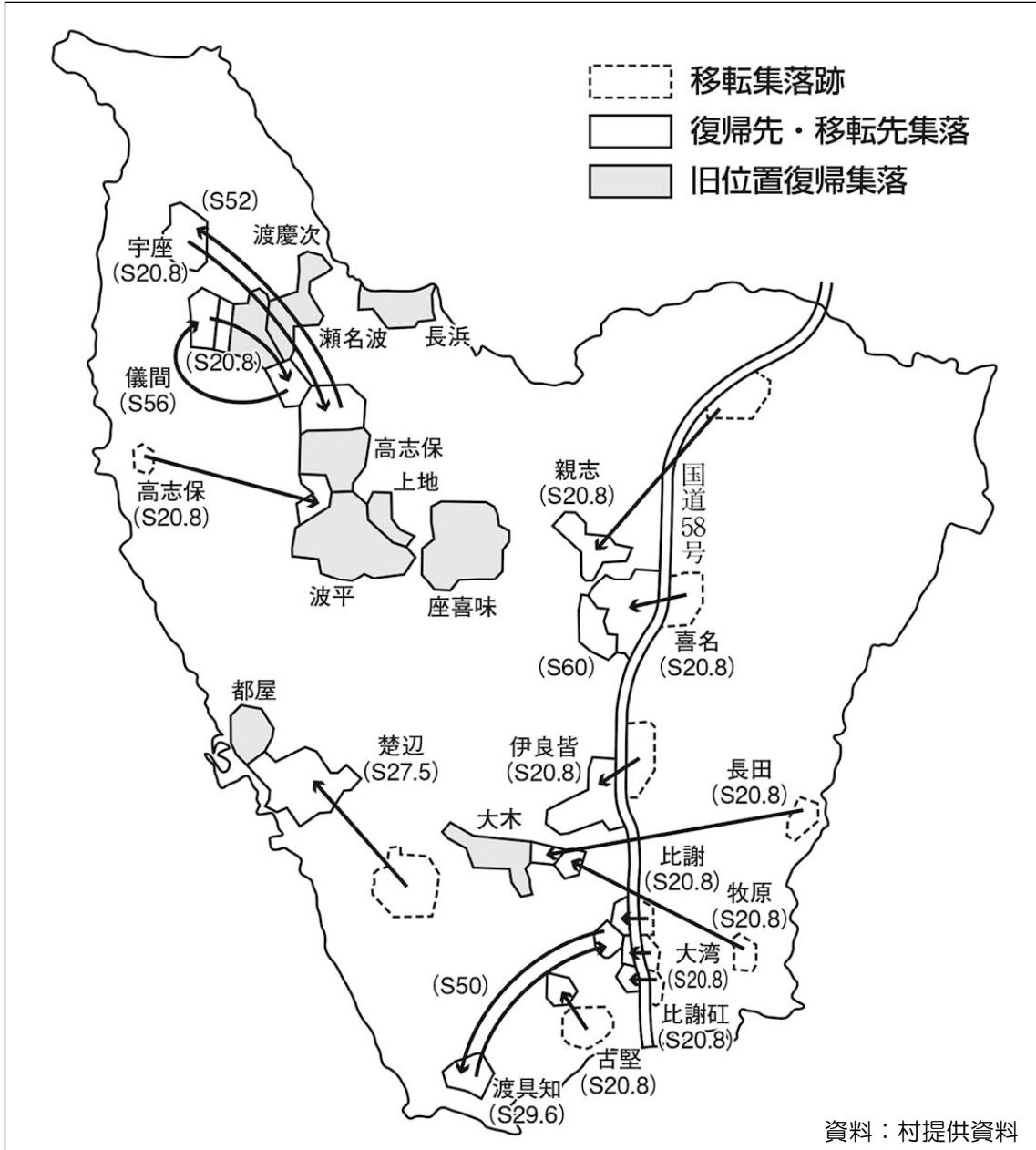
<1945年1月3日>

- ・村中央部に読谷補助飛行場跡地が確認できる（当時は日本軍の読谷山（北）飛行場）。
- ・黒い塊状が集落地域であり、海岸沿いには宇座、儀間・渡慶次・瀬名波の集落が確認できる。

<1945年12月10日>

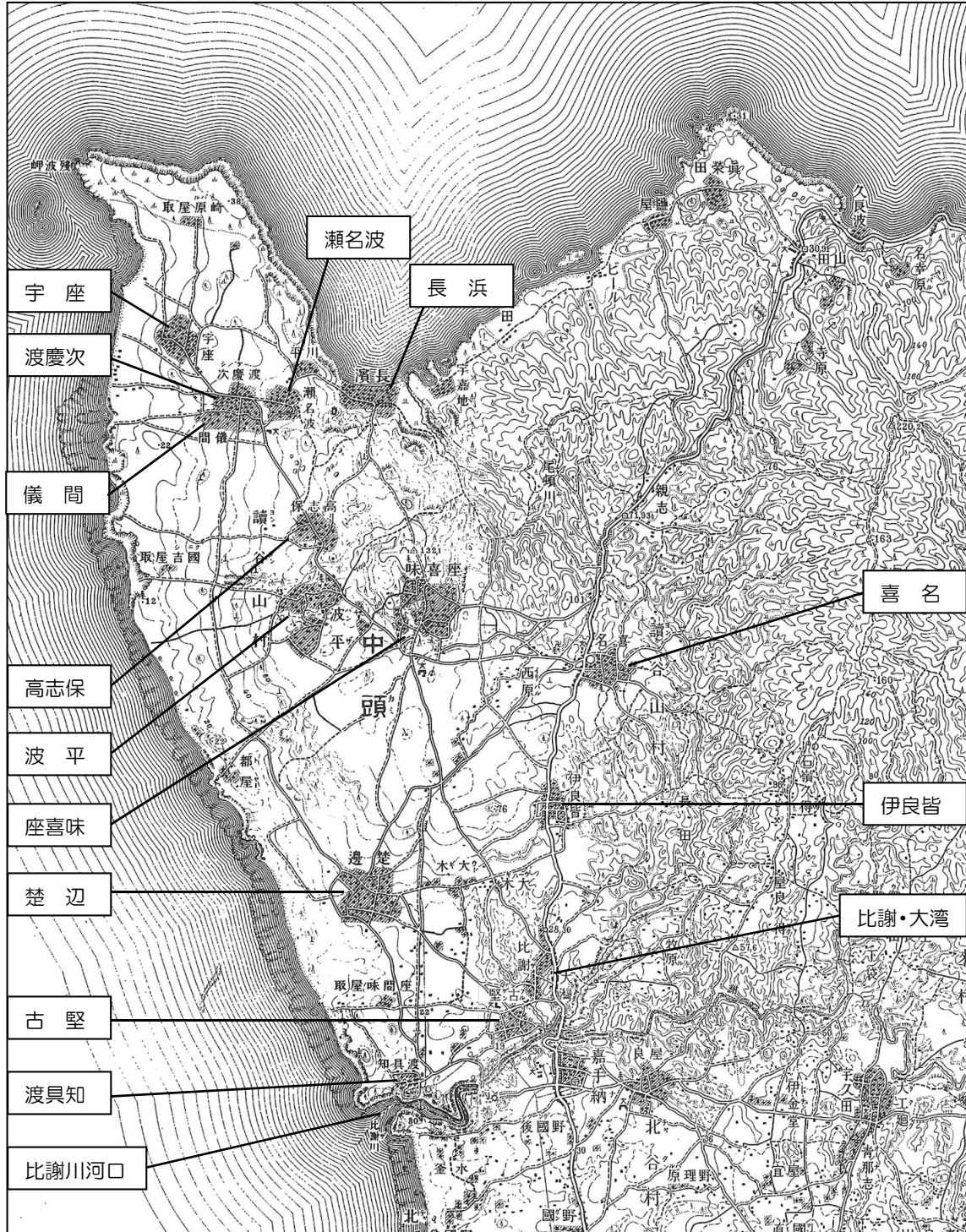
- ・村中央部の読谷山（北）飛行場が拡張され、読谷補助飛行場が形づくられている。
- ・海岸部には新たに米軍により、「ボーロー飛行場」が築造されている。

■ 集落移転状況



- 上図は、基地建設及び返還に伴う集落移転状況を整理しているものである。
- 戦後 70 年を経ても元集落地に復帰することができず、他字で現在でも生活する集落が、親志、長田、牧原である。
- また、字内の地で移転している集落が喜名、伊良皆、比謝、大湾、比謝砦、古堅、楚辺、高志保（一部）である。
- 読谷村では、基地返還後、元集落地における生活基盤（道路、排水、水道、電気等）を整備する「復帰先地公共施設整備事業」により、宇座、儀間、渡具知で元集落への復帰が実施されている。
- 一方、当面、元集落地への復帰は望めないことから、移転地の生活基盤を整備する「移転先地公共施設整備事業」により、喜名では移転地での生活基盤整備を実施している。

■ 読谷図面（大正 10 年）



資料：「大正 10 年測量 旧版図 陸地測量部参謀本部」

- 上図は、大正 10 年（1921 年）側図である。
- 基地建設前の高志保、波平、座喜味、楚辺、渡具知、古堅、伊良皆、喜名等の塊状集落の分布状況が確認できる。

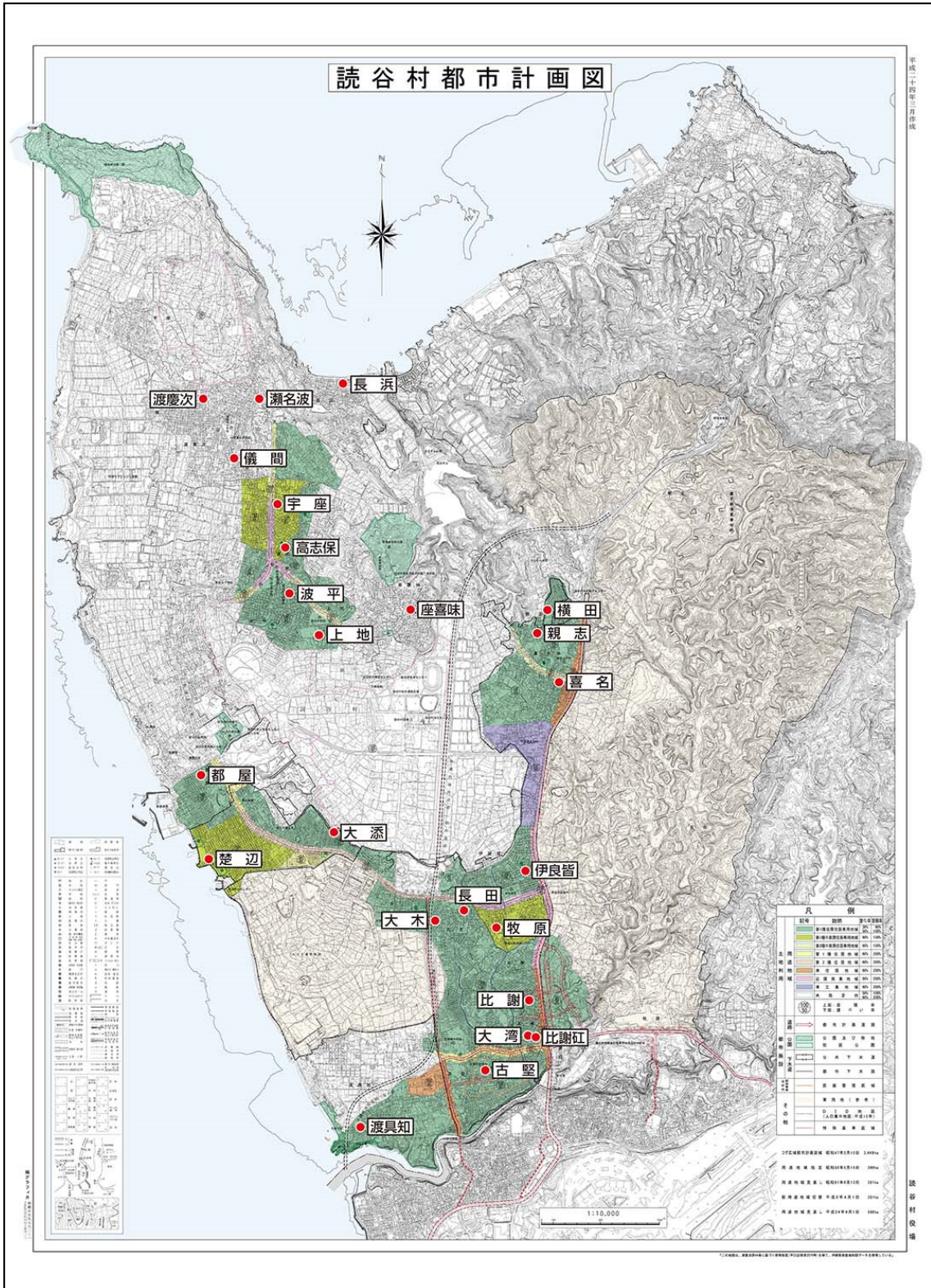
■読谷図面（昭和22年）



資料：「米軍作成 1/4800 編集。沖縄県公文書館」

- 上図は、昭和22年（1947）に米軍が作成したものである。
- 敗戦2年後の現状である。大規模な基地として北側からみると、瀬名波通信施設、ボーローポイント射撃場、読谷補助飛行場、トリー通信施設が確認できる。
- 読谷村は、昭和21年（1946）時点で、村土の約95%が占領されており、その状態を表しているのが上図となる。

■現在



- 上図は、現在の読谷村都市計画図に各自治会の公民館位置をプロットしたものである。
- 北部地域の長浜、渡慶次、儀間、瀬名波、座喜味を除けば、残りの公民館は都市計画区域の用途地域（色ぬりされた区域）内に分布。基本的に、都市地域と同等の人口密度を構成していることが確認できる。

2. 人口の動向等

①人口・世帯数の推移

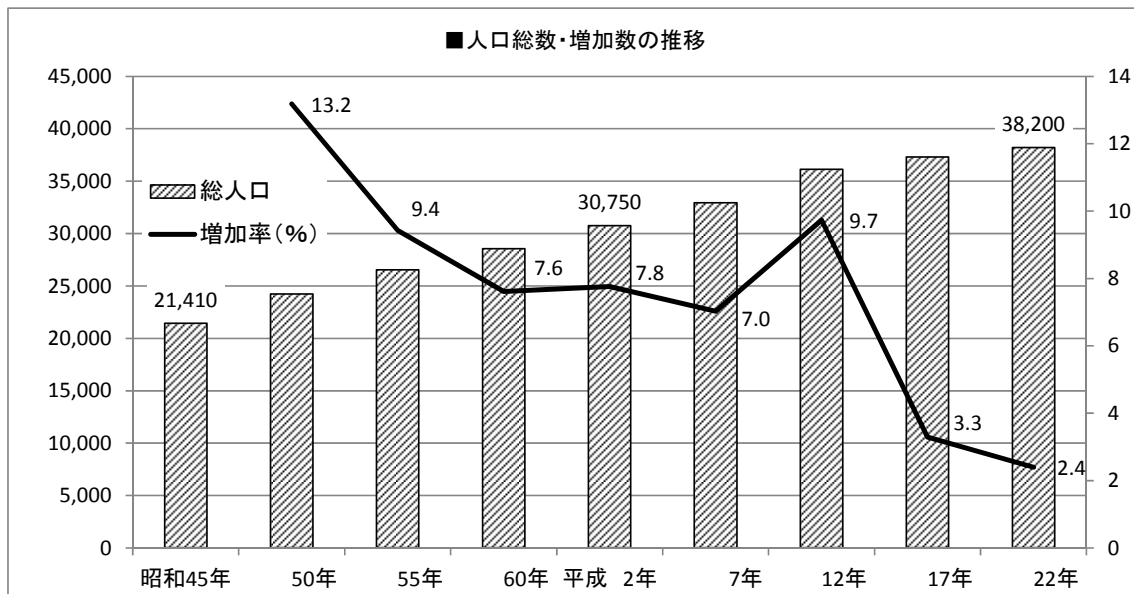
読谷村の総人口は、昭和45年～平成22年の40年間、一貫して増加してきた。しかしながら、増加率は減少傾向にあり、特に直近の5年間（平成17年～22年）は、2.4%と伸び率は鈍化している。

世帯数は一貫して増加し、一世帯当たり人員は減少していることから、核家族化及び単独世帯の増加が伺われる。

■人口・世帯の推移

	総人口	男	女	世帯数	一世帯当たり人員	増加率(%)
昭和45年	21,410	10,254	11,156	4,302	4.98	-
50年	24,232	11,855	12,377	5,185	4.67	13.2
55年	26,516	13,032	13,484	6,073	4.37	9.4
60年	28,536	14,133	14,403	6,890	4.14	7.6
平成 2年	30,750	15,188	15,562	8,045	3.82	7.8
7年	32,912	16,266	16,646	8,965	3.67	7.0
12年	36,115	17,953	18,162	10,699	3.38	9.7
17年	37,306	18,525	18,781	11,803	3.16	3.3
22年	38,200	18,913	19,287	12,422	3.08	2.4

資料：「国勢調査」



②人口動態の推移

自然動態をみると、昭和59年度から自然増加の状況にあるものの、増加数は、死亡数の増加に伴い減少傾向を示している。

社会動態を見ると、昭和59年度から平成15年度までは社会増加の状況となっていたが、平成25年には転出者が転入者を上回る社会減少の状況となっている。

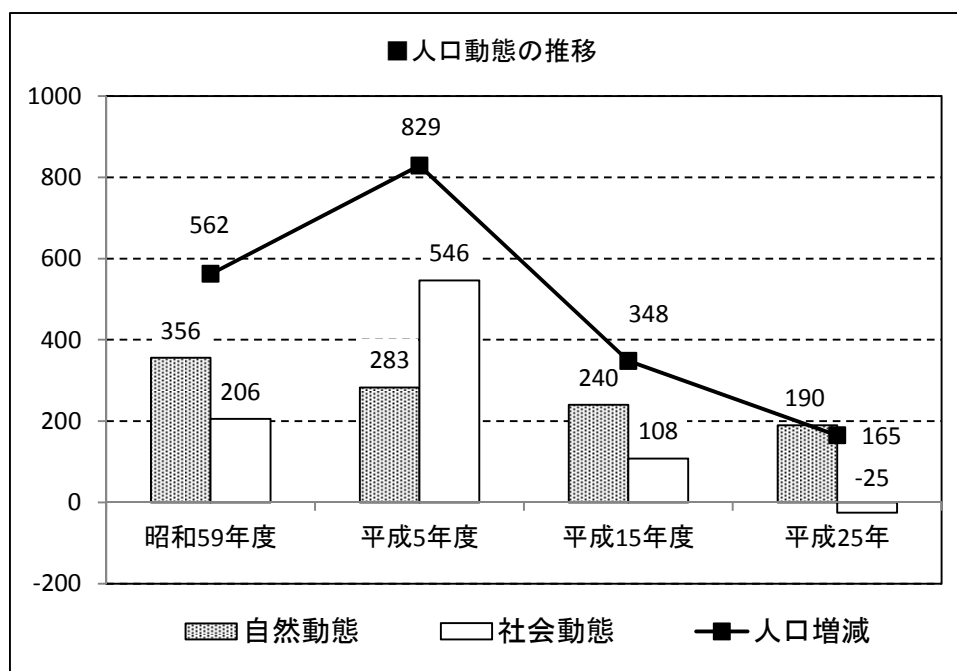
読谷村の人口増加は、安定した出生数に支えられた自然増加の影響を受けてきたことが伺える。

■人口動態の推移

	自然動態 (出生数-死亡数)			社会動態 (転入数-転出数)			人口増減
	出生数	死亡数	計	転入数	転出数	計	
昭和59年度	475	119	356	1,351	1,145	206	562
平成5年度	442	159	283	1,675	1,129	546	829
平成15年度	439	199	240	1,578	1,470	108	348
平成25年	472	282	190	1,710	1,735	-25	165

注1:平成25年については、1月～12月までの値である。

資料:「住民基本台帳人口の概況」



③年齢別人口の推移

年齢3区分の総人口に占める割合の推移をみると、15歳未満は40年間一貫して減少し、逆に65歳以上は昭和50年を除けば一貫して増加している。15～64歳人口は平成7年をピークにその後は減少傾向にある。

■年齢（3区分）別人口の推移

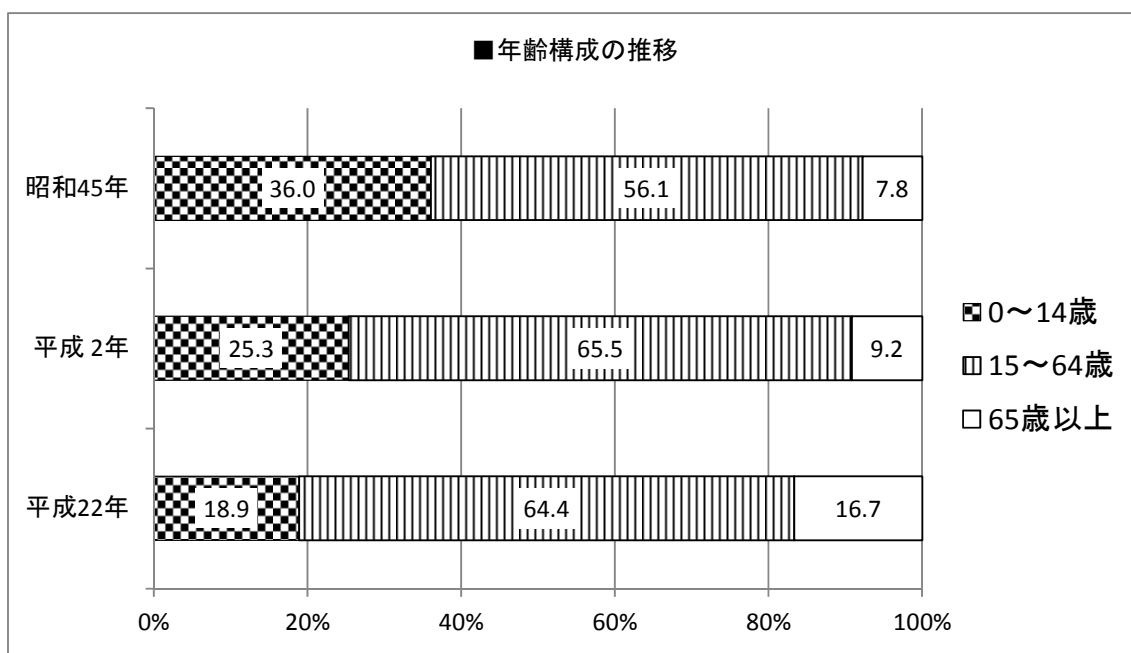
年次	実数(人)					割合(%)				
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち75歳以上	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち75歳以上
昭和45年	21,410	7,717	12,021	1,672	721	100	36.0	56.1	7.8	3.4
50年	24,232	8,004	14,352	1,876	847	100	33.0	59.2	7.7	3.5
55年	26,516	8,206	16,186	2,124	931	100	30.9	61.0	8.0	3.5
60年	28,536	8,048	18,077	2,411	1,069	100	28.2	63.3	8.4	3.7
平成2年	30,750	7,793	20,131	2,826	1,275	100	25.3	65.5	9.2	4.1
7年	32,912	7,607	21,848	3,457	1,488	100	23.1	66.4	10.5	4.5
12年	36,115	7,793	23,392	4,522	1,770	100	21.6	64.8	12.5	4.9
17年	37,306	7,670	24,011	5,611	2,235	100	20.6	64.4	15.0	6.0
22年	38,200	7,215	24,609	6,370	3,056	100	18.9	64.4	16.7	8.0

※総数H12:不詳408、H17:不詳14、H22:不詳6含む

資料:「国勢調査」

■年齢（3区分）別人口の増減数の推移

年次	実数(人)					増減率(%)				
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち75歳以上	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち75歳以上
昭和45年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50年	2,822	287	2,331	204	126	13.2	3.7	19.4	12.2	17.5
55年	2,284	202	1,834	248	84	9.4	2.5	12.8	13.2	9.9
60年	2,020	-158	1,891	287	138	7.6	-1.9	11.7	13.5	14.8
平成2年	2,214	-255	2,054	415	206	7.8	-3.2	11.4	17.2	19.3
7年	2,162	-186	1,717	631	213	7.0	-2.4	8.5	22.3	16.7
12年	3,203	186	1,544	1,065	282	9.7	2.4	7.1	30.8	19.0
17年	1,191	-123	619	1,089	465	3.3	-1.6	2.6	24.1	26.3
22年	894	-455	598	759	821	2.4	-5.9	2.5	13.5	36.7



④世帯の家族類型の推移

昭和45年から平成22年の40年間で割合が増加しているのは、「単独世帯」が10.9ポイントと最も多く、次いで「核家族世帯」が9.6ポイント、「非親族を含む世帯」1.3ポイントである。

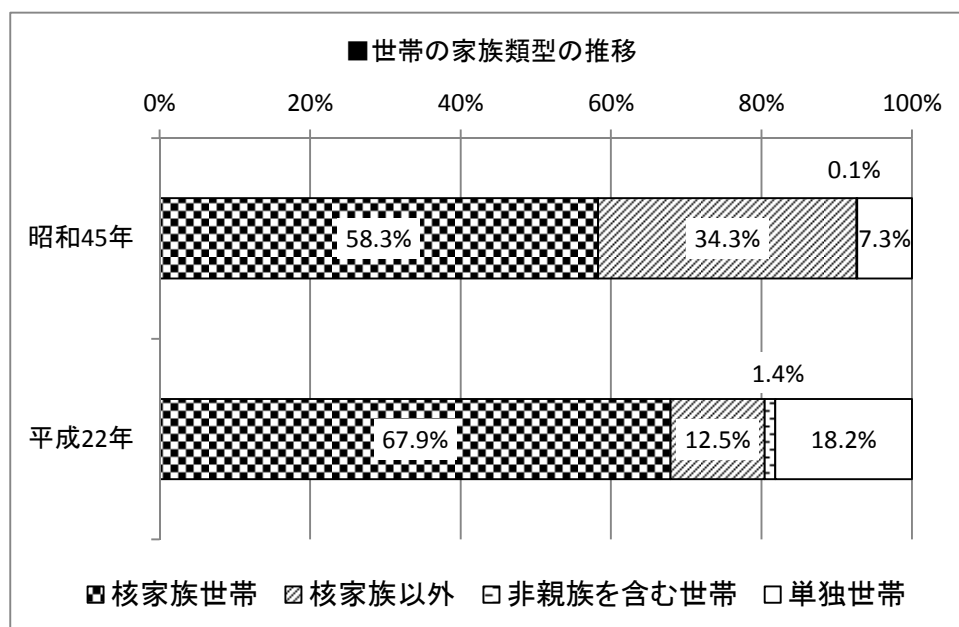
逆に、三世帯世帯などの「核家族以外」は21.8ポイント減少しており、核家族化が進展していることが伺える。

■世帯の家族類型の推移

単位：世帯

		核家族世帯	核家族以外	非親族を含む世帯	単独世帯	計
昭和45年	世帯	2,501	1,473	4	313	4,291
	%	58.3%	34.3%	0.1%	7.3%	100.0%
平成22年	世帯	8,428	1,552	174	2,257	12,411
	%	67.9%	12.5%	1.4%	18.2%	100.0%

資料：「国勢調査」



⑤住宅の所有形態別世帯数の推移

昭和45年から平成22年の40年間で借家の増加が著しく、その中でも「民営の借家」は20.9ポイント増加している。逆に、「持ち家」は昭和45年の90.9%から平成22年には65.2%と25.7ポイント減少している。

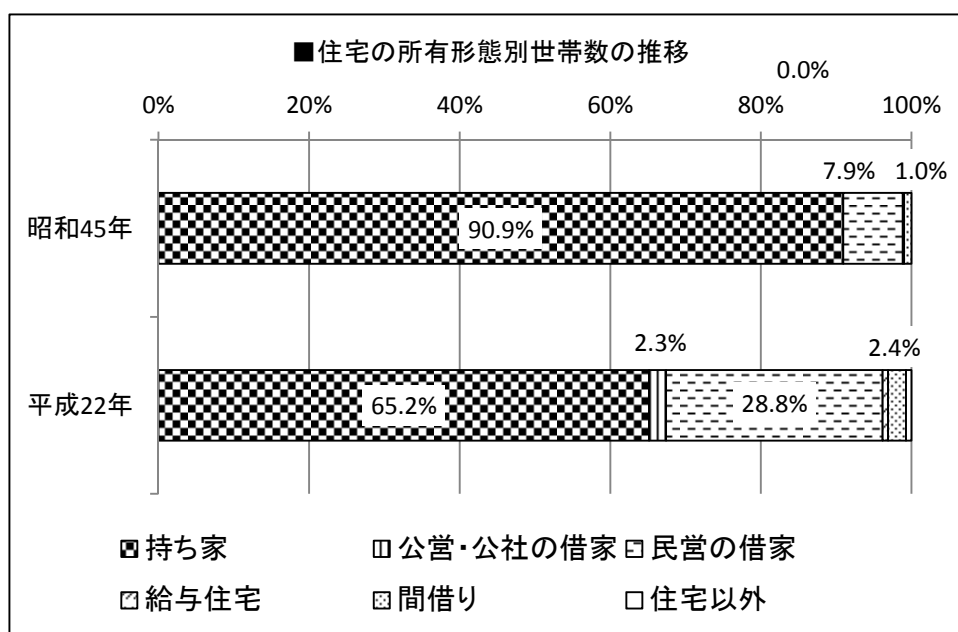
「持ち家」の減少分が「民営の借家」及び「公営・公社の借家」の増加分とほぼ同程度である。

アパート等の民営借家の著しい増加は、後述する自治会未加入の相互の関係性を示す動向が伺える。

■住宅の所有形態別世帯数の推移 単位：世帯

		持ち家	公営・公社の借家	民営の借家	給与住宅	間借り	住宅以外	計
昭和45年	世帯	3,902	0	341	6	42	0	4,291
	%	90.9%	0.0%	7.9%	0.1%	1.0%	0.0%	100.0%
平成22年	世帯	8,087	281	3,571	86	297	89	12,411
	%	65.2%	2.3%	28.8%	0.7%	2.4%	0.7%	100.0%

資料：「国勢調査」



⑥産業の動向

昭和45年と平成22年の40年間の比較をみると、第三次産業が20.7ポイント増加している。特に不動産業・物品賃貸業が伸びているほか、昭和45年に分類のなかった情報通信業や学術研究・専門・技術サービス等の各種サービス業の進展が目立つ。

逆に、第一次産業と第二次産業の割合は低下している。特に一次産業の割合は、この40年間で20.3ポイント減少し、平成22年の農業・林業の就業者数は昭和45年の4分の1程度となっており、就業の面からも都市化の進展が顕著に表れている。

■産業(大分類)別15歳以上就業者数の推移

産業大分類	実数		割合		S45年とH22年の差 (ポイント)
	昭和45年	平成22年	昭和45年	平成22年	
総数	7,840	15,623	100.0	100.0	0.0
農業・林業	1,823	466	23.3	3.0	-20.3
漁業	18	34	0.2	0.2	0.0
鉱業・採石業・砂利採取業	12	7	0.2	0.0	-0.1
建設業	1,084	1,719	13.8	11.0	-2.8
製造業	392	954	5.0	6.1	1.1
電気・ガス・熱供給・水道業	52	70	0.7	0.4	-0.2
情報通信業	-	248	-	1.6	-
運輸業・郵便業	183	505	2.3	3.2	0.9
卸売業・小売業	985	1,998	12.6	12.8	0.2
金融業・保険業	57	194	0.7	1.2	0.5
不動産業・物品賃貸業	14	195	0.2	1.2	1.1
学術研究・専門・技術サービス	-	315	-	2.0	-
宿泊業・飲食サービス業	-	1,524	-	9.8	-
生活関連サービス業、娯楽業	-	936	-	6.0	-
教育・学習支援業	-	757	-	4.8	-
医療・福祉	-	1,911	-	12.2	-
複合サービス事業	-	80	-	0.5	-
サービス業(他に分類されないもの)	2,911	1,775	37.1	11.4	-25.8
公務(他に分類されるものを除く)	208	544	2.7	3.5	0.8
分類不能の産業	1	1,391	0.0	8.9	8.9
(再掲)					
第1次産業	1,841	500	23.8%	3.5%	-20.3
第2次産業	1,488	2,680	19.2%	18.8%	-0.4
第3次産業	4,411	11,052	57.0%	77.7%	20.7

※昭和45年と平成22年では産業大分類の項目に変更があった為、各種サービス業や情報通信業など値が入っていない項目がある。
資料:「国勢調査」

3. 自治会加入動向

①自治会加入状況

人口ベースでは、加入者が平成25年で52.5%を占め、未加入者は47.5%であり、やや自治会加入者が多い。平成5年から10年毎にみると、加入者は一貫して減少（74.1%→61.3%→52.5%）している。

世帯ベースでは、加入世帯が49.6%と5割を下回り、未加入世帯は50.4%で加入世帯と未加入世帯の割合が逆転している。平成5年から10年毎にみると、人口ベースと同様に加入世帯は一貫して減少（68.5%→56.8%→49.6%）している。

■自治会加入状況(人口)

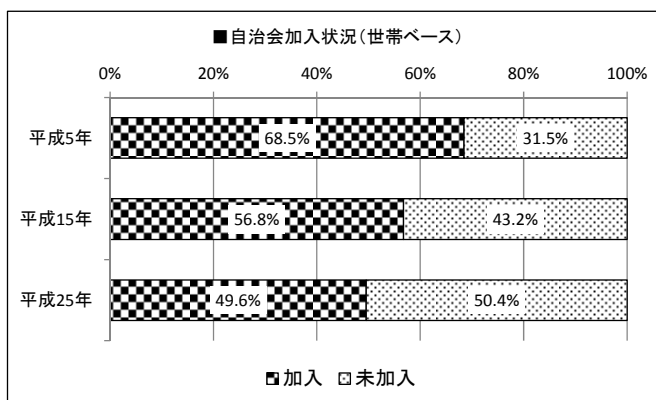
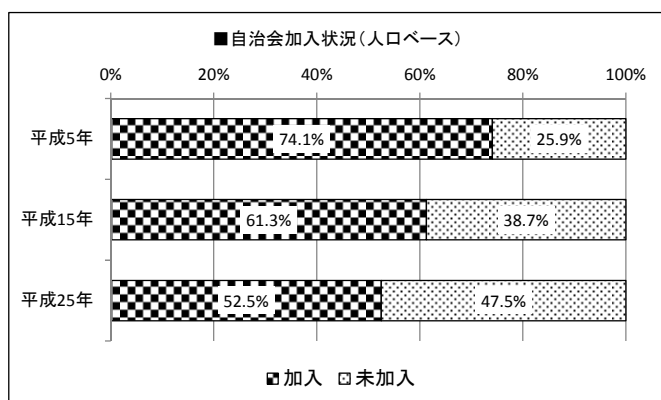
	実数			割合		
	加入	未加入	計	加入	未加入	計
平成5年	24,166	8,448	32,614	74.1%	25.9%	100.0%
平成15年	23,016	14,539	37,555	61.3%	38.7%	100.0%
平成25年	21,472	19,422	40,894	52.5%	47.5%	100.0%

資料:「読谷村統計書」

■自治会加入状況(世帯)

	実数			割合		
	加入	未加入	計	加入	未加入	計
平成5年	5,960	2,743	8,703	68.5%	31.5%	100.0%
平成15年	6,707	5,110	11,817	56.8%	43.2%	100.0%
平成25年	7,251	7,379	14,630	49.6%	50.4%	100.0%

資料:「読谷村統計書」



②字別自治会加入・未加入人口

平成26年4月1日現在における村全体の自治会加入人口は、20,950人（51.6%）であり、未加入人口は19,659人（48.4%）となっている。やや加入人口が上回る現状にある。加入率が約6割を越す字は、上地（70.2%）、高志保（64.3%）、渡慶次（63.1%）、渡具知（61.3%）、瀬名波（59.6%）、波平（59.3%）、楚辺（59.3%）である。

一方、未加入率が約6割を越す字は、古堅（75.3%）、大湾（66.2%）、伊良皆（59.3%）となっており、概ね南部地域での未加入率が高くなっている。

※ここでいう字別とは、属地＝居住地における自治会加入・未加入人口である。例えば、字長浜の加入人口はイコール長浜自治会の加入人口とはならない。

■字別自治会加入・未加入別人口

小学校区	字	加入人口		未加入人口		計
		人	割合	人	割合	
渡慶次小	長浜	1,808	57.9	1,312	42.1	3,120
	瀬名波	928	59.6	630	40.4	1,558
	宇座	308	57.7	226	42.3	534
	儀間	276	55.0	226	45.0	502
	渡慶次	1,050	63.1	613	36.9	1,663
読谷小	上地	504	70.2	214	29.8	718
	都屋	726	50.4	715	49.6	1,441
	高志保	1,905	64.3	1,056	35.7	2,961
	波平	2,004	59.3	1,373	40.7	3,377
喜名小	親志	-	-	-	-	-
	座喜味	1,647	48.1	1,779	51.9	3,426
	喜名	2,013	57.4	1,497	42.6	3,510
古堅小	長田	-	-	-	-	-
	牧原	-	-	-	-	-
	大添	-	-	-	-	-
	伊良皆	1,116	40.7	1,626	59.3	2,742
	大木	928	42.6	1,248	57.4	2,176
	楚辺	2,813	59.3	1,931	40.7	4,744
古堅南小	比謝缸	47	45.6	56	54.4	103
	比謝	800	43.0	1,059	57.0	1,859
	大湾	733	33.8	1,438	66.2	2,171
	古堅	752	24.7	2,287	75.3	3,039
	渡具知	592	61.3	373	38.7	965
計	20,950	51.6	19,659	48.4	40,609	

資料:「役場資料」

※自治会加入人口は平成26年4月1日現在

※自治会未加入人口は、住民人口(平成26年4月末現在)-自治会加入人口(平成26年4月1日現在)

第2章 自治会活動の現状

1. 自治会活動の動向

①自治会別加入人口の推移

昭和48年～平成26年の41年間における自治会加入人口の推移を村全体でみると、自治会加入人口は172人(0.8%)の増加である。ただし、平成26年データには大添と横田のデータも加味していることから、実質は大半の自治会で減少傾向にある。

その中で、全体の約1/3にあたる7自治会は加入人口が増加し、特に、増加率が高い自治会は、渡具知(41.6%)、都屋(17.5%)、喜名(12.3%)、大木(9.0%)である。

減少率の高い自治会は、上地(-44.2%)、比謝砦(-31.0%)、大湾(-24.6%)、長浜(-22.1%)、牧原(-21.2%)、比謝(-20.4%)等である。例外の自治会はあるものの、相対的に自治会規模が小さくなるに従い減少率が高めになる傾向が伺える。

一方、世帯数の推移をみると、全体では3,345世帯(81.8%)の増加である。すべての自治会で増加しており、分家による世帯分離の現状が反映されている。

■自治会別加入人口・世帯数の推移

小学校区	自治会	昭和48年		平成26年		伸び率	
		人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
①小規模自治会 (100世帯以下)	上地	120	16	67	27	-44.2	68.8
	長田	137	23	115	37	-16.1	60.9
	比謝砦	200	43	138	51	-31.0	18.6
	親志	161	32	172	71	6.8	121.9
	牧原	302	56	238	80	-21.2	42.9
②中規模自治会-1 (100～300世帯)	比謝	525	102	418	150	-20.4	47.1
	大湾	753	141	568	190	-24.6	34.8
	横田	-	-	599	208	-	-
	都屋	559	122	657	223	17.5	82.8
	大添	-	-	643	232	-	-
	古堅	750	151	655	242	-12.7	60.3
	儀間	869	144	760	261	-12.5	81.3
	伊良皆	912	178	824	280	-9.6	57.3
	大木	733	161	799	286	9.0	77.6
③中規模自治会-2 (300～500世帯)	渡具知	646	135	915	313	41.6	131.9
	瀬名波	1,005	179	891	321	-11.3	79.3
	長浜	1,210	210	943	347	-22.1	65.2
	宇座	1,250	212	1,192	389	-4.6	83.5
	渡慶次	1,387	254	1,290	438	-7.0	72.4
	高志保	1,512	287	1,517	493	0.3	71.8
④大規模自治会 (500世帯以上)	座喜味	1,791	335	1,467	513	-18.1	53.1
	喜名	1,717	329	1,928	633	12.3	92.4
	楚辺	2,396	511	2,287	818	-4.5	60.1
	波平	2,442	468	2,466	831	1.0	77.6
計		21,377	4,089	21,549	7,434	0.8	81.8

資料:「役場資料」

②自治会加入者の居住地動向

下表は、当該字の「自治会」の加入者動向と当該字以外の「自治会」加入者動向を整理したものである（例えば、字長浜の住所に住み長浜の自治会に加入、あるいは、字長浜以外の住所に住み長浜の自治会に加入）。

平成6年～平成26年の20年間の当該字の「自治会」の加入者動向をみると、自治会規模の大小に関係なくほとんどの自治会で減少している。特に減少率が高い自治会は、比謝町（-41.3%）、上地（-35.0%）、大添（-33.3%）※注3、大湾（-30.9%）等となっている。自治会規模が小さいほど減少率が高い傾向が伺える。そのような中で、「復帰先地公共施設整備事業」により集落居住地区整備が実施された宇座（83.8%）、渡具知（38.8%）は増加している。

次に、当該字以外の「自治会」加入者動向をみると、14自治会が増加、9自治会が減少を示す。増加している自治会は、伊良皆、大添、喜名、座喜味、長浜等である。減少している自治会は古堅、大木、宇座、長田、渡具知等である。

■自治会加入者の居住地動向

小学校区	自治会	当該字の「自治会」の加入者			当該字以外の「自治会」加入者		
		平成6年 (人)	平成26年 (人)	増減率 (%)	平成6年 (人)	平成26年 (人)	増減率 (%)
①小規模自治会 (100世帯以下)	上地	60	39	-35.0	25	28	12.0
	長田	-	-	-	142	115	-19.0
	比謝町	46	27	-41.3	104	111	6.7
	親志	-	-	-	195	172	-11.8
	牧原	-	-	-	266	238	-10.5
②中規模自治会-1 (100～300世帯)	比謝	455	353	-22.4	59	65	10.2
	大湾	569	393	-30.9	164	175	6.7
	都屋	641	560	-12.6	67	97	44.8
	大添	902	602	-33.3	8	41	412.5
	古堅	483	449	-7.0	355	206	-42.0
	儀間	230	221	-3.9	567	539	-4.9
	伊良皆	977	767	-21.5	8	57	612.5
	大木	893	685	-23.3	183	114	-37.7
③中規模自治会-2 (300～500世帯)	渡具知	412	572	38.8	417	343	-17.7
	瀬名波	862	690	-20.0	166	201	21.1
	長浜	917	779	-15.0	66	164	148.5
	宇座	154	283	83.8	1,135	909	-19.9
	渡慶次	1,006	798	-20.7	493	492	-0.2
	高志保	1,516	1,292	-14.8	179	225	25.7
④大規模自治会 (500世帯以上)	座喜味	1,547	1,275	-17.6	57	192	236.8
	喜名	2,001	1,806	-9.7	31	122	293.5
	楚辺	2,365	2,006	-15.2	177	281	58.8
	波平	2,132	1,634	-23.4	825	832	0.8
計		18,168	15,231	-16.2	5,689	5,719	0.5

注1:「当該字」とは、住所表記の字のことである。

資料:「役場資料」

注2:「親志」「牧原」「長田」の当該字以外の自治会加入者数は、自治会加入者総数である。

注3:「大添」は、住所表記の字が「楚辺」であるため、「楚辺」とそれ以外の字からの加入者数である。

③当該字以外の自治会加入動向

下表は、前述した当該字以外での自治会加入動向について、更にどのような実情になっているのかを知るための手がかりとして、字数の増減を整理したものである。

例えば、前述の当該字以外の「自治会」加入者の増加率が高い自治会で見ると、伊良皆（3字→10字）、大添（3字→9字）、喜名（4字→11字）、座喜味（6字→14字）等となっている。20年間に実家のある字から分家等の世帯分離が村全域に拡散的に広がっている傾向を示す。

■当該字以外での自治会加入動向

小学区	自治会	「自治会」加入者の当該字以外の字数			当該字以外の字 (H26年の加入者数が多い順)
		平成6年 (字)	平成26年 (字)	増減率 (%)	
①小規模自治会 (100世帯以下)	上地	2	5	150.0	座喜味、古堅、渡慶次、高志保、波平
	長田	5	6	20.0	伊良皆、大木、比謝、楚辺、大湾、古堅
	比謝疔	5	9	80.0	大湾、古堅、比謝、大木、上地、伊良皆、宇座、楚辺、座喜味
	親志	2	5	150.0	座喜味、喜名、宇座、儀間、大木
	牧原	5	7	40.0	比謝、伊良皆、大木、古堅、大湾、楚辺、波平
②中規模自治会-1 (100～300世帯)	比謝	5	6	20.0	大木、伊良皆、大湾、古堅、楚辺、座喜味
	大湾	6	11	83.3	比謝、古堅、大木、比謝疔、伊良皆、渡具知、長浜、波平、渡慶次、座喜味、喜名
	都屋	7	9	28.6	座喜味、楚辺、波平、比謝、長浜、高志保、大湾、古堅、大木
	大添	3	9	200.0	伊良皆、座喜味、高志保、都屋、波平、大湾、瀬名波、大木、宇座
	古堅	7	7	0.0	大湾、大木、伊良皆、楚辺、長浜、渡具知、座喜味
	儀間	8	16	100.0	長浜、渡慶次、瀬名波、高志保、波平、楚辺、宇座、都屋、大木、喜名、比謝、大湾、渡具知、座喜味、上地、伊良皆
	伊良皆	3	10	233.3	座喜味、大湾、高志保、長浜、瀬名波、波平、大木、上地、楚辺、古堅
	大木	5	7	40.0	伊良皆、比謝、楚辺、古堅、都屋、高志保、座喜味
③中規模自治会-2 (300～500世帯)	渡具知	5	11	120.0	比謝、古堅、大湾、大木、喜名、楚辺、伊良皆、高志保、波平、座喜味、比謝疔
	瀬名波	10	12	20.0	長浜、瀬名波、波平、古堅、大湾、高志保、座喜味、楚辺、喜名、伊良皆、儀間、上地
	長浜	6	12	100.0	高志保、瀬名波、波平、座喜味、伊良皆、渡慶次、喜名、楚辺、大湾、都屋、大木、古堅
	宇座	11	14	27.3	長浜、高志保、波平、渡慶次、瀬名波、楚辺、伊良皆、座喜味、儀間、喜名、都屋、古堅、比謝、大木
	渡慶次	14	13	-7.1	長浜、瀬名波、高志保、波平、儀間、楚辺、伊良皆、古堅、座喜味、喜名、大湾、都屋、比謝
	高志保	9	13	44.4	波平、長浜、上地、楚辺、伊良皆、渡慶次、宇座、瀬名波、座喜味、大湾、古堅、渡具知、都屋
④大規模自治会 (500世帯以上)	座喜味	6	14	133.3	喜名、上地、波平、伊良皆、古堅、渡慶次、楚辺、大湾、都屋、高志保、大木、比謝疔、比謝、長浜
	喜名	4	11	175.0	座喜味、伊良皆、古堅、波平、楚辺、長浜、大木、都屋、高志保、比謝、大湾
	楚辺	7	13	85.7	都屋、大木、座喜味、長浜、波平、比謝、伊良皆、古堅、大湾、喜名、高志保、瀬名波、渡慶次
	波平	13	17	30.8	上地、高志保、座喜味、喜名、都屋、楚辺、古堅、伊良皆、大木、比謝、大湾、長浜、瀬名波、渡慶次、儀間、渡具知、宇座

注1:「当該字」とは、住所表記の字のことである。

資料:「役場資料」

注2:「大添」は、住所表記の字が「楚辺」であるため、「楚辺」以外の字の数となっている。

2. 自治会の組織形態と活動内容

①自治会運営機構

読谷村には、伝統的な住民自治組織である22の自治会（字行政区）と、宅地開発で村外から移動してきた住民を中心に結成された大添・横田の2自治会がある。

自治会の運営は、自治会長、書記、会計を中心に、それを補佐する用務員を置く体制を基本としている。加えて、自治会運営を審議する組織として「審議委員会」・「区政委員会」・「行政委員会」等の委員会組織が設置されている。具体的な情報伝達や行政からの広報などの配布については、班・組が組織されており、各世帯へは班長又は組長がその役割を担っている。例えば、波平は5班25組体制である。

上記の組織形態の基に、月1回程度の「審議委員会」等の開催、役員選出、予算・事業計画等を取り決める自治会の最高議決機関である総会がある。「総会」については、「戸主会」や「区民常会」等の呼称を使用する自治会もあり、自治会によっては毎月開催し、自治会行事の報告や決定事項の審議等を行っているところもある。

以上のような運営形態を基本に自治会の運営が行われているが、自治会の規模等の違いにより、例えば、小規模な自治会では自治会長が非常勤の形態のところが多い。

■自治会運営機構の状況

小学校区	自治会	役員体制	班数	自治会長の勤務形態
①小規模自治会 (100世帯以下)	上地	自治会長、書記・会計、行政委員会(3名)	-	非常勤
	長田	自治会長、書記、会計、審議委員会(12名)	2	非常勤
	比謝缸	自治会長、会計、行政委員会(7名)	-	非常勤
	親志	自治会長、書記、会計、用務員、区政委員会(11名)	1	半日
	牧原	自治会長、書記・会計、用務員、行政委員会(15名)	-	常勤
②中規模自治会-1 (100～300世帯)	比謝	自治会長・会計、書記・使丁、審議委員会(29名)	4	常駐
	大湾	自治会長、書記・会計、用務員、運営審議委員会(17名)	5	常駐
	横田	自治会長、副会長、書記、会計・用務員、役員会(25名)	10	半日
	都屋	自治会長、書記、用務員、審議委員会(10名)	3	常駐
	大添	自治会長、書記、会計、行政委員会(25名)	5	常勤
	古堅	自治会長、書記・会計、用務員、評議員会(12名)	6	常駐
	儀間	自治会長、書記、用務員、行政委員会(11名)	4	常駐
	伊良皆	自治会長、書記・会計、用務員、評議員会(4名)、行政委員(10名)	5	常駐
③中規模自治会-2 (300～500世帯)	波具知	自治会長、書記・会計、用務員(2)、審議委員会(32名)	3	常駐
	瀬名波	自治会長、書記、会計、用務員、区政委員会(28名)	6	常駐
	長浜	自治会長、書記・会計、区長代理、用務員、行政委員会(23名)	5	常駐
	宇座	自治会長、書記、用務員、区政委員会(38名)	5	常駐
	渡慶次	自治会長、書記、用務員(2)、行政委員会(15名)	7	常駐
	高志保	自治会長、書記・会計、区長代理、用務員、審議委員会(38名)	4	常駐
④大規模自治会 (500世帯以上)	座喜味	自治会長、書記、会計、用務員、行政委員会(26名)	5	常駐
	喜名	自治会長、書記、会計、用務員、審議委員会(41名)	8	常駐
	楚辺	自治会長、書記、会計、使丁(2)、審議委員会(36名)	4	常駐
	波平	自治会長、書記、用務員、審議委員会(37名)	5	常駐

資料:「各自治会提供資料」

以下では、自治会規模別に、例示として親志（小規模自治会）、比謝（中規模自治会-1）、高志保（中規模自治会-2）、喜名（大規模自治会）における審議委員会（区政委員会）の構成をそれぞれに整理したものである。

小規模自治会の親志の委員数は 11 名であり、比謝が 29 名、高志保が 38 名、喜名が 41 名となっている。必ずしも自治会の規模により委員数が多くなるとは一概に云えないが、班数（組数）や各種団体数等の自治会規模に関わる要因によるところが大きい。それに加え、各自治会の事情に応じた自治会長推薦の審議員などの多少が影響していると思われる。

いずれにしても、自治会の規模の大小に関わらず、下表から伺えることはそれぞれの組織で物事の意志決定を行う枠組みを整えていることを示しているといえる。

■審議委員会構成（親志）

役職等	人員	備考
自治会長	1	
書記	1	
会計	1	
班長	1	・用務員兼任
相談役	1	
多幸山の会会長	1	・ゆいまーる共生事業
体協会長	1	
女性部会長	1	
青年部会長	1	
書記補佐	2	
	11	

資料：「各自治会提供資料」

■審議委員会構成（比謝）

役職等	人員	備考
自治会長	1	・会計兼務
書記	1	・使丁兼務
班長	4	・1班～4班
老人会	1	
婦人会	1	
ゆうなの会	1	・ゆいまーる共生事業
青年会	1	
子ども会	1	
会計監査委員	1	
総務委員	4	
青少年指導員	1	
前区長・区長推薦委員	14	
	29	※自治会長と書記除く

資料：「各自治会提供資料」

■ 審議委員会構成（高志保）

役職等	人員	備 考
自治会長	1	
自治会長代理	1	
書記	1	・会計兼務
村議会議員	1	
農業委員	1	
一般審議委員	10	
班長	8	・4班（各班2名）
若保の会会長	1	・老人クラブ
婦人会会長	1	
高成会会長	1	
子ども育成会会長	1	
体育協会会長	1	
青年会会長	1	
馬舞保存会会長	1	
古典音楽芸能保存会会長	2	
監査委員	2	
顧問	2	
議長・副議長	2	
	38	

資料：「各自治会提供資料」

■ 審議委員会構成（喜名）

役職等	人員	備 考
自治会長・公民館長	1	
書記	1	
会計	1	
用務員	1	
班長	8	・1班～8班
区長推薦審議員	2	
村農業委員	1	
村議会委員	2	
班選出審議委員	8	・1班～8班
体協長	1	
伝統芸能保存会長	1	
若竹会長	1	・老人クラブ
協友会長	1	
成人会会長	1	
婦人会会長	1	
教育隣組会長	1	
福寿会長	1	・ゆいまーる共生事業
青年会長	1	
顧問	5	
監査員	2	
	41	

資料：「各自治会提供資料」

②住民活動

各自治会には自治会行事に関わりながら、なおかつ、それぞれの独自の社会活動を行う団体が存在する。

基本的に、「老人会」、「婦人会」、「青年会」、「子ども会」の年齢階層別の団体をはじめ、伝統芸能に関わる「芸能保存会」、農業生産関連に関わる「農事実行組合」、地域福祉（ゆいまー共生事業に関わる団体（例えば、長浜・浜べの会）、社会教育に関わる「体協」などがある。

最近では、渡具知の「自主防災会」にみられる防災関連の団体が組織される新たな動きも見られる。加えて、規模が大きな自治会では、「健康体力推進部」・「生活環境部」・「育成保安部」等の専門部会を設置するところもある。（楚辺の事例、新たに「広報委員会」・「諸行事検討委員会」等を創設する動きもある）

「老人会」、「婦人会」、「青年会」、「子ども会」の団体については、「第5章 各種団体の活動動向」で詳細するが、以下では全体的な状況を整理している。

- ・ 会員数の状況については、「老人会」を除き、「婦人会」、「青年会」、「子ども会」は減少傾向にある。
- ・ 老人会は、小規模自治会の2自治会で休止。
- ・ 婦人は、小規模自治会を中心に6自治会で休止・未存続。
- ・ 青年会は、小規模・中規模自治会の8自治会で休止・未存続。また、以前は当該自治会のみで会員を構成していたが、現在では村内全域を対象にそれぞれの自治会が募集をする形態となっている。
- ・ 子ども会は、南部地域を中心に10自治会で休止・未存続。
- ・ 「婦人会」、「青年会」、「子ども会」については、会員数の減少と併せて役員の選出が大きな課題となっている。

■小学校区別各種団体状況

行政区	自治会	各種団体	団体
①小規模自治会（100世帯以下）	上地	老人会	1
	長田	老人会、婦人会、子ども会、わかば会	4
	比謝町	比謝川の会、体協	2
	親志	仙寿会、女性部、子供育成会、親友会、体協、多幸山の会	6
	牧原	老人会、女性会、子供会、まきばる会（青年会）	4

資料：「各自治会提供資料」

(続く)

行政区	自治会	各種団体	団体
②中規模自治会-1 (100～300世帯)	比謝	老人会、婦人会、青年会、子ども育成会、ゆうなの会	5
	大湾	百才会、婦人会、青年会、父母の会、わぶくの会、体協	6
	横田	—	—
	都屋	海原会、婦人会、青年会、子供育成会、芸能研究会、体協	6
	大添	千歳会、萬代会、伝統芸能保存会、体協	4
	古堅	老人会、婦人会、子供父母会、芸能保存会、体協	5
	儀間	光命会、婦人会、青年会、子供会、伝統芸能保存会、寿の会、農事実行組合、体育協会	8
	伊良皆	老人会、婦人会、青年会、子供育成会、農事実行組合、寿楽の会、遺族会、芸能保存会、読谷飛行場地主会、体育協会	10
大木	若松会、婦人会、子供会、わかさ会、農業実行組合、体協	6	
③中規模自治会-2 (300～500世帯)	渡具知	老人会、婦人会、青年会、子供会、泊城の会、自主防災会	6
	瀬名波	長生会、婦人会、青年会、子ども育成会、泉の会、二三四五会、伝統芸能保存会、リキトーンズ、農事実行組合、体協	10
	長浜	老人会、婦人会、青年会、子供会、芸能保存会、浜への会、農事実行組合	7
	宇座	老人会、婦人会、青年会、子供育成会、芸能保存会	5
	渡慶次	がんじゅークラブ、婦人会、青年会、子ども育成会、農業同好会、体育振興会、文化財保護委員会、青洋会、健青会	9
	高志保	若保の会、婦人会、青年会、子ども育成会、高成会、馬舞保存会、古典音楽芸能保存会、体育協会	8
④大規模自治会(500世帯以上)	座喜味	老人クラブ友愛会、婦人会、青年会、子供会育成会、城寿の会、棒保存会、交通安全友の会、古典芸能保存会、生活研究会、字誌編集委員会、農事実行組合、遺族会、紅の里まるみの会、体育協会	14
	喜名	若竹会、婦人会、青年会、教育隣組、協友会、成人会、福寿会、伝統芸能保存会、体協	9
	楚辺	老人クラブ若松、婦人会、青年会、子ども育成会、芸能保存会、クラガ一会、遺族会、水利組合、体育振興会	9
	波平	老友会、婦人会、青年会、子ども育成会、くとぶち会、伝統芸能保存会、農事実行組合、体育振興会、振興会	9

資料：「各自治会提供資料」

③年間行事

各自治会では、年間を通して様々な行事が実施されており、生年祝い・敬老会・エイサー・豊年祭などがある。規模の大きな自治会では、区民運動会の開催が40回を超すところや各自治会の主催による祭りも実施されている。

加えて、清掃活動・農事関係・地域福祉・防災訓練、及び清明祭やウマチーなどの祭祀に関わる行事が年間を通して執り行われている。

一方、協力事業としては、ゆいまーる共生事業やチャレンジデーなどが、ほとんどの自治会で実施されている。特に、ゆいまーる共生事業は読谷村の独自性を体現するものとして、上地を除き、各自治会でボランティア組織が結成されている。

<小規模自治会>

小規模自治会における年間行事をみると、敬老会、エイサー、区民親睦のための行事をはじめ、清掃活動、祭祀等の活動が行われている。親志自治会では独自の「おやし灯籠まつり」の開催をはじめ、特産品開発等の取組みも見られる。

次に、牧原自治会の年中行事を月別にみると、毎月の戸主会（約80世帯）の開催をはじめ、拝所の清掃活動、村行政施策の協力事業など、毎月何らかの活動が取組まれている。

■年間活動内容

	主な行事	清掃・農事・福祉・防災等	祭祀等
上地			清明祭 初御願（旧1月1日）
長田	盆踊り 敬老会 バスツアー（区民親睦） バーベキュー（区民親睦）	ゆいまーる共生事業	
比謝砦	視察研修（6月） 敬老行事（9月）	ゆいまーる共生事業	慰霊祭
親志	親志エイサー 敬老会 おやし灯籠まつり（第4回） 親志区区民スポーツ大会 トリムマラソン&餅つき大会 視察（平成26年度より） 村ハーリー大会（平成26年度より）	ゆいまーる共生事業 区内清掃 特産品開発会議	御願解ち 菊酒 親志エイサー前の奉納演舞
牧原	各種団体グランドゴルフ大会 各種団体ボウリング大会 エイサー（子供会） 学事奨励会 野外学習 敬老会	ゆいまーる共生事業 各種団体清掃作業 （年中行事、チチェーン、坊主ガー、ウカマ、児童公園、公民館）	御願解ち 初御願 チチェーン（旧9月9日）

資料：「各自治会提供資料」

■年中行事（平成 25 年 4 月～26 年 3 月）牧原

月	日	行 事	月	日	行 事
4月	14 25 29	臨時区民総会 戸主会 区長引継ぎ	10月	11 13 19 25	チチェーン・ボウジガー草刈作 チチェーン・フェンス内での拝み 老人運動会 戸主会
5月	8 17 25 29 30	第1回行政委員会 火のかんの拝み 戸主会 チャレンジデー、グランドゴルフ (老人会) 嘉手納弾薬庫 農耕バス説明会	11月	2 6 25	第39回読谷まつり ゆいまーる共生事業 戸主会
6月	6 8 9 23 25	行政改善についての説明会 ゆいまーる共生事業 老人会 児童公園清掃 学事奨励会・グランドゴルフ大会 戸主会	12月	5 22	第3行政委員会 戸主会
7月	10 13 25 29	牧原老人会定例会 スリー語やびら しまくとば 戸主会 夏休みラジオ体操初め	1月	19 24 25	新年会、餅つき大会、凧揚げ大会 ウグワンブトッチ 戸主会
8月	4 21 24 25	チチェーン・ボウジガー草刈作業 青年会エイサー(村外に住む牧原 出身者へ) まきばる会バザー・青年会エイサ ー 戸主会	2月	7 8 20 25	ゆいまーる共生事業 初ウガン 視察研修 戸主会
9月	6 22 25	第2回行政委員会 敬老会、グランドゴルフ、観月会 戸主会	3月	25 31	戸主会 平成 25 会計年度終了

資料：「各自治会提供資料」

<中規模自治会-1>

中規模自治会-1における年間行事をみると、小規模自治会同様に敬老会やエイサーに加え、生年祝いや学事奨励会を催す自治会が増えてくる。また、比謝では「ひじゃ朝市」の開催、都屋・大添における防災訓練などの取組みも見られる。

次に、伊良皆自治会の年中行事を月別にみると、毎月の評議委員会（4名）の開催をはじめ、年2回の行政委員会（10名）が開かれている。班分担による年2回の部落拝所清掃作業、御願等の祭祀行事、村行政施策の協業事業など、毎月何らかの活動が行われている。

■年間活動内容（中規模自治会-1）

	主な行事	清掃・農事・福祉・防災等	祭祀等
比 謝	ひじゃ朝市(第2・第4土曜日) 「父の日」グランドゴルフ大会 寿クラブGG大会 比謝まつり(第五回) 新春もちつき大会・グランドゴルフ大会	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー カラオケ歌い隊(毎週月曜日) 寿クラブ清掃作業 婦人会花壇掃除 比謝草刈り隊 婦人会「母の日」バス視察 役員視察研修	清明祭 慰霊祭 旗スガー 旧正月初拝み
大 湾	父の日グランドゴルフ大会 夕涼み会 敬老会 出産祝 午歳合同祝賀会	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー カーそうじ(共同作業) 共同作業 公民館職員視察研修	清明祭 慰霊祭 旗スガー
横 田	自治会レク・バスツアー 夏祭り 敬老祝賀会 トリームマラソン・餅つき大会	清掃活動	
都 屋	学事奨励会 エイサー祭り 敬老会 グランドゴルフ大会 防災訓練	ゆいまーる共生事業 区民清掃	慰霊祭
大 添	学事奨励会 総合防災訓練 大添まつり 敬老祝賀会 新春の集い もちつき大会	ゆいまーる共生事業 清掃活動 30周年記念誌編集委員会 健康講座	
古 堅	学事奨励会 獅子舞 エイサー 敬老会 生来改め(出生祝) 新年会	ゆいまーる共生事業 泉井清掃 共同作業(年2回) 字展示会	神御清明 慰霊祭 山田拝み 泉井拝み カンカー拝み ナンカヌシーク拝み
儀 間	学事奨励会 第17回レディース・第15回 メンズゲートボール大会 区民運動会 生年エイサーまつり 敬老祝、出生祝 クリスマス会(子供育成会) 初興しゲートボール大会 役員研修会	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 区民清掃 地域保全活動 山芋展示会 共進会	慰霊祭 7月御願 解御願 初御願
伊良皆	エイサー 十五夜語れー トーカチ 敬老会 十五夜あしび 十三祝	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 部落拝所清掃 やまんむスーブ	清明祭 五月ウマチー 慰霊祭 旗スガシー 旧十五夜御願 火ゲージ 七廻るー 初御願 豚カンカー 二月ウマチー 鶏カンカー 牛カンカー

■続く（中規模自治会-1）

	主な行事	清掃・農事・福祉・防災等	祭祀等
大 木	各種団体ゲートボール大会 区民運動会 エイサー 敬老会 生年合同祝 区民ポーリング大会	ゆいまーる共生事業 各種団体清掃作業 ジャガイモ勝負 山いも勝負	井戸御願 慰霊祭 徳武佐祭 銅像浄め

資料：「各自治会提供資料」

■年中行事（平成 25 年 4 月～26 年 3 月）伊良皆

月	日	行 事	月	日	行 事
4月	5 12 14 20 24	評議委員会 行政委員会 公民館及び各種団体の監査 清明祭（公民館） 区民定期総会	10月	8 11 11・25 19	評議委員会 カジマヤー 寿楽の会 読老連運動会
5月	7 10・29 12 17 29	評議委員会 寿楽の会（ゆいまーる） 狂犬病予防注射 種馬鈴薯注文締め切り チャレンジデー	11月	2・3 7 8・22 12 17	読谷まつり 評議委員会 ゆいまーる 火ゲージ 部落拝所清掃（3・5班）
6月	5 9 14・28 23 23	評議委員会 部落拝所清掃（1・2・4班） 寿楽の会（ゆいまーる） 五月ウマチー 戦没者慰霊追悼式（慰霊之塔）	12月	3 8 13 15 26	評議委員会 部落共進会・忘年会 ゆいまーる 伊良皆区やまんむスーブ ゆいまーる（忘年会）
7月	5 12 16 21 26	評議委員会 寿楽の会（村内視察） 行政委員会（行政改善役場より） 部落役員研修（北部） 寿楽の会（がんじゅー教室）	1月	7 10 17 23 27	牛カンカー・評議委員会 ゆいまーる 中間監査 区民臨時総会（規則の改正） 七廻るー
8月	2 5 9・28 13 25 26	特定健診 評議委員会 ゆいまーる タナバタ（旗スガシー） 村エイサー祭り（青年会参加） 伊良皆区中間監査	2月	2 6 4・14 18・26 28	初御願（ハチウクシー）・十三祝 評議委員会 ゆいまーる 選挙管理委員会（区長満了） ゆいまーる
9月	3 5 8 9 12 15 19 21	十五夜語れー 評議委員会 村陸上競技大会（参加） 鶏カンカー トーカチ（米寿祝） 伊良皆区敬老会 旧十五夜御願 十五夜あしび	3月	5 5 10 15 18 28	評議委員会 補助金申請締切（各種団体） 豚カンカー 二月ウマチー ゆいまーる（誕生会） ゆいまーる（総会）

資料：「各自治会提供資料」

<中規模自治会-2>

中規模自治会-2における年間行事をみると、敬老会、エイサー、生年祝い、学事奨励会は基本とし、ほとんどの自治会で区民運動会を開催している。また、渡具知と長浜は自主防災訓練を実施し、渡慶次と高志保は独自のまつりを開催し、独自色が見られる。加えて、農事関連の行事もほとんどの自治会で行われ、祭祀行事も多彩に行われていることが伺われる。

次に高志保自治会の年中行事を月別にみると、年6回の審議委員会をはじめ、「区民常会」（参加者40～50人程度）も2月に1回程度開催されている。教育隣組みによる夏休みの夜間巡回、年齢別ソフトボール大会、高志保まつり、運動会など、自治会独自の取り組みも多く開催されている。

■年間活動内容（中規模自治会-2）

	主な行事	清掃・農事・福祉・防災等	祭祀等
渡具知	旧盆エイサー道シュネー 渡具知区自主防災総合訓練 午年生年合同祝い	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 緑の会定期清掃 共同美化清掃作業（海浜一斉清掃） ミンチェーガー清掃（水利組合） 東日本大震災被災地視察研修 先進地農業視察研修 渡具知山芋スーブ 農業満産祝 年末区民清掃作業	清明祭 慰霊祭 五月ウマチー（2・3・5・6月） 井戸 御嶽拜み
瀬名波	学事奨励会 父の日ソフトボール大会 区民運動会 エイサー 敬老会 合同出生祝 新春ゲーム大会	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 瀬名波ガー清掃 字ブー（区民清掃） 山芋スーブ 馬鈴薯坪堀審査 総合展示会 産業共進会	清明祭、三月ウマチー カンカー（旧4/1） 慰霊祭、五月ウマチー、 六月ウマチー、旗すがし、 大願（旧8/1） カンカー（旧8/1） 用心燈（旧12/1） 御願ブトッチ（旧12/24） 大願（旧2/1）
長 浜	新春トリムマラソン&餅つき 大会 午年生年儀合同祝い 読谷ハーリー大会 第40回長浜区民運動会 エイサー 学事奨励会 敬老会・八月十五夜・出産合同 祝い 自主防災訓練	ゆいまーる共生事業 長浜区総合物産展示会 チャレンジデー 海浜一斉清掃 農事実行組合視察 区民草刈り作業（年2回） 婦人会視察研修 子ども会育成クリスマス会 生け花講習会（婦人会）	二月大御願 字シーミー 清明祭「旗スガシー」 さとうきび満産祝い 慰霊祭
宇 座	学事奨励会 区民運動会 旧盆エイサー 敬老慰安会 生年合同祝	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 産業視察 宇座技能研修 振興会	清明祭 慰霊祭 解御願 初御願

資料：「各自治会提供資料」

■続く（中規模自治会-2）

	主な行事	清掃・農事・福祉・防災等	祭祀等
渡慶次	父の日グランドゴルフ交流大会 区民運動会 渡慶次まつり 敬老会	ゆいまーる共生事業 区民一斉清掃（年3回） 産業視察 ばれいしょ審査 チャレンジデー 新春もちつき大会（がんじゅークラブ）	清明祭 三月御祭、五月御祭、六月御祭 カンカー祭、甘藷御主祭 アブシバレー、井の御願 旗スガシ、カンカー祭 ボーシ又御願、八月御祭 獅子之御願、大御願 カママーイ、 解御願、初御願、慰霊祭
高志保	学事奨励会 区民運動会（第41回） 青年エイサー、馬舞 敬老祝、出生祝 若保の会観月会 高志保まつり（第21回） 年齢別ソフトボール大会 生年合同祝賀会	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー クリーン・グリーン・グレイ シャス 婦人会視察研修 審議委員視察研修 がじまる会視察 山芋勝負（第11回） 婦人会料理講習会	清明祭 イモ主祈願 慰霊祭 旗スガシー マチ祈願 水祈願 年末祈願 初祈願

資料：「各自治会提供資料」

■年中行事（平成24年4月～25年3月）高志保

月	日	行 事	月	日	行 事
4月	3	平成24年度会計監査	10月	20	水祈願
	8	顧問・審議委員会、班長顔合わせ		21	字経費徴収日
	14	清明祭		23	高志保まつりリハーサル
	24	高志保区自治会総会		25	若保の会清掃作業
	27	イモ主祈願		27	第21回高志保まつり・共進会 (ゴルフ大会)
			28	第21回高志保まつり(ゲートボール大会)	
			30	水祈願	
5月	20	字経費徴収日	11月	12	生年合同祝い者集まり
	23	がじまる会村外視察		13	がじまる会視察
	26	子ども会育成会学事奨励会		19	審議委員会
	29	チャレンジデー(ウォーキング・ラジオ体操)		20	字経費徴収日
		25		年齢別ソフトボール大会	
			29	区民常会	
6月	5	区民運動会拡大委員会	12月	9	字会計監査②
	9	婦人会視察研修、高政会奉仕作業		11	婦人会日食料理講習会
	11	審議委員会		15	クリーン・グリーン・グレイシャス
	17	住民健診		17	第11回山芋勝負
	18	区民常会		19	若保の会年末ゲートボール大会
	20	字経常費徴収日		20	字経費徴収日
	23	慰霊祭			
7月	8	区民運動会拡大委員会	1月	4	若保の会初ウクシーゲートボール大会
	14	審議委員視察研修		8	生年合同祝賀会リハーサル
	17	教育隣組組長集まり		12	生年(午年)合同祝賀会
	20	字経常費徴収日		20	字経費徴収日
	22	夏休み夜間巡回指導初日(8/31)		23	審議委員会
	28	第41回高志保区民運動会		24	年末祈願
			27	区民常会	
8月	1	婦人会100周年期成会集まり	2月	8	初祈願
	6	審議委員会		11	子ども会育成会6年生を送る会
	8	婦人会料理講習		20	字経費徴収日
	9	6ヶ字ゲートボール大会	23	馬舞保存会国立劇場出演、審議委員会	
	12	区民常会	3月	4	がじまる会ボランティア視察
	20	字経常費徴収日		20	字経費徴収日、若保の会定期総会
22	旗スガシー・エイサー天国	23		高成会定期総会、古典音楽芸能保存会定期総会	
24	青年エイサー・馬舞 名古屋ドーム演舞		25	区民常会	
9月	5	字会計監査①		26	字経費徴収日
	8	マチ祈願、読谷村陸上競技会		27	婦人会定期総会、馬舞保存会定期総会
	9	カンカー祈願		28	審議委員会分散会、子ども会育成会
	11	敬老会余興リハーサル			
	15	敬老会・出生祝			
	18	第21回高志保まつり実行員会①			
	20	字経常費徴収日			
	21	若保の会観月会			

<大規模自治会>

大規模自治会における年間行事をみると、中規模自治会にみられる行事同様に、敬老会、エイサー、生年祝い、学事奨励会、区民運動会、独自まつりを開催している。また、座喜味自治会では班対抗のスポーツ大会、喜名自治会の各種団体ゲートボール大会、楚辺自治会の艦砲唄大会などの特色ある取組みも見られる。加えて、農事関連行事、祭祀行事も多様に実施していることが伺われる。

次に、楚辺自治会の年中行事を月別にみると、行政運営委員会と連絡協議会、農事実行組合定例会が毎月開催されている。また、楚辺公園・前浜清掃が各班分担により実施されている。それに加えて、一年を通し、毎月万遍なく行事が実施されている。

■年間活動内容（大規模自治会）

	主な行事	清掃・農事・福祉・防災等	祭祀等
座喜味	豊年祭 区民運動会（第45回） 学事奨励会 観月会 敬老会 除夜の鐘 生年祝い 各班対抗ソフトボール大会 各班対抗バレー、バスケット、卓球大会 各班忘年会 座喜味城通りふれあいまつり 新・旧役員引き継ぎ会	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 区民清掃（春・夏・秋）、各団体毎月第1日曜日花園清掃 さとうきび満産祝い 総合展示会（第61回） 総合共進会（第61回） じゃが芋坪堀審査 甘藷坪堀審査 山芋スープ	清明祭 三月ウマチー 五月ウマチー 慰霊祭 豊年ウガミ（6月14日） 六月ウマチー 旗スガシー シーシー、 旗スガシー 出生者報告ウガミ（ウバギー） 霜月カンカー 師走ウガン。 初ウガン アガリバナ（旧8月10日） 山田ウガミ
喜名	各種団体ゲートボール大会 区民運動会（第45回） エイサー 敬老会 出生祝	ゆいまーる共生事業 各種団体清掃作業 ジャガイモ勝負 サトウキビ満産祝 山いも勝負 農産物展示会	御願解ち 初御願 清明祭 慰霊祭 カーサレー 旗スガシー 観音堂祭 カンカー
楚辺	区民運動会（第46回） エイサー 楚辺まつり 艦砲唄大会 トーカチ 十五夜 敬老会、カジマヤー 区民ソフトボール大会 楚辺区防災訓練 生年合同祝賀会 楚辺ムーチー（旧12/7） さんしんの日	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 区民大清掃 七御獄・赤犬子宮清掃 楚辺公園・前浜清掃 山芋多収穫審査 鳥取交流 人参・ジャガイモ多収穫	浜下り 清明祭 アブシバレー（旧4/16） 五月ウマチー 合同慰霊祭 六月ウマチー 菊酒 赤犬子スーギ（旧9/20） ムスピー小 シーダチ小
波平	学事奨励会 区民運動会 敬老会、観月会（十五夜） 波平まつり（第29回） 生年合同祝 総躰起大会（第62回）	ゆいまーる共生事業 部落清掃 甘藷坪堀審査 馬鈴薯坪堀審査 甘蔗満歳祝	清明祭 慰霊祭 初御願祭

■年中行事（平成26年4月～27年3月）楚辺

月	日	行 事	月	日	行 事	
4月	1	浜下り	10月	2	菊酒	
	2	4月連絡協議会		6	農事実行組合定例会	
	6	字清明祭		10・24	ディサービス	
	7	農事実行組合定例会		12	七御嶽・赤犬子宮清掃1・3班	
	11・25	ディサービス		13	赤犬子スーギ／旧暦9月20日	
	16	行政運営委員会		16	行政運営委員会	
	20	役職員財産区研修		19	楚辺公園・前浜清掃2班	
	24	5月連絡協議会		21	区民ソフト監督会	
27	さとうきび全刈り審査	23	11月連絡協議会			
5月	7	農事実行組合定例会	26	読谷まつり（24～26日）		
	9・23	ディサービス	11月	2	区民ソフトボール大会	
	14	アプシバレー（旧4/16）		6	農事実行組合定例会	
	16	行政運営委員会		9	甘蔗多収穫／区民負担金徴収	
	18	産業満産祝い		14・28	ディサービス	
	21	6月連絡協議会		16	楚辺防災訓練	
	28	チャレンジデー		17	行政運営委員会	
19	生年祝い懇談会					
6月	1	区民大清掃	22	ムスビー小		
	6	農事実行組合定例会	25	12月連絡協議会		
	12	五月ウマチー	12月	6	農事実行組合定例会	
	13・27	ディサービス		7	公民館年末大清掃	
	15	区民負担金徴収		8	楚辺公園・前浜清掃3班	
	16	行政運営委員会		12・25	ディサービス	
	20	定期区民総会		14	山芋多収穫審査	
	23	合同慰霊祭		16	行政運営委員会	
25	7月連絡協議会	21		スーダチ小		
24	1月連絡協議会					
7月	5	七御嶽・赤犬子宮清掃2・4班	1月	6	農事実行組合定例会	
	6	農事実行組合定例会		9・23	ディサービス	
	10	六月ウマチー		11	第78回生年合同祝賀会	
	11・25	ディサービス		16	行政運営協議会	
	16	行政運営委員会		22	2月連絡協議会	
	19	運動会役員結団式		26	楚辺ヌーチャー／旧暦12月7日	
	22	8月連絡協議会		2月	6	農事実行組合定例会
	23・24	住民検診			7	鳥取交流
26・27	第46回区民運動会	13・27	ディサービス			
8月	2	七夕	15		区民負担金徴収	
	3	楚辺公園・前浜清掃1班	15		人参・ジャガイモ多収穫	
	6	農事実行組合定例会	16		行政運営委員会	
	8・22	ウウケー／ディサービス	20		3月連絡協議会	
	10	ウークイ	3月		4	さんしんの日
	11	エイサー		5	旧暦1月16日	
	18	行政運営委員会		6	農事実行組合定例会	
	23	楚辺まつり／艦砲唄大会		7	定期区民総会	
24	楚辺まつり	13・27		ディサービス		
25	9月連絡協議会	15		楚辺公園・前浜清掃4班		
9月	1	トーカチ（米寿）		16	行政運営委員会	
	6	農事実行組合定例会		27	新旧役員引き継ぎ会	
	8	十五夜	3月	4	さんしんの日	
	12・26	ディサービス		5	旧暦1月16日	
	14	敬老会		6	農事実行組合定例会	
	16	行政運営委員会		7	定期区民総会	
	21	読谷村陸上競技大会		13・27	ディサービス	
	24	10月連絡協議会		15	楚辺公園・前浜清掃4班	
30	カジマヤー	16		行政運営委員会		
27	新旧役員引き継ぎ会					

④自治会費

各自治会においては、自治会活動の基礎的な財源として自治会費（字費）を各世帯から徴収している。

自治会費の徴収規模でみると、各自治会の世帯数等や財産収入等の状況により、100万円以下～900万円以上まで幅がある。最も自治会費の規模が大きい自治会は波平（約970万円）、次いで宇座（約710万円）、座喜味（約690万円）等である。最も規模が小さい自治会は比謝町（約40万円）となっている。

自治会費の算出方法は、基本的に世帯割、人口割、稼働者割等の基準設定により、一世帯当たりの会費を算出している自治会が多い。ただし、自治会規模が小さい牧原や比謝町等については、世帯割のみ（金額は段階を持って設定）で徴収しているところもある。

概ねの一世帯当たり月額、平均約1,150円であり、最も高い自治会は牧原・大湾の2,000円、最も低い自治会は390円となっている。

■自治会費(字費)の算出

単位: %、円

小学校区	自治会	字費	内訳割合			一世帯当たりの月額(概ね)
			世帯割	人口割	稼働者割	
①小規模自治会 (100世帯以下)	上地	-	-	-	-	1,000
	長田	532,800	-	-	-	1,600(※)
	比謝町	396,000	-	-	-	1,400(※)
	親志	851,000	-	-	-	1,200(※)
	牧原	1,272,000	-	-	-	2,000(※)
②中規模自治会-1 (100～300世帯)	比謝	1,942,260	-	-	-	1,165
	大湾	3,394,000	-	-	-	2,000(※)
	横田	1,196,800	-	-	-	550
	都屋	3,629,450	58.0	16.0	26.0	1,650
	大添	1,671,000	100.0	-	-	1,000
	古堅	2,486,305	60.0	-	40.0	1,029
	儀間	3,500,000	55.0	20.0	25.0	1,329
	伊良皆	1,481,570	-	-	-	390
	大木	4,348,500	44.1	-	55.9	1,200
③中規模自治会-2 (300～500世帯)	渡具知	4,116,690	66.6	-	33.4	1,300
	瀬名波	3,652,900	-	-	-	1,250
	長浜	3,824,140	54.1	25.2	20.7	1,000
	宇座	7,083,000	30.0	20.0	50.0	1,050
	渡慶次	4,982,760	60.0	10.0	30.0	1,075
	高志保	6,585,465	55.0	25.0	20.0	1,070
④大規模自治会 (500世帯以上)	座喜味	6,850,970	43.0	39.0	18.0	980
	喜名	6,313,700	54.0	14.0	32.0	850
	楚辺	4,209,310	60.9	20.8	18.3	448
	波平	9,709,300	-	-	-	1,000
		84,029,920				1,147

※上地は、平成25年度は未徴収。

資料:「各自治会提供資料」

※一世帯当たり月額は基本的な金額であり、人口割や稼働者割等に基づいている場合は、各世帯の家族構成により異なる。

※上地、長田、牧原、比謝町、親志、大湾については、世帯割設定金額の一番高い金額。

■自治会費(字費)の算出(詳細)

小学校区	自治会	一世帯当たりの内訳月額(世帯割、人口割、稼働者割)
①小規模自治会 (100世帯以下)	上地	世帯割:1,000円、子ども:100円
	長田	※1,600円×4世帯、1,400円×8世帯、1,000円×7世帯、800円×8世帯、500円×2世帯
	比謝疔	1,400円、1,200円、1,000円、800円、500円、300円の6段階区分
	親志	※1,200円(一般家庭)、1,000円(子供がいる世帯、生活困窮世帯)
	牧原	※2,000円×50世帯、1,000円×6世帯
②中規模自治会-1 (100~300世帯)	比謝	世帯割:10,983円、稼働者割:3,000円(年額:平成26年度より)
	大湾	※2,000円×146世帯、1,000円×1世帯
	横田	※550円×2,176延世帯
	都屋	世帯割:1,300円、稼働者割:300円、未稼働者:50円(子供在学者22歳以下及び70歳以上)
	大添	1,000円×177世帯(内字費免除世帯10世帯)
	古堅	戸数割:8,800円、稼働者割:3,550円(20~64歳(年額))
	儀間	戸数割:11,810円、人口割:1,220円、稼働者割:2,920円(年額)
	伊良皆	世帯割:220円、人口割:50円(16歳以上)、稼働者割:120円(20~60歳(学生除く))
	大木	世帯割:700円、稼働者割:500円
	③中規模自治会-2 (300~500世帯)	渡具知
瀬名波		戸主割:800円、稼働者割:300円(20歳以上64歳、学生含まず)、未稼働者割:150円(左記以外の方20歳以上の学生含む)
長浜		世帯割:800円、人口割:110円、稼働者割:90円(月額)
宇座		戸数割:6,600円、人口割:960円、稼働者割:5,040円(年額)
渡慶次		世帯割:10,000円、人口割:400円、稼働者割:2,500円(年額)
高志保		世帯割:830円、人口割:95円、稼働者割:145円(18~70歳除く)
④大規模自治会 (500世帯以上)	座喜味	世帯割:650円、人口割:170円、稼働者割:160円
	喜名	戸数割:600円、人口割:50円、稼働者割:200円
	楚辺	世帯割:4,200円、稼働者割:760円、人口割:420円(年額)
	波平	世帯割:450円、稼働者割:350円(19~64歳)、未稼働者割:200円(18歳以下、65歳以上)

資料:「各自治会提供資料」

⑤役員報酬

基本的に会長・会計・書記が日常の自治会運営に関わり、用務員は補助的な業務を担うことから、自治会から給与が支払われる。会長については、行政から委託事務を処理する報酬として読谷村からも支給されている。

役員報酬の状況を見ると、会長では100万円以下～約500万円まで金額的には幅があるものとなっている。400万円台が2自治会、300万円台が4自治会、200万円台が9自治会と最も多くなっている。

なお、3自治会の会長は非常勤であり、2自治会は半日の出勤形態となっている。会計については自治会長や書記が兼ねる自治会も多い。

■役員報酬

小学校区	自治会	自治会長			会計	書記	用務員	備考	
		自治会	村委託料	合計				役員手当	退職金
①小規模自治会 (100世帯以下)	上地		1,052,976	1,052,976	-	-	-	○	○
	長田		740,000	740,000	220,000	220,000	114,000	○	×
	比謝町	20,000	96,910	116,910	204,000	-	-	○	○
	親志	600,000	1,727,000	2,327,000	180,000	180,000	720,000	×	×
	牧原	217,655	1,762,345	1,980,000	-	540,000	960,000	○	○
②中規模自治会-1 (100～300世帯)	比謝	480,000	496,898	976,898	-	1,200,000	-	×	×
	大湾	960,000	1,713,696	2,673,696	-	1,680,000	-	○	×
	横田		1,560,000	1,560,000	240,000	120,000	960,000	○	×
	都屋	720,000	1,793,100	2,513,100	-	900,000	540,000	○	○
	大添		1,810,740	1,810,740	480,000	1,776,000	-	○	×
	古堅	636,000	1,816,536	2,452,536	-	1,344,000	948,000	○	○
	儀間	540,000	2,184,000	2,724,000	-	1,440,000	1,080,000	○	○
	伊良皆	1,104,000	2,005,356	3,109,356	-	2,190,000	1,176,000	○	○
②中規模自治会-2 (300～500世帯)	大木	660,000	1,888,212	2,548,212	-	1,320,000	960,000	○	○
	渡具知	660,000	1,978,092	2,638,092	-	1,560,000	1,200,000	×	×
	瀬名波	240,000	2,120,352	2,360,352	360,000	1,440,000	1,080,000	○	○
	長浜	600,000	2,152,488	2,752,488	-	1,500,000	1,200,000	○	○
	宇座	708,000	2,460,000	3,168,000	-	1,728,000	1,080,000	○	○
	渡慶次	1,104,000	2,546,640	3,650,640	-	2,232,000	1,344,000	○	○
④大規模自治会 (500世帯以上)	高志保	1,007,500	3,983,500	4,991,000	-	2,867,500	1,627,500	○	×
	座喜味	360,000	2,880,000	3,240,000	240,000	2,316,000	1,260,000	○	○
	喜名	3,360,000	1,120,000	4,480,000	1,080,000	2,580,000	1,440,000	○	○
	楚辺		3,891,360	3,891,360	3,398,400	2,575,200	1,674,000	○	○
	波平	180,000	4,051,332	4,231,332	-	3,516,000	1,644,000	×	○
		14,157,155	47,831,533	61,988,688	6,402,400	35,224,700	21,007,500		

※楚辺・比謝は、用務員は使丁

資料:「各自治会提供資料」

⑥ 予算規模

自治会全体の予算規模をみると、平成25年度の歳入総額は約3億6千万円、歳出総額は約3億2千万円である。過去10年間の推移をみても、歳入・歳出とも増加傾向にある。

平成25年度における予算規模別自治会数をみると、歳入では3000万円以上が3自治会、2000～3000万円も3自治会、1000～2000万円が8自治会となっている。歳出では、3000万円以上が1自治会、2000～3000万円も4自治会、1000～2000万円が4自治会である。特に、楚辺は歳入・歳出ともに他の自治会を凌駕する予算規模となっている。一方、歳入・歳出ともに500万円以下は、上地、長田、横田、親志などの小規模の自治会が該当するものとなっている。

■ 予算規模別自治会数(平成25年度)

金額	歳入	歳出
500万円以下	4	5
500～1000	6	10
1000～2000	8	4
2000～3000	3	4
3000万円以上	3	1

■ 歳入・歳出

小学校区	自治会	歳入総額			歳出総額		
		平成15年度	平成20年度	平成25年度	平成15年度	平成20年度	平成25年度
① 小規模自治会 (100世帯以下)	上地	1,806,602	2,483,738	3,283,384	926,412	1,361,608	1,265,693
	長田	1,868,585	2,285,763	2,114,342	1,754,636	2,208,203	1,992,396
	比謝町	2,271,636	2,296,423	5,993,592	2,188,666	2,127,280	5,790,631
	親志	2,690,198	3,936,724	4,219,059	2,678,627	3,819,202	3,930,071
	牧原	4,036,810	5,008,100	5,580,194	3,201,874	4,612,037	4,882,048
② 中規模自治会-1 (100～300世帯)	比謝	5,262,624	5,810,210	10,086,594	4,642,441	5,010,438	9,662,794
	大湾	10,433,503	10,205,405	7,920,035	9,457,787	9,341,785	7,205,882
	横田			3,478,667			2,345,647
	都屋	8,750,109	8,408,954	10,868,643	7,570,699	6,582,110	9,040,601
	大添	4,771,099	4,860,838	6,181,371	4,685,437	4,855,960	5,751,769
	古堅	8,700,018	10,359,072	10,328,529	7,684,901	9,311,057	9,204,825
	儀間	7,262,526	7,811,413	7,800,174	6,219,745	6,705,615	6,756,482
	伊良皆	34,337,800	27,388,380	31,381,409	31,790,523	25,765,819	26,212,328
大木	13,752,904	16,747,563	15,358,090	13,013,092	13,598,891	13,412,299	
③ 中規模自治会-2 (300～500世帯)	渡具知	9,436,094	9,985,048	12,060,927	7,865,195	9,269,798	9,736,231
	瀬名波	7,657,803	8,073,945	8,157,867	6,844,360	7,280,306	6,789,337
	長浜	11,940,792	11,590,068	11,637,323	10,521,001	9,143,867	9,728,275
	宇座	13,111,335	15,232,649	17,701,594	11,080,767	10,805,741	15,135,065
	渡慶次	29,572,139	27,545,868	24,721,247	28,177,088	25,656,602	23,334,014
高志保	15,347,319	16,102,098	12,858,967	14,288,149	14,635,437	12,311,418	
④ 大規模自治会 (500世帯以上)	座喜味	18,090,635	18,588,158	20,715,597	17,218,933	17,886,159	17,739,013
	喜名	31,969,590	27,975,234	32,607,695	25,973,304	23,808,349	27,478,223
	楚辺	51,013,000	78,075,916	71,837,785	51,013,000	68,670,225	69,391,435
	波平	35,993,990	24,699,742	27,428,455	27,898,004	20,749,517	23,855,933
		330,077,111	345,471,309	364,321,540	296,694,641	303,206,006	322,952,410

資料:「各自治会提供資料」

⑦行政助成金

各自治会には、村から自治会活動を支援するため助成金が支給されている。特に、これまでの経緯でみると、「部落行政運営補助金」と「納税報償金」を主としていたが、平成23年度に「納税報償金」は終了している。その他、農事実行組合補助金、防犯灯補助金、団体奨励金等が支給されている。「部落行政運営補助金」については、平成12年度までは約5千万円台で推移していたが、それ以後はやや減額され約4千5百万円前後であった。前述した「納税報償金」の終了に伴い3年限定の「激減緩和金交付金」により、平成25年度は約6千万円に増額されている。

基本的には、自治会規模に対応した助成額となっており、大規模自治会では波平・楚辺が600万円、喜名・座喜味が約350～380万円となっている。小規模自治会は約100万円となっている。

コミュニティ助成金については、防犯灯修理、公園清掃、道路管理等に支給されるものであり、平成25年度は村全体では約360万円であり、平成15年度に比べ約3割程度が減額されている。

■行政助成金等

単位：円

	名称	行財政運営補助金			コミュニティ助成金		
		平成15年度	平成25年度	伸び	平成15年度	平成25年度	伸び
		(A)	(B)	(B)/(A)	(A)	(B)	(B)/(A)
①小規模自治会 (100世帯以下)	上地	852,677	851,192	1.0	78,490	54,000	0.7
	長田	918,636	1,076,649	1.2	86,840	58,000	0.7
	比謝缸	944,118	1,169,415	1.2	89,850	63,000	0.7
	親志	992,311	1,180,308	1.2	93,690	69,000	0.7
	牧原	1,073,557	1,173,265	1.1	105,140	73,000	0.7
②中規模自治会-1 (100～300世帯)	比謝	1,347,533	1,597,015	1.2	140,020	99,000	0.7
	大湾	1,599,579	2,352,859	1.5	170,500	119,000	0.7
	横田				171,900	-	-
	都屋	1,635,643	1,973,973	1.2	176,220	126,000	0.7
	大添	1,748,282	1,926,970	1.1	190,390	128,000	0.7
	古堅	1,745,701	2,354,801	1.3	188,630	129,000	0.7
	儀間	1,770,962	2,303,792	1.3	189,060	140,000	0.7
	伊良皆	1,842,266	2,709,889	1.5	196,330	147,000	0.7
③中規模自治会-2 (300～500世帯)	大木	1,957,930	3,166,077	1.6	212,260	149,000	0.7
	渡具知	1,861,771	2,893,742	1.6	201,800	160,000	0.8
	瀬名波	1,932,403	2,239,805	1.2	212,120	159,000	0.7
	長浜	1,939,789	2,270,821	1.2	210,780	162,000	0.8
	宇座	2,342,074	2,967,846	1.3	262,160	192,000	0.7
	渡慶次	2,470,054	3,218,929	1.3	276,920	200,000	0.7
④大規模自治会 (500世帯以上)	高志保	2,733,705	3,741,800	1.4	309,000	227,000	0.7
	座喜味	2,794,337	3,549,092	1.3	317,160	230,000	0.7
	喜名	3,192,465	3,881,699	1.2	361,270	278,000	0.8
	楚辺	3,982,178	6,008,306	1.5	461,390	332,000	0.7
	波平	4,018,016	6,013,854	1.5	469,980	347,000	0.7
		45,695,987	60,622,099	1.3	5,171,900	3,641,000	0.7

資料：「平成15年度統計書」、「平成25年度村提供資料」

※平成25年度は、「税金徴収手数料」が平成23年度に終了したのに伴い、3年限定の「激減緩和金」制度による金額を含む。

⑧歳入内訳

平成25年度の歳入の内訳を「負担金（自治会費）」と「財産収入」からなる自己財源と、「補助金交付金」からなる行政助成の割合でみたのが下表である。

自己財源率をみると、負担金のみでみると村全体では23.1%であり、財産収入を加えると38.3%となり約4割弱を占めるものとなる。

小規模自治会は財産収入がないことから、自己財源率は2割前後である。中規模自治会では、高志保が自己財源率5割を超し、大湾・儀間・瀬名波・宇座が4割を超す。その他は2割前後～4割の範囲内にある。大規模自治会では、財産収入の占めるウエートが大きく、特に喜名はそれを含めると、自己財源率は6割を超す。

財産収入は、基本的には「軍用地料」が大半を占めるが、返還に伴うゴルフ場やホテル等からの賃借料等も含む。なお、財産収入は、各自治会の総会資料で歳入項目の「財産収入」として明記されている金額である。自治会によっては繰入金等で対応している場合もあり、その場合は「その他」として処理している。

一方、行政助成率をみると、村全体では27.7%であり約3割弱である。小規模自治会では6割～7割も占めるところもあり、相対的に行政からの助成の割合が大きい。逆に行政助成率が2割未満の自治会は、楚辺・喜名・渡慶次・宇座・都屋・横田であり、都屋を除けば、比較的自治体規模が大きいところが行政助成率は低い。

■歳入内訳(平成25年度)

	自治会	歳入総額 (A)	負担金 (B)	財産収入 (C)	補助金交付金 (D)	その他	B/A	(B+C)/A	D/A
①小規模自治会 (100世帯以下)	上地	3,283,384			1,324,327	1,959,057	0.0	0.0	40.3
	長田	2,114,342	532,800		1,368,235	213,307	25.2	25.2	64.7
	比謝缸	5,993,592	396,000		4,875,683	721,909	6.6	6.6	81.3
	親志	4,219,059	851,000		1,836,230	1,531,829	20.2	20.2	43.5
	牧原	5,580,194	1,272,000		3,183,715	1,124,479	22.8	22.8	57.1
②中規模自治会-1 (100～300世帯)	比謝	10,086,594	1,942,260	215,500	5,306,250	2,622,584	19.3	21.4	52.6
	大湾	7,920,035	3,394,000		2,516,267	2,009,768	42.9	42.9	31.8
	横田	3,478,667	1,196,800		119,169	2,162,698	34.4	34.4	3.4
	都屋	10,868,643	3,629,450		2,100,336	5,138,857	33.4	33.4	19.3
	大添	6,181,371	1,671,000		3,404,368	1,106,003	27.0	27.0	55.1
	古堅	10,328,529	2,486,305	348,570	4,528,096	2,965,558	24.1	27.4	43.8
	儀間	7,800,174	3,591,090		2,450,174	1,758,910	46.0	46.0	31.4
	伊良皆	31,381,409	1,481,570		6,662,994	23,236,845	4.7	4.7	21.2
③中規模自治会-2 (300～500世帯)	大木	15,358,090	4,348,500	16,500	6,992,318	4,000,772	28.3	28.4	45.5
	渡具知	12,060,927	4,116,690		4,514,722	3,429,515	34.1	34.1	37.4
	瀬名波	8,157,867	3,652,900		2,554,143	1,950,824	44.8	44.8	31.3
	長浜	11,637,323	3,824,140		3,882,791	3,930,392	32.9	32.9	33.4
	宇座	17,701,594	7,106,100	792,174	3,319,492	6,483,828	40.1	44.6	18.8
	渡慶次	24,721,247	4,982,760	34,657	4,406,708	15,297,122	20.2	20.3	17.8
④大規模自治会 (500世帯以上)	高志保	12,858,967	6,585,465		3,077,232	3,196,270	51.2	51.2	23.9
	座喜味	20,715,597	6,850,970		7,945,402	5,919,225	33.1	33.1	38.4
	喜名	32,607,695	6,313,700	13,795,767	6,333,137	6,165,091	19.4	61.7	19.4
	楚辺	71,837,785	4,209,310	38,231,794	11,221,449	18,175,232	5.9	59.1	15.6
	波平	27,428,455	9,709,300	1,998,687	6,875,068	8,845,400	35.4	42.7	25.1
		364,321,540	84,144,110	55,433,649	100,798,306	123,945,475	23.1	38.3	27.7

資料:「各自治会提供資料」

⑨歳出内訳

平成25年度の歳出の内訳を「給与・手当」からなる人件費・手当比率と、「諸活動費」からなる諸活動比率を整理したのが下表である。

人件費・手当比率をみると、村全体では45.9%であり4割を超えている。6割を超える自治会が5自治会、5割を超える自治会が8自治会であり、自治会規模による明確な相関関係はみられない。

一方、諸活動比率をみると、村全体では20.4%であり2割となっている。1割未満の自治会が5自治会であり、相対的に小規模自治会が該当する。逆に、比謝や渡慶次は4割前後を占める。

なお、歳出に占める「諸活動費」については、各自治会で決算資料への計上の形式が異なることから、単純比較とはならない（例えば、体協費については一般会計では処理せず、特別会計で処理している場合もある）。

■歳出内訳(平成25年度)

	自治会	歳出総額 (A)	給与・手当 (B)	諸活動費		計 (C)	その他	B/A	C/A
				活動費	団体助成				
①小規模自治会 (100世帯以下)	上地	1,265,693	524,352	70,000		70,000	671,341	41.4	5.5
	長田	1,992,396	1,315,835		70,000	70,000	606,561	66.0	3.5
	比謝缸	5,790,631	1,629,413	9,500	50,000	59,500	4,101,718	28.1	1.0
	親志	3,930,071	2,126,028	438,817	240,000	678,817	1,125,226	54.1	17.3
	牧原	4,882,048	3,499,000	403,622	140,000	543,622	839,426	71.7	11.1
②中規模自治会-1 (100～300世帯)	比謝	9,662,794	2,984,695	3,726,752	230,000	3,956,752	2,721,347	30.9	40.9
	大湾	7,205,882	4,160,000	159,732	450,000	609,732	2,436,150	57.7	8.5
	横田	2,345,647	600,000	384,358		384,358	1,361,289	25.6	16.4
	都屋	9,040,601	3,486,521	869,428	910,000	1,779,428	3,774,652	38.6	19.7
	大添	5,751,769	2,885,930	682,167	392,485	1,074,652	1,791,187	50.2	18.7
	古堅	9,204,825	5,991,857	436,765	640,000	1,076,765	2,136,203	65.1	11.7
	儀間	6,756,482	4,659,192	338,247	560,000	898,247	1,199,043	69.0	13.3
	伊良皆	26,212,328	11,065,965	1,790,469	3,500,000	5,290,469	9,855,894	42.2	20.2
③中規模自治会-2 (300～500世帯)	大木	13,412,299	8,702,529	1,771,288	480,000	2,251,288	2,458,482	64.9	16.8
	渡具知	9,736,231	5,753,702	753,195	450,000	1,203,195	2,779,334	59.1	12.4
	瀬名波	6,789,337	3,981,645	308,848	1,358,000	1,666,848	1,140,844	58.6	24.6
	長浜	9,728,275	5,355,901	1,390,483	490,000	1,880,483	2,491,891	55.1	19.3
	宇座	15,135,065	6,919,546	824,017	480,000	1,304,017	6,911,502	45.7	8.6
	渡慶次	23,334,014	10,103,459	5,842,490	3,175,000	9,017,490	4,213,065	43.3	38.6
④大規模自治会 (500世帯以上)	高志保	12,311,418	6,825,500	1,684,202	1,050,000	2,734,202	2,751,716	55.4	22.2
	座喜味	17,739,013	9,934,836	2,017,519	2,105,000	4,122,519	3,681,658	56.0	23.2
	喜名	27,478,223	12,990,819	4,673,265	1,650,000	6,323,265	8,164,139	47.3	23.0
	楚辺	69,391,435	23,228,756	5,538,999	6,550,000	12,088,999	34,073,680	33.5	17.4
	波平	23,855,933	9,391,332	5,500,003	1,305,000	6,805,003	7,659,598	39.4	28.5
		322,952,410	148,116,813	39,614,166	26,275,485	65,889,651	108,945,946	45.9	20.4

資料:「各自治会提供資料」

※給与・手合は、自治会長・書記・会計等の役員をはじめ、班長、監査委員等への手当・報酬等も含む。

※波平については、自治会長・書記・会計等の役員以外の報酬等は含んでない。

⑩財産所有等

読谷村においては、戦後村土の約95%が米軍基地に占領されていた経緯から、自治会所有の字有地が基地内に存続する場合は現在でも軍用地料が入る自治会が存在する。基地返還に伴うゴルフ場やホテル用地として跡地が利用されている場合は、その借地料が財産収入として自治会に入ってくる。

加えて、近年の動向として、財産運用の面から村外の米軍用地を購入する事例や、公民館施設を活用し、太陽光発電を設置し売電事業を行う自治会も見られる。

前述したとおり、軍用地等の財産の有無や多少により、自治会運営における自主財源率に大きく影響を与えるものとなっている。

「負担金（自治会費）」と「財産収入」による自己財源（約1億4千万円）をみると、村全体では「負担金（自治会費）」が約8千4百万円（約6割）、「財産収入」が約5千5百万円（約4割）である。村全体の財産収入の9割以上は楚辺と喜名で占める。

第3章 村民アンケート調査とヒアリング調査の概要

1. 村民アンケート調査概要

(1) アンケート調査の目的

村民アンケート調査は、「読谷村自治会振興基礎調査」の一環として、今後の自治会のあり方を検討する上で、村民が考えている「地域コミュニティ（自治会）」に関する意見を把握することを目的としている。※アンケート詳細は別冊資料編参照。

(2) アンケート調査の方法と配布件数と回収件数

○調査時期	:平成26年11月15日～12月5日
○配布・回収方法	:郵送配布・回収
○アンケート配布件数	:2,000件（無作為抽出）
○アンケート回収件数	:640件（32.0%）
	:自由意見（640件のうち136件（21.3%））

(3) 調査項目

(1) 属性に関すること

- ①性別、②年齢、③住まい（字）、④家族構成、⑤職業、⑥住宅の状況、⑦居住年数、⑧今後の居住意向

(2) 「地域」に関するイメージについて

- ①地域の範囲イメージ、②地域の愛着、③現在の地域との関わり方

(3) 自治会への加入・参加状況について

- ①加入の状況、②加入している自治会、③未加入の理由、④自治会加入促進のあり方

(4) 自治会及び諸活動について

- ①自治会・諸活動良い点、②自治会・諸活動の課題、③今後の自治会に期待すること

(5) 自治会以外の団での活動状況について

- ①活動状況、②活動の良い点、③活動の課題

(6) 行政区域について

- ①行政区域の認知度、②制度スタートで感じていること

(7) 自由意見（記述）

(4) アンケート調査結果概要

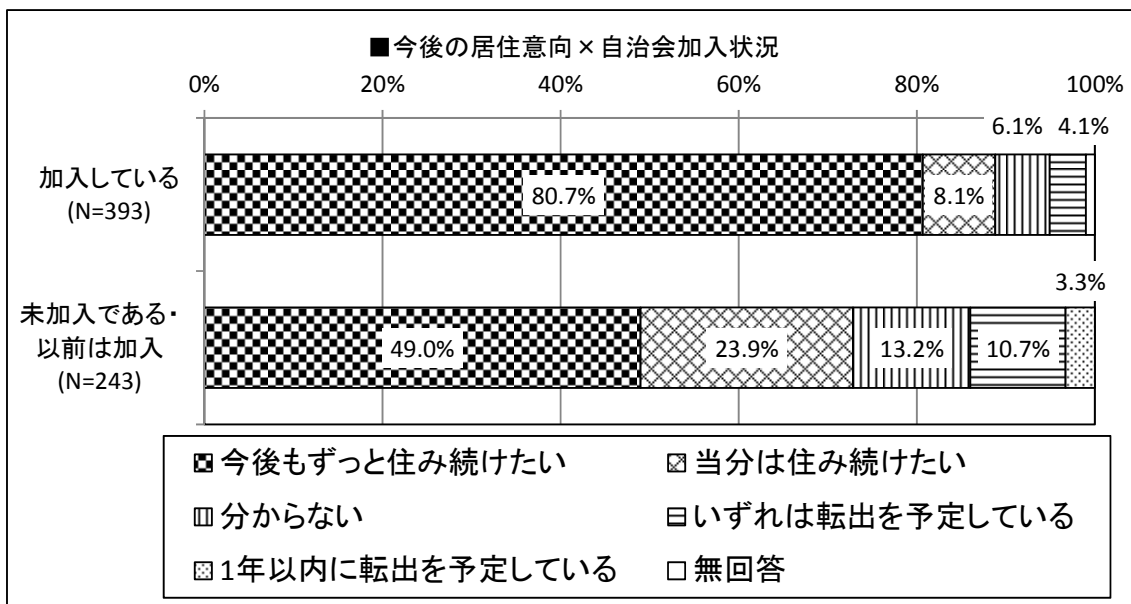
以下では、アンケート調査結果から、自治会加入者と未加入者との比較検討を行った「今後の居住意向」、「地域のイメージ」、「自治会への加入状況」、「自治会加入が増えるために大切なこと」、「自治会活動の良い点」、「自治会活動の課題」、「自治会活動に期待すること」の7項目について、概要を整理している。

1) 今後の居住意向

今後の居住意向については、「今後もずっと住みたい」との回答が68.6%で最も多く、次いで「当分は住みたい」14.1%であり、読谷村にそのまま住みたいという意向（当分は住みたいも含む）をもっている方が全体の8割を占めている。

	件	構成比
1 今後もずっと住みたい	439	68.6%
2 当分は住みたい	90	14.1%
3 分からない	56	8.8%
4 いずれは転出を予定している	42	6.6%
5 1年以内に転出を予定している	9	1.4%
6 無回答	4	0.6%
合計	640	100.0%

- ・「今後の居住意向」を自治会加入・未加入別で見ると、自治会加入者は明確に「今後もずっと住みたい」（約8割）との意向を示している。一方、未加入者は「今後もずっと住みたい」は5割に満たないが、「当分住みたい」（23.9%）を加えると、7割強が住みたいと回答している。
- ・未加入者についても、今後も住みたい意向を示していることから、今後の自治会のあり方を検討する場合の一つの礎として評価できる。



2) 地域のイメージ

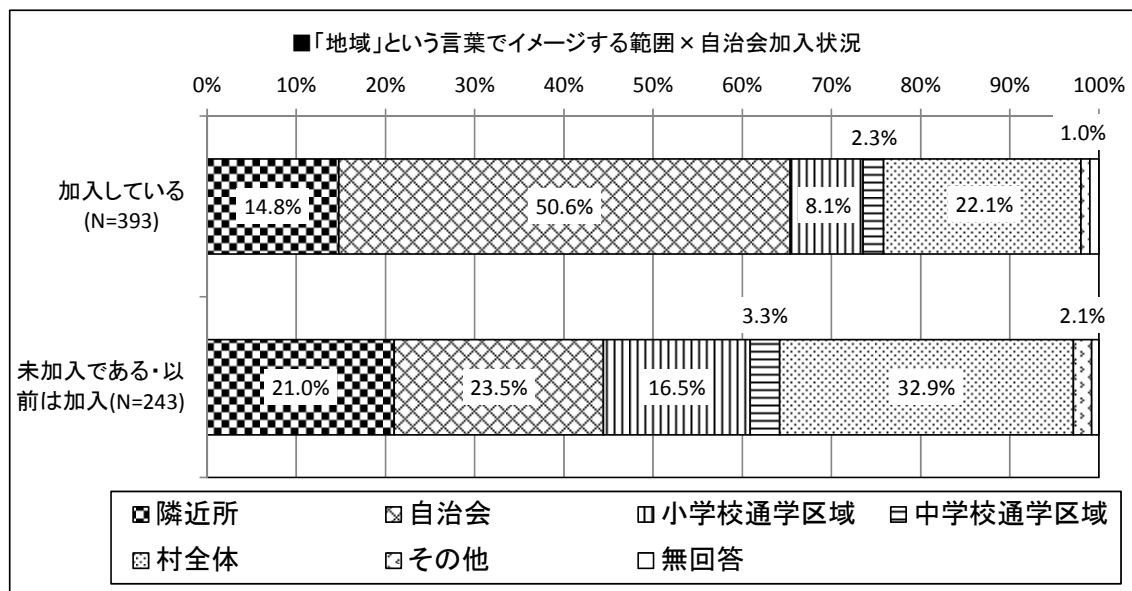
村民の「地域」という言葉でイメージする範囲は、「自治会」が40.2%で最も多く、次いで「村全体」26.1%、「隣近所」17.2%などである。

地域のイメージとしては「自治会」との回答が4割を占めているものの、「村全体」との回答も約3割あった。逆に、小学校や中学校の通学区域などについては1割程度となっている。

■「地域」という言葉でイメージする範囲

		単位: 件、%	
		件	構成比
1	隣近所	110	17.2%
2	自治会	257	40.2%
3	小学校通学区域	72	11.3%
4	中学校通学区域	17	2.7%
5	村全体	167	26.1%
6	その他	9	1.4%
7	無回答	8	1.3%
合計		640	100.0%

- ・「地域に関するイメージ」を自治会加入・未加入別で見ると、加入者は「自治会」、未加入者は「村全体」がそれぞれ最も高く、意向の違いを明確に示している。
- ・「読谷まつり」をはじめとする村レベルの催しを数多く有する特性など、村レベルで一体感を感じる場面があることも推測され、今後の自治会のあり方を検討する場合の足掛かりとなる。



3) 自治会への加入状況

自治会への加入状況を見ると、「加入している」との回答が 61.4%で最も多く、次いで「未加入である」が 35.3%であり、自治会加入者が回答者全体の約6割を占め、未加入者は約4割である。

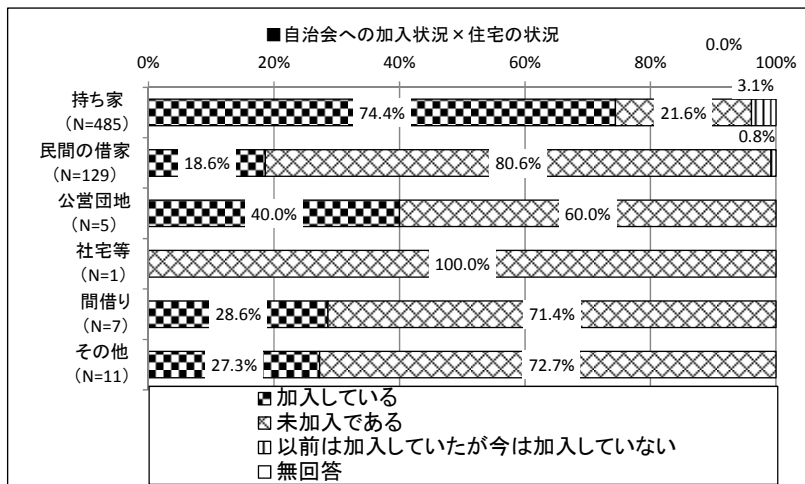
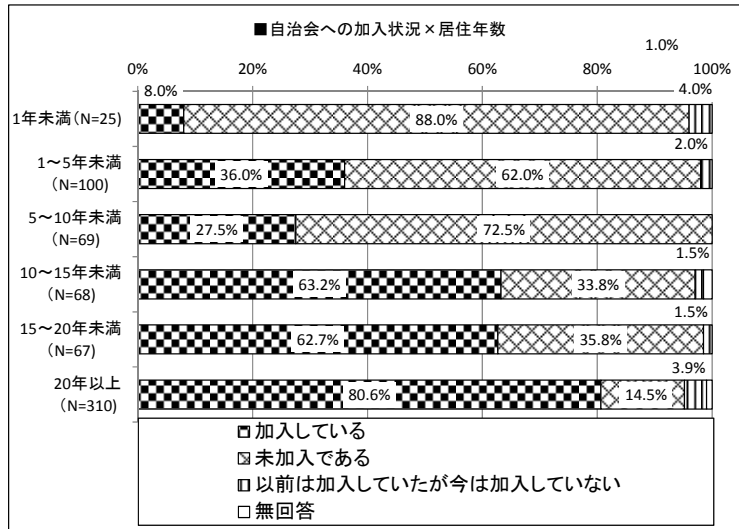
	件	構成比
1 加入している	393	61.4%
2 未加入である	226	35.3%
3 以前は加入していたが今は加入していない	17	2.7%
4 無回答	4	0.6%
合計	640	100.0%

<居住年数>

- ・「自治会加入・未加入の状況」を居住年数で見ると、自治会加入者では「10年以上」の居住年数の割合が高く、未加入者では「10年以下」の居住年数の割合が高い。
- ・特に、「10～15年未満」・「15～20年未満」の居住年数でともに未加入者が3割強を示し、一定期間の居住年数を有する方でも自治会未加入者が存在する。

<住宅の状況>

- ・「自治会加入・未加入の状況」を住宅の状況で見ると、自治会加入者は「持ち家」で7割強、「民間借家」で2割弱であり、これまでの未加入者はアパート住まいの方が多いというところを裏付ける結果となっている。

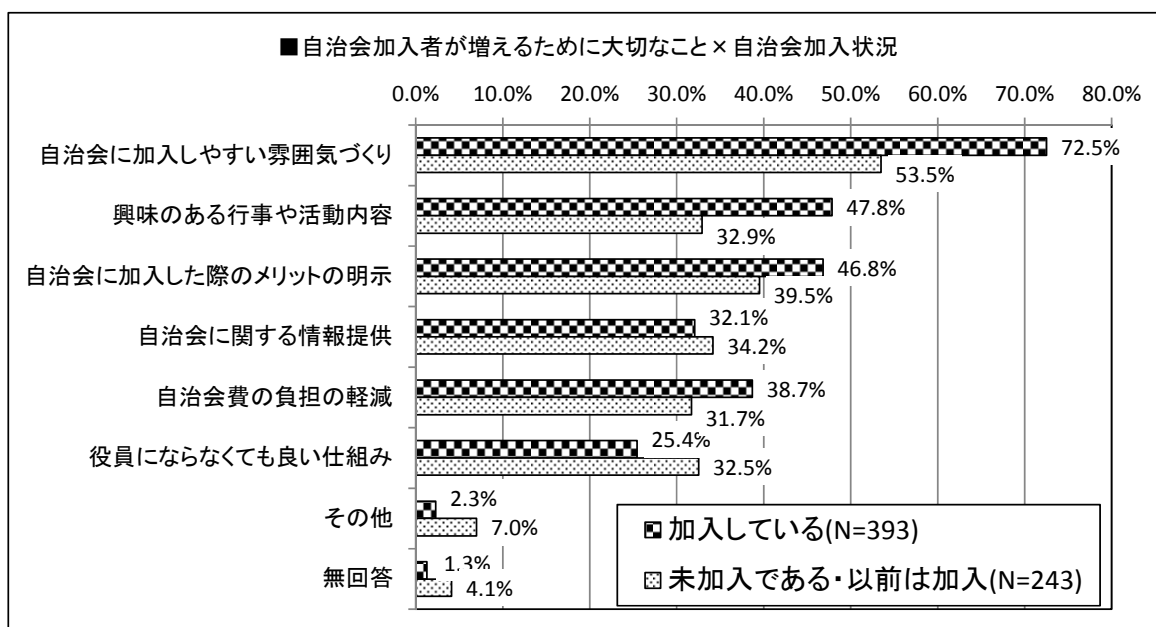


4) 自治会加入者が増えるために大切なこと

自治会加入者が増えるために大切なことについては、どの項目も概ね 30%以上の意向を示し、その中でも「自治会に加入しやすい雰囲気づくり」との回答が 60%以上を占めている。多くの方が、現状の自治会に新たに参加するには敷居が高いと感じている状況が伺える。また、その他の理由としては、活動内容ははじめ、加入した際のメリットの明示や自治会情報提供などを充実させることが重要であると考えている方が多い。

	回答数	構成比
1 自治会に加入しやすい雰囲気づくり	415	64.8%
2 興味のある行事や活動内容	268	41.9%
3 自治会に加入した際のメリットの明示	280	43.8%
4 自治会に関する情報提供	209	32.7%
5 自治会費の負担の軽減	229	35.8%
6 役員にならなくても良い仕組み	180	28.1%
7 その他	26	4.1%
8 無回答	18	2.8%
回答計	1,625	253.9%
回答者計	640	100.0%

- ・「自治会加入者が増えるために大切なこと」を自治会加入・未加入別で見ると、未加入者における「自治会に関する情報提供」や「役員にならなくても良い仕組み」に対する意向が明確に示されており、今後の自治会のあり方を検討する場合の課題の一つといえる。
- ・特に、「自治会に関する情報提供」については、現在の若い世代から子育て世代の情報の入手方法がインターネットによる情報収集が主流であることから、その辺も考慮した情報の提供が重要になると考えられる。



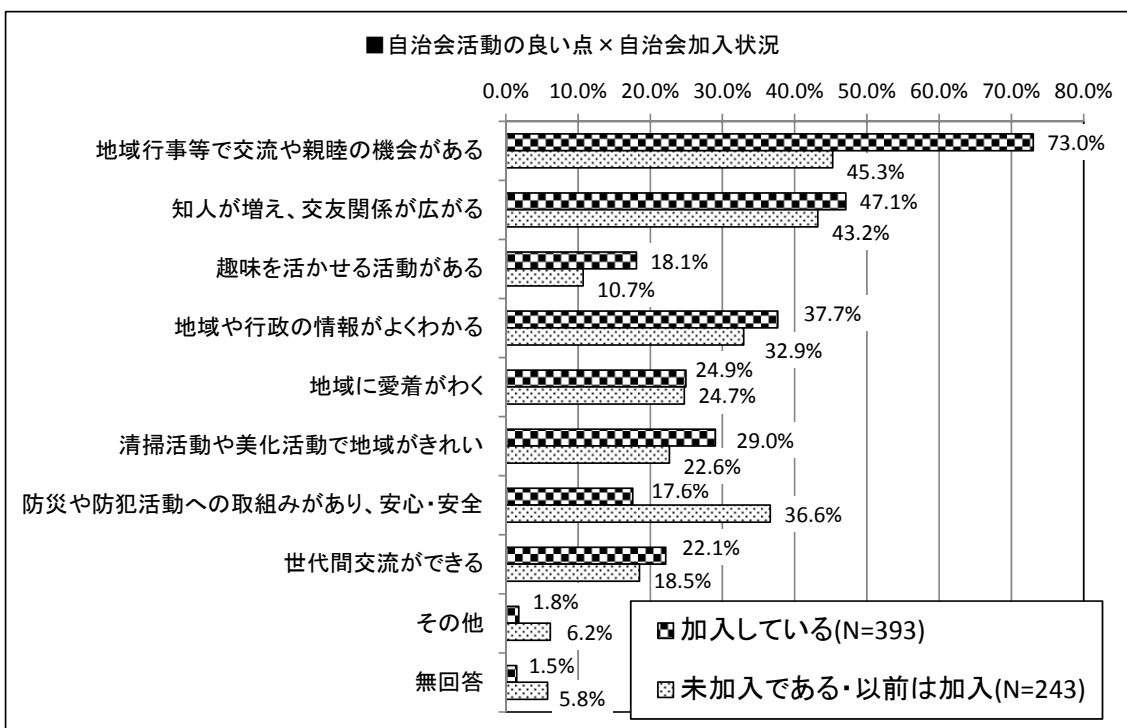
5) 自治会活動の良い点

自治会活動の良い点としては、「地域行事等で交流や親睦の機会がある」が62.0%で最も多く、次いで「知人が増え、交友関係が広がる」45.3%、「地域や行政の情報がよくわかる」35.6%などとなっている。

交流の機会が増えることや交友関係が広がることなどについて、自治会活動の良い点として高く評価している。逆に、「趣味を活かせる活動がある」との回答は他の理由より評価が低いことから、現状として、自治会活動について興味のある活動が少ないと感じている方が多いことが推測される。

	回答数	構成比
1 地域行事等で交流や親睦の機会がある	397	62.0%
2 知人が増え、交友関係が広がる	290	45.3%
3 趣味を活かせる活動がある	97	15.2%
4 地域や行政の情報がよくわかる	228	35.6%
5 地域に愛着がわく	158	24.7%
6 清掃活動や美化活動で地域がきれい	170	26.6%
7 防災や防犯活動への取組みがあり、安心・安全	158	24.7%
8 世代間交流ができる	132	20.6%
9 その他	22	3.4%
10 無回答	23	3.6%
回答計	1,675	261.7%
回答者計	640	100.0%

- ・「自治会活動の良い点」を自治会加入・未加入別でみると、自治会に加入・未加入に関わらず、「交流の機会があり、交友関係が広がる、地域等の情報がよくわかる」との評価は高く、その点については引き続き今後ともブラッシュアップが検討される。
- ・未加入者の特徴としては、防災や防犯に関する意識が高く、それらの活動に関する自治会への評価が高いことから、「防災や防犯」が自治会加入のキーポイントになることが考えられる。



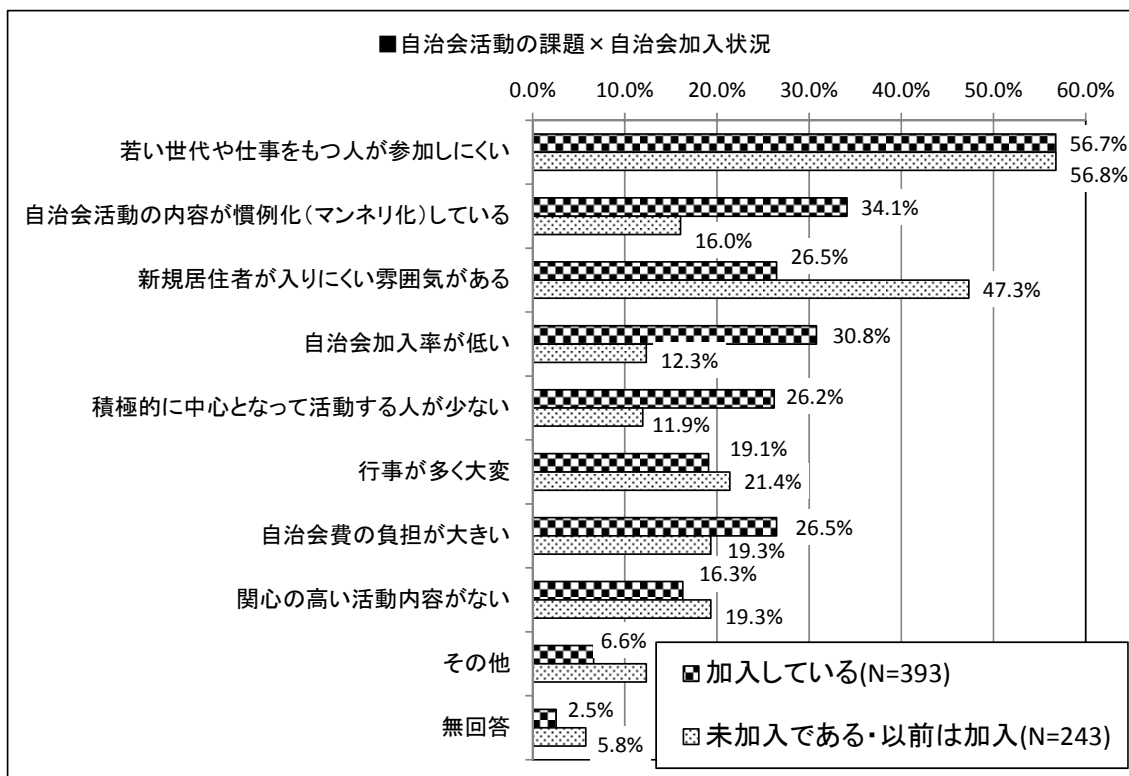
6) 自治会活動の課題

自治会活動の課題としては、「若い世代や仕事をもつ人が参加しにくい」との回答が56.6%で最も多く、次いで「新規居住者が入りにくい雰囲気がある」34.2%、「自治会活動の内容が慣例化（マンネリ化）している」27.0%、「自治会加入率が低い」及び「自治会費の負担が大きい」23.6%などとなっている。

現状の自治会の課題として、「若い世代の参加不足」をはじめ、「中心となって活動する人が少ない」、「新規居住者が入りにくい」など、今後の自治会活動を支える「人材不足」について危機意識を感じていることが伺える。

	回答数	構成比
1 若い世代や仕事をもつ人が参加しにくい	362	56.6%
2 自治会活動の内容が慣例化(マンネリ化)している	173	27.0%
3 新規居住者が入りにくい雰囲気がある	219	34.2%
4 自治会加入率が低い	151	23.6%
5 積極的に中心となって活動する人が少ない	132	20.6%
6 行事が多く大変	127	19.8%
7 自治会費の負担が大きい	151	23.6%
8 関心の高い活動内容がない	111	17.3%
9 その他	56	8.8%
10 無回答	27	4.2%
回答計	1,509	235.8%
回答者計	640	100.0%

- ・「自治会活動の課題」を自治会加入・未加入別でみると、両者とも「若い世代や仕事をもつ人が参加しにくい」ことに対し、明確な意向が示されている。
- ・特に、未加入者については、「新規居住者が入りにくい雰囲気がある」・「行事が多く大変」・「関心の高い活動内容がない」に強い意向が感じられ、今後の自治会のあり方を検討する場合の足掛かりとなる。



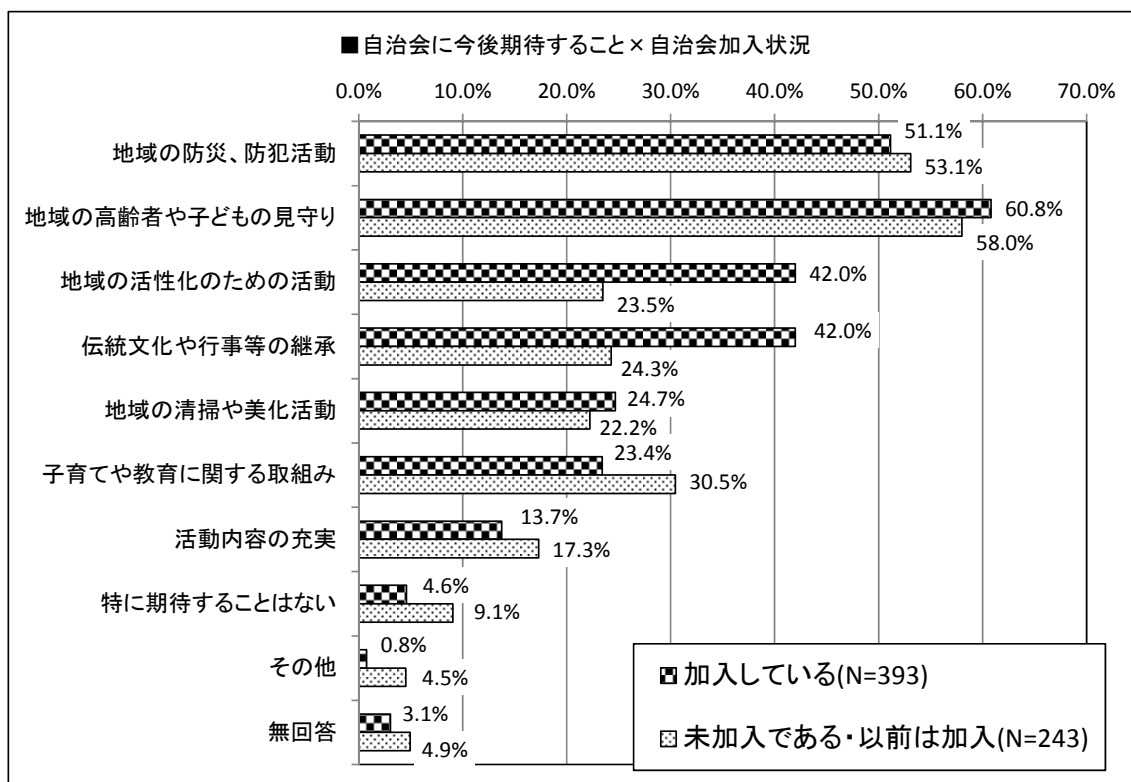
7) 自治会活動に期待すること

自治会に今後期待することについては、「地域の高齢者や子どもの見守り」が 59.5%で最も多く、次いで「地域の防災、防犯活動」51.6%、「伝統文化や行事等の継承」35.5%、「地域活性化のための活動」34.7%、「子育てや教育に関する取組み」26.1%、「地域の清掃や美化活動」23.8%などとなっている。

高齢者や子どもの見守りをはじめとして、防災や防犯活動に関する期待が他の項目に比べ突出して大きくなっている。これらのことから、住民の関心が高いことから手始めに活動を充実させていくことが重要になると考えられる。

	回答数	構成比
1 地域の防災、防犯活動	330	51.6%
2 地域の高齢者や子どもの見守り	381	59.5%
3 地域の活性化のための活動	222	34.7%
4 伝統文化や行事等の継承	227	35.5%
5 地域の清掃や美化活動	152	23.8%
6 子育てや教育に関する取組み	167	26.1%
7 活動内容の充実	96	15.0%
8 特に期待することはない	40	6.3%
9 その他	14	2.2%
10 無回答	25	3.9%
回答計	1,654	258.4%
回答者計	640	100.0%

- ・「自治会に今後期待すること」を自治会加入・未加入別でみると、両者とも「地域の防災、防犯活動」と「地域の高齢者や子どもの見守り」に対し、明確な意向が示されている。
- ・それ以外では、自治会加入者では「地域の活性化のための活動」と「伝統文化や行事等の継承」に対し高い期待が寄せられている。一方、未加入者では「子育てや教育に関する取組み」への期待が高くなっていることから、これらの期待に対する対応を検討する必要がある。



8) 自由意見

自由意見については、アンケート有効回答者 640 人のうち 136 人 (21.3%) が意見を寄せている。

KJ法により大分類すると、概ね以下の6項目に大別される(基本的に個々の回答者の意見をそれぞれ一つの意見として分類。ただし、一人の回答者が明確に複数の意見を記述している場合は再分類。★については、今回のアンケート調査趣旨とは直接的にはやや異なることから「その他」として分類)。

■意見の大分類

1. 自治会の現状について
2. 自治会の必要性について
3. 自治会未加入について
4. 新たな行政区域について
5. 自治会の抱える課題解決に向けたあり方について
6. 各種団体のあり方について
 - ★個別・具体課題について
 - ★その他

①自治会の現状について

- ㊦自治会に対する評価と期待
- ㊧自治会活動に対する不満と負担(区費、役の分担等)
- ㊨自治会活動に対する情報不足からくる意志疎通の欠如
- ㊩自治会への危機感
- ㊪読谷村に対する印象

- ・自治会の現状については、概ね上記の5つの細項目に関する意見がみられる。
- ・特に、「伝統文化や伝統行事等の継承」に代表される自治会活動に対する評価と期待が示されていることが目立つ。
- ・一方で、「区費・自治会費の負担感」あるいは「役職などの輪番による地域活動に対する重圧感」など、自治会活動に対する不満と負担を示す意見もみられる。
- ・加えて、「自治会が何をしているか不明」との意見にみられるように、自治会活動に対する情報不足からくる意志疎通の欠如を指摘する意見がみられる。
- ・また、「個人の自治会離れ、未加入世帯の増加」などから、将来の自治会活動の継続に不安を示す意見がある。
- ・読谷村全体の印象については、「独自の文化がある」あるいは「独特な地域」、「各自自治会の行事が多い」、「閉鎖的」など、肯定的な意見から否定的な意見まで幅広い意向がみられる。

②自治会の必要性について

- ㊦新たな関係づくり
- ㊧安全・安心な地域環境づくり
- ㊨持続的な地域づくり

- ・自治会の必要性については、概ね上記の3つの細項目に関する意見がみられる。
- ・個人では解決できない地域課題や子育て時期における近所づきあいの必要性など、自治会を通して得られる新たな横のつながりの重要性を指摘する意見がある。
- ・また、日頃の地域活動を通じたつながりが、防災・防犯、障害者・高齢者などに関わる「安全・安心な地域環境づくり」には重要であると指摘する意見がある。
- ・加えて、村全体の活性化のためにも、自治会活動の次世代への継続が重要であるとの指摘がある。

③自治会未加入について

- ㊩転入時の加入アナウンスの有無
- ㊪自治会に加入することが基本
- ㊫自治会がどんな組織か知らないことの壁
- ㊬自治会費・諸行事などの負担感に関わること
- ㊭現代社会と自治会活動とのズレ
- ㊮自治会に加入したくなる条件が整っていれば参加
- ㊯未加入問題の狭間で起きていること

- ・自治会未加入に関わる意向では、概ね上記の7つの細項目に関する意見がみられる。
- ・転入時の加入に関わるアナウンスの有無に対する意見がある一方、「地域に住んだら積極的に加入」することが基本であり、未加入者が増加することに対する不満を示す意見がみられる。
- ・前述したように、自治会活動に対する情報不足などから、活動実態や加入することのメリットがわからないことなど、村外から移り住んできた方には「加入に対する壁」を感じるとの意見もみられる。
- ・加えて、「分家しても自治会に加入しない、加入すると自治会費の負担、諸行事に参加しなければならない」の意見にみられるように、「自治会費・諸行事などの負担感に関わること」に対する意見が多く示されている。
- ・一方、「情報の氾濫、価値観の多様化、競争社会、進学体制の中で若者は地域社会生活が不十分のまま成長し、成人しても自治会加入の必要性を感じない」との意見にみられるように、「現代社会と自治会活動とのズレ」を指摘する意見もある。
- ・ただし、未加入者の中には一律的な拒否ではなく、「活動が意義あるものだと思うことがあれば」や「子供に手がかからなくなった時」など、「自治会に加入したくなる条件が整っていれば参加」するとの意見もみられる。
- ・現実問題としては、「子ども会における加入・未加入による子どもたちの扱い」や「小学校等の運動会における場所の確保」など、諸行事での未加入問題が可視化されるなど、「未加入問題の狭間で起きている」事例を示す意見がある。

④新たな行政区域について

- ㊦行政区域決定の認知度
- ㊧行政区域で変わったこと、変わらなかったこと
- ㊨行政区域に対する不満
- ㊩行政区域改善の困難性とその背景の共有化
- ㊪行政区域と自治会との関係づくり
- ㊫行政区域間関係づくり

- ・新たな行政区域については、概ね上記の7つの細項目に関する意見がみられる。
- ・まず、行政区域の決定過程、行政区域に関わる情報の確認窓口、字と行政区域のちがいなど、「行政区域決定」に関わる認知度を指摘する意見がある。
- ・実施された行政区域に対する感想としては、「広報誌が的確に届く」、「字加入者にとってのメリットがあったのか」、「みんなが仲良くすることは良いことだが地域制の問題がある」など、行政区域で変わったこと、変わらなかったこと、疑問点など、幅広い意見がみられる。
- ・一方、「未加入問題は、新行政区域でも解決せず」や「読谷の特徴である地域中心が行政区域で減んだ」など、明確に行政区域に対して否定的な意見もある。
- ・ただし、「戦後旧集落への戻れず他の行政区に住居を構える自治会の二分化の経緯」や「都市化に伴う未加入者の増加」など、読谷村が抱える行政区改善の困難性とその背景の共有化を指摘する意見もある。
- ・今後の課題として、「自治会の財政が厳しくなる中、行政区域での自治会への加入促進」や「行政区域と自治会は同じ区域で運営」など、新たな取組みを促す意見がある。
- ・加えて、「各行政区域で何か一つでも行事をもち交流する」や「新たな行政区域にする意義や今後の進むべき方向性」など、行政区域間関係づくりの必要性を指摘する意見がある。

⑤自治会の抱える課題解決に向けたあり方について

- ㊬転居者との多様な交流の場づくり
- ㊭他自治体における参考事例に学ぶ
- ㊮情報提供の工夫とあり方
- ㊯誰もが安心して暮らせる仕組みづくり
- ㊰誰もが気軽に訪れたいくなる雰囲気づくり
- ㊱子ども・高齢者等を支えるシステムづくり
- ㊲自治会加入促進に向けた行政の取組みのあり方
- ㊳自治会活動内容の再検討の必要性
- ㊴自治会加入促進に向けた取組みのあり方

- ・自治会の抱える課題解決に向けたあり方については、最も多くの意見が寄せられ、概ね上記の9つの細項目に関する意見がみられる。
- ・「地域コミュニティ＝自治会という図式から離れ、多種多様な雑多なモノが集まる地域

コミュニティについても対応する」など、転居者との多様な交流の場づくりの重要性を指摘する意見がある。

- 加えて、「他自治体における参考事例に学ぶ」ことが必要だとの意見もある。
- 情報提供の工夫とあり方を指摘する意見では、「自治会活動の情報発信」の重要性から「ホームページ、読谷村役場とのリンク、メールマガジン」などの情報発信の手法など、多くの意見が寄せられている。
- 誰もが安心して暮らせる仕組みづくりでは、高齢者・障害者、防災・防犯など、「住民だけでなく、企業・社協、行政、学校、NPOといった読谷村の全ての団体・個人（ボランティア等）が共通認識をもつ」ことが指摘されている。具体的には「コーディネーター（CSWや福祉活動専門員、ボランティアコーディネーターなど）が中心となり、団体と住民、行政とのつながりをつくる」などが上げられている。
- そのためにも、「自治会に加入していない人も読谷村内に住んでいる人は、自由に地区の活動に参加出来たら良い」との「誰もが気軽に訪れたいくなる雰囲気づくり」の必要性を指摘する意見がみられる。
- また、「お年寄りや子ども達が気軽に入れる児童館があれば」などのハード面のみならず、「今は老人ですが現役の頃はそれぞれいろいろな分野で活躍していた。この力を地域の子供達に還元できたら」など、「子ども・高齢者等を支えるシステムづくり」に関わる意見も見られる。
- 一方、「村は積極的に自治会に加入する事を指導すべき」との意見にみられるように、「自治会加入促進に向けた行政の取組みのあり方」に言及する意見もある。
- 自治会に対しては、「行事のより充実した内容」や「若い人たちが多く参加できる組織」あるいは「班のあり方」など、「自治会活動内容の再検討の必要性」を指摘する意見もある。
- 「自治会加入促進に向けた取組みのあり方」では、「魅力ある自治会活動をする事」や「自治会加入のメリット、セールスポイントをつくり、アピールする」などの意見をはじめ、「将来の加入率は子ども会の活動（思い出）がカギ」との子ども会の重要性を指摘する意見もある。

⑥各種団体のあり方について

- | |
|---------------------|
| ㊦老人クラブ
㊩婦人会・子ども会 |
|---------------------|

- 「老人クラブ」については、「行事の多さ」や「独居高齢者の居場所づくり」、「ゲートボールに関わる課題」、「未加入者の老人会への加入のあり方」など、幅広い意見がみられる。
- 「子ども会」や「婦人会」については意見の件数は少ないが、「子ども会の充実」を指摘する意見がある。「婦人会」については、「役員選出」に関する意見がみられる。
- 加えて、「子ども会」と「婦人会」については、「加入の方法やメリット」について、冊子等の配布を提案する意見がある。

2. ヒアリング調査概要

(1) ヒアリング開催日時等

■第1回小学校区ヒアリング

	開催日	時間	場所	備考
渡慶次小校区	H26年11月5日(水)	10:00~11:30	儀間公民館	
喜名小校区	H26年11月5日(水)	13:30~15:00	喜名公民館	
読谷小校区	H26年11月6日(木)	10:00~11:30	高志保公民館	
古堅小校区	H26年11月6日(木)	13:30~15:00	大木公民館	
古堅南小校区	H26年11月7日(金)	10:00~11:30	古堅公民館	

■第2回小学校区ヒアリング

	開催日	時間	場所	備考
古堅小校区	H27年1月28日(水)	10:00~11:30	楚辺公民館	
古堅南小校区	H27年1月28日(水)	13:30~15:20	大湾公民館	
渡慶次小校区	H27年2月3日(火)	10:00~11:20	瀬名波公民館	
読谷小校区	H27年2月3日(火)	13:30~15:30	波平公民館	
喜名小校区	H27年2月4日(水)	10:30~12:00	座喜味公民館	

■個別自治会(規模別)ヒアリング

	開催日	時間	場所	備考
宇座	H27年3月3日(火)	10:00~11:30	宇座公民館	中規模-2
高志保	H27年3月3日(火)	13:15~14:45	高志保公民館	//
波平	H27年3月3日(火)	15:00~16:30	波平公民館	大規模
伊良皆	H27年3月4日(水)	10:00~11:30	伊良皆公民館	中規模-1
牧原	H27年3月4日(水)	13:15~14:45	牧原公民館	小規模
比謝砦	H27年3月4日(水)	15:00~16:30	比謝砦公民館	//

■団体ヒアリング

	開催日	時間	場所	備考
婦人会	H26年11月20日(木)	17:30~19:30	文化センター	
子ども会	H26年11月20日(木)	19:30~20:30	//	
老人クラブ	H26年11月21日(金)	10:30~12:00	セーラ苑	
青年会	H26年11月25日(火)	20:00~21:30	村役場	

■役場若手職員ヒアリング

	開催日	時間	場所	備考
若手職員	H26年12月11日(木)	13:30~15:00	村役場	

(2) 各ヒアリング結果概要

1) 第1回小学校区ヒアリング概要

①自治会の現状について

- ・特に、自治会加入者の減少に対する危機感の声が多い（自治会の弱体化は村全体の衰退化）。
- ・自治会内での世代交代の課題（例えば、子ども世帯の班長等の役割を親世帯が代替）。
- ・役員のみなり手の問題。
- ・自治会行事のマナー化の問題。
- ・将来的な自治会の統合問題（大規模同士の統合は伝統芸能等の違いから困難）。

②各団体の現状について

ア. 子ども会

- ・子ども会と自治会との関係の難しさ（未加入家庭でも子ども会への児童の参加）。
- ・役員の手不足の問題。
- ・子ども会活動の休止（特に南部地域）。
- ・行事のマナー化の問題。
- ・一方、子ども達の地域への愛着を深める必要性（棒術等の伝統文化）。
- ・社会状況が変わり、子ども達自身が忙しい（少年野球・サッカー等）。

イ. 青年会

- ・青年会の役割は大きいが入会が厳しい（若い世代の職場の多様化等、生活ステージの変化）
- ・自治会の青年会だけで会員を構成するには厳しい時代（年齢制限の見直しの必要性）。一方、自治会から青年会への助成金の支出もあり課題である。

エ. 婦人会

- ・婦人も他の団体同様に役員の手不足の問題が多い。
- ・行事のマナー化の問題。

オ. 老人会

- ・自治会役員よりも老人会が積極的に活動。
- ・老人会が行動しないと、自治会活動も機能しない。

③自治会未加入問題について

- ・子ども会に加入していても子どもが成長すると自治会からも脱退。継続加入が課題。
- ・班長や組長の仕事を敬遠。
- ・加入すると婦人会や子ども会の役員を担わされる懸念。
- ・昔と異なり、サラリーマン世帯も多く、自治会活動まで余裕がない。
- ・加入のメリットを感じない人が増加（加入のメリットを提示しづらい）。
- ・閉鎖的なイメージ（「なぜ加入しないのか」、理由の把握が必要）。

- ・単に自治会費が高い安いで、加入する加入しないという問題ではない。
- ・次男・三男の分家住宅は加入しない傾向にある。
- ・加入したくなる雰囲気づくり等の努力も必要。
- ・加入促進のための「検討委員会」を検討。

④新たな試みと今後の取組みについて

- ・未加入世帯の子ども会への加入条件と自治会加入条件とのリンク（1年間限定等）。
- ・20代～40代の未加入世帯の加入促進の重要性。
- ・加入、未加入だれもが興味をもつ活動の把握と充実化。
- ・同好会的ものから立ち上げる（公園管理隊、草刈り隊、山芋、野菜作り等）
- ・加入者をつなぎとめる取組み（活動内容の充実化）
- ・地域の祭りの開催（人材育成等）
- ・自治会加入促進に関する条例づくりの検討
- ・インターネット等の情報発信の検討。
- ・行政区域での行事参加を促す仕組みづくりの検討。
- ・行政区域で会費（協力金）を徴収するようなシステムづくり（防災活動は行政区域が対象のため）の検討。

2) 第2回小学校区ヒアリング概要

①自治会費と自治会加入促進のあり方について

- ・アンケート調査では、「自治会費の負担が大きい」という回答は考えていたより低い。
- ・未加入者を考慮すると、各自治会の自治会費一律化も検討が必要。
- ・自治会費を下げて加入促進にはつながっていない。
- ・自治会加入促進に向けては、子育て世帯の加入への取組が重要。
- ・未加入者をいかにして公民館に足を運んでもらうのか検討が必要。
- ・アパートに関する情報（出入り）が定期的にほしい。
- ・「たより」による情報発信に努めているが、加入促進の効果はまだまだ。

②子ども会・青年会・婦人会・老人会に対する共通認識の持ち方について

- ・子どもはクラブ活動が忙しく、共働きで子育てしながら子ども会、婦人会、自治会活動をするという、社会環境の変化に対する共通認識が必要。
- ・自治会に対する考え方や地域への思いについても世代間のズレがある。
- ・親は子ども中心に行動するので、地域活動は二の次、三の次になる。
- ・役員選びは大きな課題。
- ・子ども会や青年会などの若い時の地域での体験が地域への愛着に影響する。

③自治会未加入について

- ・「わんぱく広場」事業は、未加入世帯の子どもの参加がほとんどだが、地域で活動の場を提供しているが、自治会加入にはつながっていない。
- ・加入者からすると、未加入者に対する加入した際のメリットを提示することには抵抗感がある。読谷村に住むのであれば、加入するのが当たり前だとの考えがある。
- ・役場職員は自治会に加入するのは当然で、地域にとっても、本人にとってもメリットが大きい。
- ・読谷村のコミュニティの強い結びつきに魅力を感じる人もいる。
- ・若い世代が加入しても、負担感の軽減のため、2～3年は役員にならなくても良い仕組みを検討する必要がある。
- ・自治会未加入者の関心が高い「防災」は良いキーワードである。

④行政区域と今後の自治会のあり方について

- ・加入促進には、まずは同窓会などのような集まりを充実化させる。
- ・受け入れる側としても新たに加わってくる人への配慮が必要。
- ・今後は、「保育園等」の自治会で運営できる事業の検討も必要。
- ・行政区域の将来ビジョンが必要。
- ・村全体あるいは行政区域での取組みの促進が必要。
- ・このような横の情報交換や話し合うことが次のステップには必要。

3) 個別ヒアリング概要

①牧原（小規模自治会）

<今後のあり方>

- ・歳入に占める村からの助成金の割合が約 6 割。自治会費収入が減っている中で今後の自治会運営に不安。
- ・現在、公民館の前にアパート建設が行われており、20 戸程度が入居可能。
- ・新規居住者をいかにして自治会加入してもらえるのか。今後の自治会運営のカギ。
- ・新しい公民館が 3 年前にでき、自治会長事務を公民館でやる常勤体制に移行。
- ・終日公民館が開館し、自治会員はとても喜んでいる。以前よりも公民館に足を運ぶ人も多い。
- ・今後とも、多くの人が公民館に足を運ぶような自治会運営をしていきたい。
- ・牧原のような地域の範囲がない小さな規模の自治会においては、行政区域での自治会加入促進活動がやりやすくなった。
- ・行政区域としての様々な取組みに期待しているところがある。

②比謝町（小規模自治会）

<今後のあり方>

- ・近年は、陸上やテニス、野球などスポーツ活動を中心に若い世代（30～40 代）の活

動が活発化。

- ・魅力ある公民館にするために、ウエートトレーニング機材をおいてトレーニングできる場を設けた。スポーツを足掛かりに活性化を図りたい。
- ・このような取組みも情報としてチラシをつくって配布する予定。
- ・次年度からは自治会長の世代交代を行う。若い世代へバトンタッチ。
- ・現在の自治会（公民館）の雰囲気を変えたい。
- ・自治会長の交代とあわせて、行政委員会に女性や若い世代をいれた形にしたい。
- ・書記として貴重な人材が入ってきたので今後には大いに期待。

③伊良皆（中規模自治会-1）

<今後のあり方>

- ・婦人会の会員も年齢層が高く、若い人が入ってきやすい状況をつくりたい。
- ・分家した二男三男の世帯の自治会未加入問題は、親の世代が加入に非協力的。
- ・十三祝いなどの際には、お祝金を出すなど自治会加入のメリットを示している。加入にはなかなかつながっていない。
- ・多くの方が公民館に来てもらう機会として、自治会費の公民館で納付するやり方を次年度予定。
- ・青年会以降の30代から50代の世代が空洞化しており、活動の場がないことが課題。
- ・今後の自治会の中心となってもらうべき世代をいかにしてつなぎとめるかが重要。
- ・昔は、棒術もあったようで、復活させようとしたが上手くいかなかった。
- ・また、「ヌブイ（上り口説）」という伊良皆の踊りもあるが継承するような活動はしていない。「シーシ（獅子舞）」もあるので座喜味や波平のように次世代に伝えていけるようにしたい。
- ・10年程前のペイオフ解禁の際に財産収入の運用を本格的に検討。軍用地等の購入、最近ソーラーパネルを設置し、売電に取り組んでいる。

④宇座（中規模自治会-2）

<今後のあり方>

- ・子ども会には、伝統芸能の継承として「棒術」や「上り口説」は伝えていきたい。
- ・婦人会は、会員数が少ないので61歳から65歳への年齢引上げを検討。
- ・年齢に応じた役割分担を「会」（若妻会等）があっても良い。
- ・今後は、若い子育て世代の手助けや相談ができるような公民館・自治会にしたい。
- ・成人については、20代後半から50代世代が活動する場となる「会」がない。今後検討しても良い。
- ・地縁団体として法人化に向けた取り組みと公民館建設が大きな課題。
- ・公民館建替えについては、5年後を目途に準備委員会を立ち上げた。
- ・現時点では、居住地の分散化による自治会活動への影響はない。
- ・ただし、自治会の範囲が設定できず、自治会運営や加入者促進への難しさがある。

- ・宇座という名称（地名）を残しつつ、行政区改善が必要。
- ・自治会費の徴収（歳入）については、会員の高齢化が進んでいることから「稼働者」から抜ける人もでてくる。自治会運営のための財源の確保が今後は厳しくなる。

⑤高志保（中規模自治会-2）

<今後のあり方>

- ・婦人会だけに頼るのではなく、あまり負担感のないようなことを自治会執行部から、提案していきたい（子ども会、青年会へも）。
- ・今後の自治会運営を考える上では、自治会の行事の中で多くの人に参加できる取組みが必要。人材確保ができなくなることを懸念。
- ・取組みとしては、いかにして公民館に人が来るようにするか。
- ・例えば、役場の印鑑証明や住民票の交付などの公民館での可能性、地域の人材を活用した保育園や学童などの経営、ゆいまーる事業とセットの可能性など。
- ・また、コテージ経営の可能性、加入者のメリットづくりなど様々な取組みを模索。
- ・昨年5月には、西1区の行政区域として、西部公園で鯉のぼり祭りを開催。子ども会や青年会を中心に準備し、嘉手納警察署なども参加して好評だった。
- ・その際には自治会加入促進のチラシを配布。
- ・高志保自治会という枠での取組みも大事であるが、西1区の人達と身近になって、公民館に多くの人を訪れるようにしたい。

⑥波平（大規模自治会）

<今後のあり方>

- ・財産収入は、軍用地が返還されたことから600～700万円の収入減。
- ・次年度からは自治会費を上げることを検討。5年前の公民館建設で積立金はほとんどない。現在「繰入金」がほとんど無い状況。
- ・以前の公民館に比べて、年間の維持管理費も100万円以上は高い。また、床の修繕も行うなど維持管理費の負担が大きい。
- ・歳入は今後厳しい状況。
- ・次年度からの自治会費の値上げを検討。270万円程度の増額を想定。
- ・自治会費の値上げを検討する前には、年間行事や団体への補助も1～2割削減した。やれることをやったが限界。
- ・自治会への新規加入者促進については、自らこられる方は拒まないが、積極的な加入促進活動はしていない。
- ・波平においてもアパート居住者の多くは自治会に未加入者。
- ・意見交換の場などを設けていかないといけない時期にきている。まずは、コミュニケーションをいかにして図るか検討したい。

4) 各種団体ヒアリング概要

①老人会

<今後のあり方>

- ・村内の65歳以上の方で、自治会未加入者が約7,000人。
- ・今年度の目標は、未加入者に対して刺激を与える観点から広報活動が重要な施策。
- ・また、併せて老人会加入促進も年次計画を立てて進める予定。
- ・大人になってから、地元意識に基づいて自治会や老人会への加入を促すのは難しい。
- ・子どもの時からの地元意識の醸成や周りの皆に助けられているという意識を教える行かなければならない。
- ・老人会への加入促進をするためには、老人会はゲートボールや舞踊だけをやっているという、コリ固まったイメージを崩したい。
- ・いろんな楽しい活動を行っているということを伝えることに力を入れる必要がある。
- ・未加入者の住所や氏名が分かれば、ピンポイントで加入に向けた広報を流したい。

②婦人会

<今後のあり方>

- ・婦人会活動の実態を把握していない人も多い。
- ・村婦人会連合会の行事を少し減らしてでも、各地域の足元を固める活動が必要。
- ・結局は自治会があつての婦人会。自治会の活性化の足元を固めるのが最も重要。
- ・婦人会の加入促進について、村の役員と各自治会の役員で月1回は話し合いを実施。限られた時間しかなくなかなか話がまとまらないのが現状。
- ・婦人会の衰退も大きな課題であるが、将来を考えると「子ども会」や「青年会」の会員減少による衰退がとても怖い。
- ・活動内容については、時代に合わせて切り替えていく時期。
- ・婦人会活動は、自治会行事にも密接に関連しているので、婦人会が衰退すると、自治会活動にも影響が大きい。

③青年会

<今後のあり方>

- ・今年度からはフェイスブックを開始。「FMよみたん」で週1回番組を持つなど広報活動に力を入れている。加入促進につながっているという手ごたえはまだない。
- ・各自治会の青年会の会員が他地域から来るのは仕方がない。地元を意識するために「字同窓会」のような場を設ける取組みも面白い。
- ・高志保では、24歳時の成年合同祝いで「馬舞」を踊るとというのが伝統。その際に青年会に誘うということもやっている。
- ・儀間の「南又島」や伝統芸能がある地域は、それを活用することで青年会の活性化にもつながる。
- ・地域の伝統芸能を継承し、それを披露する場があり、さらに県外に行く機会があるの

は、青年会活動の大きな魅力。しかし、青年会の規模が小さいところは、人集めの段階で大きな発表の場を目指せない。あきらめてしまうこともある。

- 今後、自治会をはじめ、老人会や婦人会、青年会を考える上で、子ども会の大切さというのは、各自治会でも話し合われている。
- 老人会、婦人会、青年会、子ども会の縦の連携が上手くとれている自治会は、子ども会や青年会活動も上手くいっている。
- 子ども会活動が活発で会員が多いところは青年会活動も活発で会員数も多い。

④子ども会

<今後のあり方>

- 今の子ども達は、習い事やクラブ活動が忙しく、子ども会活動が難しい状況。
- 親もPTAや子ども会の役員にはならない。クラブの父母会活動は盛んに行っても、地域行事と重なるとクラブ活動を優先するのが現状。
- 各自治会の子ども会を活性化させるには、一人でも難儀をする育成者があり、周りがサポートすれば各自治会の子ども会も大きく変わる。難儀をする育成者を探すのが大変。
- 今の子育て世代は、目の前の事で忙しく、子ども会活動まで手が回らない。沖縄全体の育成者自体も60歳以上の人で占められており、若い世代の育成者が少ない。
- 読子連においても役員は、今後若い世代に引き継ぎたい。子育て世代でなければ、子ども達が望んでいる活動なども分からない。組織自体が衰退していく。
- 読子連や各自治会の子ども会の育成者は大変な役回りだが、楽しみながらやらないともたない。後輩も入ってこない。育成者自身が楽しみながら活動することが大事。

5) 村役場若手職員ヒアリング概要

<今後の自治会について>

- 自治会という組織の存続と活性化は重要。
- 自治会が行っている活動をNPOなど別の形でやるにはとても難しい。各世代を網羅している組織をまたはじめからつくるのはとても労力がいる。
- 長期的な視点でみると、子ども会がある自治会とない自治会では、地域の団結力が大きく異なると思う。
- 今後、自治会に加入したいが、子どもが成長していく中で、どのタイミングで入るか悩ましい。地域活動に参加ができないような中途半端な状況での加入は難しい。
- すぐに自治会に加入するのは少し敷居が高い。同好会的なものから始められると良い。
- 各自治会の協力する交流事業があれば、未加入の人も入りやすくなる。
- 自治会の情報の公開促進。現時点では自治会に関する情報不足を感じる。
- 子育て世代の情報入手の手段はネットが中心。その辺からの情報発信が重要。

第4章 自治会活動の問題点・課題と今後のあり方

以下では、統計データ、アンケート調査（自由意見を含む）、関係者ヒアリング等により、自治会活動の問題点・課題及び今後のあり方について整理している。

■自治会活動の問題点と課題・今後のあり方

問題点と課題	今後のあり方
①自治会内部の自己変革への対応 ア. 世代交代を促す担い手不足 イ. 班長や組長等の負担感 ウ. 自治会費（区費）、諸活動の負担感 エ. 行事のマンネリ化 ②自治会加入率低下への対応 ア. 未加入人口の増加 イ. 分家した次男三男の未加入化 ウ. 閉鎖的なイメージの払拭 エ. 情報発信不足等への対応 ③都市化社会の中での自治会の立ち位置の共有化 ア. 価値観の多様化 ウ. 職業の多様化等	①読谷村の特性の更なるブラッシュアップ ア. 伝統文化や行事等の継承 イ. 地域の祭り等を通じた人材育成 ウ. 自治会の立ち位置の共有化 ②加入者がいきいき活動する雰囲気づくり ア. 参加しやすい同好会的な場づくり イ. 活動内容の充実化 ③自治会加入促進のための施策の検討 ア. 行政の取組みのあり方 イ. 自治会の取組みのあり方 ウ. 多様な情報発信の取組み エ. 若い世代の加入促進のあり方 ④将来的な“自治組織”の枠組みの検討 ア. 行政区域と自治会との関係づくり イ. 行政区域での行事参加の仕組みづくり ウ. 行政区域で会費（協力金）を徴収するようなシステムづくり エ. 自治会の統合の検討

1. 問題点・課題

①自治会内部の自己変革への対応

ア. 世代交代を促す担い手不足

自治会総会に高齢者の参加者が多い現状がある一方、日常の自治会活動での老人会（高齢者）は欠かせない存在である現実もある。

そのような状況を踏まえ、30～40代の自治会活動への参加の少なさを指摘する意見が多い。アンケート調査結果では、「自治会の活動は老人会が中心である。若者の参加が少ない。将来自治会活動がどうなるのか不安である」との意見がある。

イ. 班長や組長等の負担感

未加入者の中には、班長や組長等の仕事を敬遠する意向をもつ村民も少なからず存在する。アンケート調査結果では、「地域活動がとても重荷に感じることがある。何度も何度も役職が回ってくる。一軒一軒回っての集金がつらい」などの声がある。

ウ. 自治会費（字費）、諸活動の負担感

自治会未加入の要因の一つとして、他自治体に比べて自治会費が高いとの指摘や各家庭により徴収金額が異なることへの疑念の声もある。ちなみに、アンケート調査結果では、自治会費の負担感に関する回答は相対的に高い意向を示すものとはなっていない。

また、若い子育て世代の中には、自治会に加入したい意志はあっても、子育てと地域活動とのバランスの中で地域活動に参加することを躊躇している声もあり、行事参加への負担感を指摘する意見がある。

エ. 行事のマンネリ化

自治会行事に参加する人が減少傾向にある現状から、行事のマンネリ化の問題を指摘する意見が多い。そのため、魅力的な活動になっているのか。あるいは参加したくなる行事になっているのか。その実態とニーズの把握が必要との指摘がある。アンケート調査結果では、自治会活動の課題として「自治会活動の内容が慣例化（マンネリ化）している」ことに対し高い意向が示されている。

②自治会加入率低下への対応

ア. 未加入人口の増加

自治会加入人口が減少傾向にある中、未加入人口は増加の一途にある。約4万人の自治体の中で約2万人近い未加入者が存在する現状にある。なお、世帯ベースでは加入者・未加入者の割合が逆転し、未加入世帯が全世帯の5割を超す状況にある。アンケート調査結果では、「地域の中で自治会を含めどの団体でも活動してない」（地域の中で何ら横のつながりを持たない）と回答する自治会未加入者が一定程度存在する実態が伺われる。

イ. 分家した次男三男の未加入化

過去約40年間の自治会加入者が減少傾向にある中、世帯数は約1.8倍の増加である。世帯数の増加は分家による世帯分離が大半だと思われるが、その間の村全体の世帯数は約2.9倍の増加である。そのことから、分家した次男三男の自治会未加入世帯が一定程度存在することが推測される。なお、自治会ヒアリングでは、喜名・座喜味については、分家した次男三男でも自治会に加入する世帯が多いとの指摘もある。

ウ. 閉鎖的なイメージの払拭

アンケート調査結果では、自治会活動の課題として「新規居住者が入りにくい雰囲気がある」ことに対し強い意向が示されている。また、「自治会によっては、入りづらさが現在でもあり人の受入れをどうしていくのかが、今後の地域を活かすことになる」との指摘もあり、誰もが気軽に訪れたい雰囲気づくりが今後の課題である。

エ. 情報発信不足等への対応

自治会活動に対する情報発信については、自治会加入者と未加入者の双方からの指摘がある。未加入者からは「活動内容が不透明で、各自治会、何をしているのか分かりかねる」という意見、自治会加入者からは「自治会の積極的な活動が見当たらない」などの意見がある。

また、情報発信の取組みでは、喜名・座喜味の事例をみると「自治会たより」を加入・未加入に関わらず配布し情報提供に努めているが、自治会加入促進にはつながっていないとの現状もある。

③都市化社会の中での自治会の立ち位置の共有化

ア. 価値観の多様化

若い世代が自治会に参加しにくいとの声が多く、「情報の多様化」や「価値観の多様化」など、都市化社会の進展に伴う「現代社会と自治会活動とのズレ」が伺われる。アンケート調査結果では、自治会加入者・未加入者ともに同程度の割合で自治会活動の課題として「若い世代や仕事をもつ人が参加しにくい」との強い意向が示されている。

イ. 職業の多様化等

サラリーマン世帯が多く、自治会活動まで余裕がないとの意見が多く見られる。現代社会では職業が多様化し、就労地も広域化しており、自治会活動のサイクルと現代の個々人の日常生活とのズレを感じる人が多く、都市化社会の進展に対応した自治会活動の再検討の時期を迎えているといえる。

2. 今後のあり方

①読谷村の特性の更なるブラッシュアップ

ア. 伝統文化や行事等の継承

各自治会に伝わる伝統芸能や諸行事は、各自治会のアイデンティティを体現するものであり、多くの村民の誇りとなっている。それを村全体で集大成したものが読谷まつりともいえる。アンケート調査結果でも「伝統行事等を長い間継続して頑張っているのですごく良いことだと思う」との声がある。相対的に「伝統文化や行事等」に対する評価が高く、特に自治会加入者は未加入者に比べて格段に評価が高い。

今後とも「伝統文化や行事等」を持続的に継承していくため、後継者等の人材育成などの取組みが重要である。

イ. 地域の祭り等を通じた人材育成

前述したとおり、読谷村の特性である「伝統文化や行事等」の継承に当たっては、人材育成が指摘されている。

その取組みのイメージとしては、例えば、高志保では24歳の年齢に達すると「馬舞」を踊るという仕組み。また、渡慶次で取り組まれていた自治会加入・未加入者の区別なく結成された「渡慶次獅子舞クラブ」(一時休止状態であったが最近活動再開)の取組み。波平の伝統芸能保存会による毎週1回の子ども達への「棒術」練習の指導。加えて、座喜味で開催されている「座喜味城通りふれあいまつり」は、人材育成も兼ねて実行委員会形式で開催されている新たな自治会の取組み等がある。

今後とも、それぞれの条件下で、創意工夫により短期～長期の人材育成のための仕組みのあり方を検討することが重要である。

ウ. 自治会の立ち位置の共有化

様々な課題を抱えているとはいえ、自治会のもつ基盤的な役割(社会的紐帯)については高い評価がある。「人と人のつながり」、「安全・安心な地域環境」、「持続的な地域づくり」など、自治会の必要性に対する声である。個人で解決できないこと、人とのつながりを通じた日常生活の安定感や安心感、普段からの自治会との関わることによる災害等の緊急時における対応のあり方、あるいは地域の協働による地域づくりなど、「補完性の原則」に則った地域の役割の重要性への高い評価である。

今後とも、このような目には見えない「社会的紐帯」(信頼関係)としての自治会のもつ役割について、自治会の内外において共有化していくことが必要である。

②加入者がいきいき活動する雰囲気づくり

ア. 参加しやすい同好会的な場づくり

自治会に対する閉鎖的なイメージや情報発信不足等による「敷居の高さ」など、誰もが気軽に訪れたい雰囲気づくりの重要性を指摘する意見がある。アンケート調査結

果でも自治会加入者を増やすために「自治会に加入しやすい雰囲気づくり」が必要との意向が最も多く示されている。

例えば、「草刈隊」や「公園管理隊」、幅広い年齢層からなる「ゴルフコンペ」、共通の趣味をもつ「山芋・野菜づくり」等、すでに各自治会で新たな取組みも見られる。

今後とも、それぞれの自治会における創意工夫を図り、誰もが参加しやすい同好会的な場づくりへの取組みが必要である。

イ. 活動内容の充実化

自治会活動の内容のマンネリ化に対する意向が一定程度ある。また、未加入者の加入促進の面からも、現在自治会活動を担っている加入者が魅力をもって行事に参加することが重要との指摘もある。

アンケート調査結果では、「地域の防災や防犯活動」、「地域の高齢者や子どもの見守り」、特に自治会未加入者からは「子育てや教育に関する取組み」に期待する強い意向が示されている。

今後は、上記のような意向も踏まえ、自治会活動の内容の充実化への取組みが必要である。

③自治会加入促進のための施策の検討

ア. 行政の取組みのあり方

転入時の自治会加入アナウンスについては、現在、役場での転入手続きに際し、当該居住地における行政区及び自治会の存在状況がアナウンスされている。

今後は、各自治会との連携を踏まえ、自治会独自の加入促進策を支援する観点からの対応のあり方の検討が必要である。

加えて、「自治会加入促進に関する条例」を制定することによる積極的な対応を求める意見もあり、その効果等も踏まえた可能性を検討することも考えられる。

イ. 自治会の取組みのあり方

「自治会たより」などによる加入呼びかけを行っている自治会、20～40代世帯の未加入世帯をターゲットにした加入促進活動による新規加入の成果を上げている自治会など、それぞれの状況に応じた自治会加入促進のための取組みが見られる。また、「(仮称)加入促進委員会」の立ち上げや、行政区まつりにおける「自治会紹介・加入歓迎」のチラシ配布等、加入促進の取組みを検討している自治会もある。

今後は、それぞれの自治会の独自の取組みを支援する観点から、それぞれの取組みの情報共有化に向けての仕組みづくりを検討することも必要である。

特に、若い世代が住むアパート等の集合住宅については、転居者の自治会加入に向けてアパート管理人(団体)との連携のあり方を検討することも考えられる。

●高志保自治会の取組み

みんなおいでよ
行政区西一區
鯉のぼりまつり
高志保区自治会子ども会育成会 学事奨励会 同時開催
5月4日(日)開催
9:00~14:00
会場:読谷西部公園
この大空にあなたの鯉のぼりを泳がせましょう!
お家にある鯉のぼりを持参して来てね!
手作りの鯉のぼりは大丈夫!いっぱい持ってきてね~!
高志保区自治会 加入大歓迎!
この機会にぜひ
主催:高志保区自治会
お問い合わせ:0958-4455

- ゲートボール体験(若保の会)
- 昔の子ども遊び体験(高成会)
- ストライクゲーム(子ども会育成会)
- 5人6脚競争(青年会)
- ノルディックウォーキング体験
- 軽食はカレーライス(婦人会100周年記念会)

高志保自治会の行事
・生年合同祝賀会
・区民運動会
・エイサー
・敬老会、出生祝い
・高志保まつりいろいろ
子ども会行事
・学事奨励会
・子どもエイサー
・クリスマス会いろいろ
み~んな生き生き読谷村西一區!
安心、安全な生活はご近所つきあいから!
高志保区自治会加入大歓迎!
地域で育つ子どもたちを大切に!
自治会とは?
暮らしやすい地域をつくるため
身近な範囲の住民によって
自主的につくりあげた自治組織です。
●安全・安心●支え合い●楽しい交流
地域はあなたの力を必要としています。
住みやすいまちづくり活動にご協力を!
気軽におたずねください!
★新しい自治会に加入しよらー
ワンちゃん・ワンちゃんなどお預かりできる
暮らしのサポートまで安心安全
いろんな相談もあつきますよ!
★自治会費は家数割
(大人1人1万円)
毎月1,500円です!

高志保区自治会
宇高志保260番地 Tel.958-4455

ウ. 多様な情報発信の取組み

「自治会たより」の発行、ホームページの開設など、それぞれの自治会においては自治会活動に関わる情報提供を行っている。しかしながら、「自治会活動の内容、自治会そのものが分からない」など、自治会に関わる分かりやすい情報提供を望む声は依然として多い。

そのため、未加入者若者世代の対応も踏まえ、インターネット（ホームページ、メールマガジン配信、読谷村役場とのリンク等）、FMよみたんの活用、広報誌の充実化（新規自治会加入者からみた自治会加入の感想・体験談等）、それぞれの自治会の事情を考慮した多様な情報発信の取組みが重要である。

エ. 若い世代の加入促進のあり方

アンケート調査結果では、自治会活動の課題の中で「若い世代や仕事をもつ人が参加しにくい」に対する意向が強い。一方、今後の自治会に期待することで未加入者の中で特に特徴的なことは「子育てや教育」に関する取組みに高い期待が見られる。例えば、自治会内に住む保育士や看護師の資格をもつ人材を活用し、自治会独自で「保育園」（雇用と自治会活動）等を運営する可能性の検討を指摘する意見もある。

今後は、若い世代の自治会加入促進に関して実績を挙げているやり方や仕組みについての自治会間の情報共有をはじめ、例えば、「自治会に加入して2~3年は役員にしない仕組み」など、心理的な負担感の軽減のあり方について検討することも考えられる。

④将来的な“自治組織”の枠組みの検討

ア. 行政区域と自治会との関係づくり

平成26年4月から実施された「新たな行政区域」については認知度が低く、制度がスタートして何か変わったのかと疑問を示す意見がある。一方、未加入者からは「広報誌や催し物の案内」が確実に届くので以前のような不満・不便はないとの意見もある。

また、読谷村の特徴である“自治会（字）”のもつ「地域自治」が形骸化することに対する懸念を示す声がある。加えて、そもそも「属人的組織」と言われる行政区改善の困難性とその背景の共有化が重要との指摘もある。

今後は、以上のような現状を踏まえつつ、例えば、高志保区自治会が実施した「行政区西一区 鯉のぼりまつり」（高志保区自治会子ども育成会「学事奨励会」同時開催）など、行政区域と自治会との関係づくりのあり方を検討することが必要である。

イ. 行政区域での行事参加の仕組みづくり

今後、自治会に期待することで加入者・未加入者問わず高い意向として「地域の防災、防犯活動」と「地域の高齢者や子どもの見守り」が示されている。

また、すでに実施されている「防災訓練」や「ゆいまーる事業」等の地域の支え合いに関する取組みについては、行政区域で行う行事とし再評価することを指摘する意見もある。具体的には、高齢者・障害者、防災・防犯など、「住民だけでなく、企業・社協、行政、学校、NPOといった読谷村の全ての団体・個人（ボランティア等）が共通認識をもつ」ことが重要であり、例えば、「コーディネーター（CSWや福祉活動専門員、ボランティアコーディネーターなど）が中心となり、団体と住民、行政とのつながりをつくる」などの提案もある。

今後は、行政区域の中でお互いの交流が持てる行事の検討をはじめ、前述したような仕組みづくりの可能性について小学校区単位で検討することも考えられる。

ウ. 行政区域で会費（協力金）を徴収するようなシステムづくり

未加入者からの各自治会で異なる会費に対する疑問の声がある一方、防犯灯の維持・管理費や地域内清掃活動等に対する「フリーライダー」の観点からの加入者からの不満の声もある。

新たな行政区域という枠組みが出来たことを前提に、例えば、前述した「地域防災に関わる取組み」については、自治会費ではなく、行政区域の会費（協力金）として徴収する提案もある。

今後は、行政区域での具体の活動の実績を踏まえ、行政区域運営に関わる経費・コストに関する共通認識づくりを検討することも考えられる。

エ. 自治会の統合の検討

小規模自治会の中には、自治会加入者の減少や高齢化などにより、自治会組織の存続のあり方について不安をもつところもある。一方で、公民館建替えを契機に自治会長の常勤化に伴う波及効果の顕在化、担い手の若い世代への転換、自前の集会所がなかった小規模自治会が仮設の集会所を建設する動き等もある。

今後は、前述したような行政区域と既存自治会との関係づくりの全体動向を踏まえつつ、それぞれの小規模自治会が抱える事情に則した対応を検討することが将来的には必要かもしれない

次頁は、読谷村における自治会の今後のあり方を「概念化」し、整理したものである。


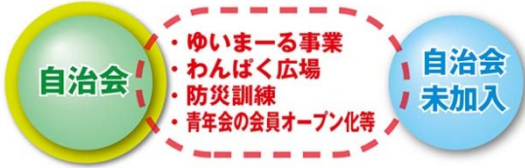

本アンケート調査の中に、「読谷の伝統は芸能だけではない。心の強いつながりの地域コミュニティは公民館（字）中心の長い歴史がある」との意見があり、それをより強い心情で表現した「読谷最大の良いところである「地域中心」が新しい行政区域で減んだ」との意見もある。

いずれにしても、これまでの読谷村における住民自治が自治会（字）を中心に実践されてきたことを裏付ける声である。村民がそれぞれの自治会（字）を基盤に生活していることの証でもある。小規模自治会から大規模自治会までそれぞれの環境での立ち位置を踏まえ、住民自治が実践されていることは自治会運営体制、年間活動等から垣間見ることができる。

しかしながら、都市化の進展に伴い、これまでの自治会（字）の枠組みでは対応できない現代社会とのズレも確実に大きくなっている。

自治会が抱える課題解決に向けては、新たな住民自治の可能性をもつ「行政区域」との多様な関係性の中で検討することも想定される。多様な新たな関係づくりを試行することが、逆にそれぞれの自治会のもつ課題解決に繋がっていくことも考えられる。

■ 読谷村における自治会の今後のあり方

<p>①これまでの自治会の立ち位置</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 読谷村の自治会は、これまで「字・部落」と呼称され、それぞれの独自性を基盤とした生活共同体的な住民自治が営まれてきた。
<p>②自治会（字）の枠に収まらないニーズの発生</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 都市化の進展に伴い生活スタイル・価値観の多様化を受け、読谷村では自治会未加入世帯が全世帯の5割を超す現状にある。 自治会加入者のみを対象にした住民自治には収まらないニーズに対応し、これまでも「ゆいまーる事業」「わんぱく広場」「防災訓練」等が実施されてきた。 地域団体組織の一つである「青年会」の当該自治会に限定しない会員募集のオープン化等の動向がある。
<p>③今後の自治会の立ち位置のあり方</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年 4 月には「行政区域」を設定し、新たな地域自治に関する枠組みができた。 自治会の持つ特性を維持しつつ、今後、行政区域内の自治会未加入者との関係づくりについて、例えば、「子育て支援」、「防災体制づくり」等を試行的に取組むことも検討される。 その場、青年会・子ども会・婦人会・老人会等の各種団体における具体の取組みとの連携が下地づくりとなる可能性がある。
<p>④行政区域での「地域自治」のイメージ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 行政区域における長期的な展望として、自治会加入率アップ等の数値のみではなく、「社会的紐帯（信頼関係）」の多様性を拡充する方向性での検討も考えられる。 例えば、アンケート調査の自由意見で提案されている「コーディネーター（CSWや福祉活動専門員、ボランティアコーディネーターなど）を中心とし、団体と住民、行政とのつながりをつくる」などの枠組みづくりも検討される。 イメージ的には、小学校単位の「地域運営学校」や「小学校区まちづくり協議会」の事例が上げられる。 将来的には、地域は地域で担っていく「エリアマネジメント」を基盤にした地域社会を目指すことも検討される。

■住民自治に関わる事例整理

1. 集合住宅コミュニティ条例（石川県金沢市）

①概要

石川県金沢市では、「集合住宅におけるコミュニティ組織の形成の促進に関する条例」（平成20年）に策定し、マンション管理組合等に属するマンション等の集合住宅の住民も地域協働の主体として位置づけている。

この条例では、マンション等の集合住宅や町会その他の地域団体の人たちが主体となり、集合住宅の建設に関わる事業者と市が協力し、コミュニティを育む環境をつくっていくことを目指している。

事業者は、コミュニティ組織の形成に配慮した建築や入居者への説明、近隣住民との良好な関係が構築できるよう努めるものとする条例に規定されている。

②具体の施策

<集合住宅の住民へ>

㊦集合住宅のコミュニティスペース賃借料補助

- ・コミュニティスペースとして使用する集合住宅の空室の賃借料に対し補助。

㊧コミュニティ活動推進用具の購入費等補助

- ・コミュニティ活動の推進に使用する用具の購入（修繕）に対し補助。

<事業者へ>

㊦あんしんコミュニティ集合住宅認定制度

- ・コミュニティづくりに配慮された集合住宅であることを市が認定。分譲や入居者募集の際にPRすることができる。

㊧集合住宅のコミュニティスペース整備費補助

- ・これから新築する集合住宅に、コミュニティスペースを整備し、住民によるコミュニティ組織が形成された場合、その整備費用に対し補助。

2. 地域コミュニティ税（宮崎県宮崎市）

①概要

防災訓練や里山保全など「住民主体のまちづくり」事業に全額を充てる全国初の試み（平成21年4月導入、平成23年4月廃止）。

市では、これまで地縁団体への運営費補助や加入促進など対策を行ってきたが、地域の各種地縁団体の加入者数は減少の一途をたどり、地域の自治機能は低下傾向にあったと言われる。一方で、NPOなどのテーマ型の市民活動団体の活動が活発になってきており、地域コミュニティにおける市民活動団体の存在意義も高まっていた。

平成18年の1市3町の合併を機に、従来の地縁団体より広い地域を単位とする地域自治区や合併特別区を軸とする住民主体のまちづくりを展開するため、安定した財源

(続く)

として住民自治の観点からその活動費の一部を広く市民から求める「地域コミュニティ税」を創設した。

② 具体の施策

市民税均等割の納税義務者（約 16 万人）に年額 1 人当たり 500 円を市民税均等割超過税として課税（税収は約 8,000 万円）

新税は、地域自治区・合併特例区に設置された地域活動の実践団体である「地域まちづくり推進委員会」に全額を交付し、地域自治区・合併特例区で取り組む地域の課題解決のための活動費とする（18 地区に均等割と人口割で配分。1,920 千円～9,700 千円）

㊶ 地域協議会

- ・地域の合意形成機関（地域まちづくり推進委員会の提案する事業計画を協議・承認）

㊷ 地域まちづくり推進委員会

- ・地域活動の実践組織（地域の課題解決のための事業を計画及び実践）

㊸ 地域コミュニティ税使途研究会

- ・地域協議委員会や NPO、学識経験者などで構成。税の透明性を確保するため、税の使途を研究。

㊹ 地域コミュニティ税評価委員会

- ・税理士や学識経験者、NPO などで構成。交付金の使途を評価。

③ 税の活用内容

㊶ 事業数

- ・21 年度活用実績：255 事業（配分額 79,851 千円）
- ・22 年度活用実績：324 事業（配分額 79,126 千円）
- ・23 年度活用実績：362 事業（配分額 86,161 千円）9 月末申請

㊷ 主な取り組み

- ・防犯・防災分野（地域合同防災訓練、地域防災対策 他）
- ・地域福祉分野（高齢者生きがいづくり、子育てネットワークづくり 他）
- ・環境分野（環境美化運動、里山保全 他）
- ・地域再生分野（健康づくり、伝統文化、地域教育 他）

■小学校区まちづくり協議会（那覇市）

①概要

那覇市では、新たに自治の仕組みづくり及び市民の協働によるまちづくりを推進するにあたり、概ね各小学校区を単位として区域内で活動する自治会やPTA、各種団体が、緩やかに連携・協力した関係の校区まちづくり協議会を設置することで、地域課題に対して解決を図ること目的に「小学校区まちづくり協議会」をモデル地区として位置づけている。

平成26年4月現在、与儀小学校区まちづくり協議会、石嶺小学校区まちづくり協議会、若狭小学校区まちづくり協議会、銘苅小学校区まちづくり協議会の計4団体となっている。

例えば、石嶺小学校区まちづくり協議会では、子ども育成部会、環境部会、福祉部会の3つの専門部会からなる。

②目的

- ㊦地域の共通の課題の把握、課題解決策の検討（地域の課題解決に向けた計画づくり等）
- ㊧地域課題解決のための活動の実践（防犯・防災、福祉、環境、青少年の健全育成、非行防止、交流と親睦の促進活動など）
- ㊨学校・家庭・地域が一体となった地域ぐるみで学校を支え子どもを育てる体制の確立
- ㊩地域住民に対する広報
- ㊪地域団体相互の情報共有・連携・協力関係の推進

③小学校区まちづくり協議会への支援策

- ㊦財政的支援（補助金）
- ㊧アドバイザーの派遣
- ㊨地域担当職員制度の導入

第5章 各種団体の活動動向

1. 各種団体の会員数の動向

①老人クラブ会員数の推移

読谷村老人クラブは、平成 25 年度現在 21 の各自治会単位の老人クラブから構成されている。昭和 39 年に結成され、平成 26 年度には創立 50 周年を迎えている。会員数は平成 26 年度で 3,847 人であり、昭和 48 年に比べ 2.1 倍の増加である。過去 10 年の経年でも、増減を繰り返すが着実な増加傾向にある。

②読谷村婦人会会員数の推移

読谷村婦人は、平成 25 年度現在 17 の各自治会単位の婦人会から構成されている。1914(大正 3 年)に結成され、平成 26 年度には創立 100 周年を迎えている。ちなみに、沖縄県における婦人会の発祥の地である。会員数は平成 26 年度で 753 人であり、昭和 48 年に比べて約 1 / 3 程度に落ち込んでいる。

■老人クラブ・婦人会の推移

小学校区	自治会	老人クラブ		伸び (B)/(A)	婦人会		伸び (D)/(C)
		S48年	H26年		S48年	H25年	
		(A)	(B)		(C)	(D)	
渡慶次小	長浜	119	165	1.4	120	20	0.2
	瀬名波	101	160	1.6	105	49	0.5
	宇座	113	184	1.6	135	38	0.3
	儀間	70	75	1.1	105	20	0.2
	渡慶次	125	265	2.1	205	47	0.2
読谷小	上地	11	14	1.3	13	-	-
	都屋	27	146	5.4	71	20	0.3
	高志保	111	352	3.2	235	90	0.4
	波平	204	398	2.0	301	91	0.3
喜名小	親志	14	-	-	20	-	-
	座喜味	163	418	2.6	217	50	0.2
	喜名	150	230	1.5	210	50	0.2
古堅小	長田	8	34	4.3	20	-	-
	牧原	19	46	2.4	33	-	-
	大添	-	54	-	-	-	-
	伊良皆	79	151	1.9	100	39	0.4
	大木	61	179	2.9	90	43	0.5
	楚辺	216	408	1.9	285	120	0.4
古堅南小	比謝砦	16	-	-	25	-	-
	比謝	41	131	3.2	75	15	0.2
	大湾	69	123	1.8	92	22	0.2
	古堅	78	211	2.7	125	19	0.2
	渡具知	71	103	1.5	99	20	0.2
		1,866	3,847	2.1	2,681	753	0.3

資料:「役場資料」

③読谷村青年団協議会

読谷村青年団協議会は、平成 25 年度現在 12 の各自治会単位の青年会から構成され、全自治会の約半数程度となっている。自治会単位でも、昭和 48 年 19 団体から平成 25 年は 16 団体に減少している。

④読谷村子ども会育成連絡協議会

読谷村子ども会育成連絡協議会は、平成 25 年度現在 14 の各自治会単位の子ども会から構成されている。平成 17 年に比べると、15 団体（団地等を含める 19 団体）から 1 団体の減少である。

■青年会・子ども会の推移

小学校区	自治会	青年会		備 考	子ども会		備 考
		S48年	H25年		H17年	H26年	
		(C)	(D)		(E)	(F)	
渡慶次小	長浜	○	○		○	○	
	瀬名波	○	○		○	○	
	宇座	○	○	読青協活動参加	○	○	
	儀間	○	○	読青協活動参加	○	○	
	渡慶次	○	○	読青協活動参加	○	○	
読谷小	上地	○	-		-	-	
	都屋	○	○	読青協活動参加	○	○	
	高志保	○	○	読青協活動参加	○	○	
	波平	○	○	読青協活動参加	○	○	
喜名小	親志	-	-		○	○	
	座喜味	○	○	読青協活動参加	○	○	
	喜名	○	○	読青協活動参加	○	○	
	横田	-	-		○	○	
古堅小	長田	-	-		-	-	▲
	牧原	○	○		-	-	▲
	大添	-	-		-	-	
	伊良皆	○	○	読青協活動参加	○	-	▲
	大木	○	-		○	○	
	楚辺	○	○	読青協活動参加	○	○	
古堅南小	比謝砦	-	-		-	-	
	比謝	○	○		-	-	▲
	大湾	○	-		-	-	
	古堅	○	○	読青協活動参加	-	-	▲
	渡具知	○	○	読青協活動参加	-	-	▲
		19	16	12	15	14	

※子ども会のH26年は、平成26年度(案)

資料:「役場資料」

※子ども会のH26年度(案)には、波平団地記載あり。

※子供会のH17年はその他に比謝団地37名、波平団地60名、レイクサイド26名、ミサワ14名がある。

※子ども会備考の▲は各自治会の団体組織としては存続することを表示。

2. 各種団体の歳入・歳出の動向

①各種団体の歳入内訳

<読谷村老人クラブ>

平成 25 年度の歳入総額は約 740 万円であり、うち約 5 割の 380 万円は会員からの会費である（会費年間 1,650 円）。スポーツ大会や研修会参加費等の事業収入約 90 万円を加えると、自己財源率は約 64%である。読谷村からの補助金は約 200 万円であり、行政助成率は約 26%である。

<読谷村婦人会>

平成 25 年度の歳入総額は約 250 万円であり、うち約 3 割の 75 万円は会員からの会費である（会費年間 1,000 円）。バザー収益金等の事業収入約 46 万円を加えると、自己財源率は約 48%である。読谷村からの補助金は約 120 万円であり、行政助成率は約 46%である。

<読谷村青年団協議会>

平成 25 年度の歳入総額は約 300 万円である。老人クラブや婦人会とは異なり、歳入総額に占める会費の割合が 1 割にも満たない（各自治会分担金 20,000 円）。しかしながら、事業収入約 130 万円を加えると、自己財源率は約 5 割となる。読谷村からの補助金は約 57 万円であり、行政助成率は約 20%である。

<読谷村子ども会育成連絡協議会>

平成 25 年度の歳入総額は約 110 万円である。青年団協議会同様に歳入総額に占める会費の割合が 1 割にも満たない（会費年間 100 円）。そのため、自己財源率も 1 割に満たないものとなっている。読谷村からの補助金は約 78 万円であり、行政助成率は約 73%である。

■各活動団体の歳入内訳(平成25年度)

	歳入総額(A)	会費(B)	事業収入(C)	補助金(D)	その他	B/A	(B+C)/A	D/A
村老人クラブ	7,396,544	3,799,350	907,500	1,900,000	789,694	51.4	63.6	25.7
村婦人会	2,549,963	753,000	462,436	1,181,000	153,527	29.5	47.7	46.3
村青年団協議会	3,023,373	240,000	1,275,000	568,000	940,373	7.9	50.1	18.8
村子ども会	1,070,030	51,000	-	777,000	242,030	4.8	4.8	72.6

資料:「各団体総会資料」

②各種団体の歳出内訳

＜読谷村老人クラブ＞

平成 25 年度の歳出総額は約 710 万円であり、うち 6 割の約 430 万円は活動事業費に充てられている。中部老人クラブ連合会への負担金は約 87 万円であり、約 12%を占める。会議費や役員手当等の運営費は約 190 万円であり、約 27%である。

＜読谷村婦人会＞

平成 25 年度の歳出総額は約 240 万円であり、うち約 6 割弱の 134 万円は活動事業費に充てられている。沖婦連や中婦連等への負担金は約 18 万円であり、約 7%である。役員手当等の運営費は約 62 万円であり、約 26%である。

＜読谷村青年団協議会＞

平成 25 年度の歳出総額は約 270 万円であり、うち約 9 割弱の 240 万円は活動事業費に充てられている。沖青協や中青協への負担金は約 7 万円であり、約 3%である。役員手当等の運営費は約 22 万円であり、約 8%程度である。

＜読谷村子ども会育成連絡協議会＞

平成 25 年度の歳出総額は約 93 万円であり、うち約 5 割強の 51 万円は活動事業費に充てられている。沖子連協や中子連等への負担金は 11 万円であり、約 12%である。役員手当等の運営費は約 21 万円であり、約 23%である。

■各活動団体の歳出内訳

	歳出総額(A)	事業費(B)	負担金(C)	運営費(D)	その他	B/A	C/A	D/A
村老人クラブ	7,113,546	4,296,806	867,950	1,898,790	50,000	60.4	12.2	26.7
村婦人会	2,384,362	1,341,851	175,500	618,982	248,029	56.3	7.4	26.0
村青年団協議会	2,695,678	2,404,687	70,000	220,991	0	89.2	2.6	8.2
村子ども会	925,437	514,299	110,000	208,480	202,658	55.6	11.9	22.5

※青年団協議会の運営費は、会議費+事務局費
 ※村子ども会の運営費は、事務費

資料:「各団体総会資料」

3. 各種団体の活動状況

<読谷村老人クラブ>

読谷村老人クラブは、各自治会老人クラブをもって組織されており、事務局は読谷村福祉課が担い、日常のサークル活動等は老人福祉センター（セーラ苑）で行われている。

運営は、総会に当たるクラブ大会をはじめ、評議委員会、役員会、女性委員会、サークル長会で活動方針等が決定されている。

役員構成は、会長 1 名、副会長 3 名、理事 2 名、監事 2 名、顧問 10 名の計 18 名体制である。

活動内容は大きく 3 つに区分され、スポーツ活動、文化活動、サークル活動である。スポーツ活動では年 2 回のゲートボール大会やグランドゴルフ大会をはじめ、ソフトボール大会、運動会、ゴルフ大会、ボウリング大会が行われている。文化活動では、読谷まつり文化作品展への出展や集団演技による参加がある。その他、囲碁大会、サークル発表等がある。サークルは 10 教室があり、月 2 回の活動から週 2 回の活動まで幅広い。

協力事業としては、各自治会の会員がボランティアとして各公民館で実施されているいまーる共生事業（村福祉課）が長年継続されている。

その他の活動では、宿泊研修をはじめ、村福祉センターや老人福祉センターの定期清掃作業も実施されている。

外部団体との協力事業では、県老連や中老連の実施事業への参加も年間を通して行われている。

<読谷村婦人会>

読谷村婦人は、各自治会の婦人会で組織し、会員は 25 歳以上 65 歳までの婦人及び 25 歳以上の既婚婦人からなる。事務所は読谷村文化センター内に設置されている。

運営は、総会、役員会、代議員会、理事会、専門部会、執行委員会で活動方針等が決定されている。

役員構成は、会長 1 名、副会長 1 名、会計 1 名、書記 1 名、監事 2 名、理事 8 名、評議委員 5 名の計 19 名体制である。

組織内には、総務部、文化部、広報部、生活部、保健レク部の計 5 部が設置され、その体制の下で、読婦だより（年 3 回）発行や文化講座（年 2 回）、研修・講演等の自主事業が実施している。

村婦人会では、自主事業を上回る協力事業やその団体との活動が、年間を通して実施されていることが大きな特徴である。例えば、読谷まつりや読谷村青年エイサーまつりをはじめとする祭り関連の催し、読谷村防災会議、読谷村健康づくり村民会議、読谷村青少年健全育成協議会等、防災～健康・福祉・教育など幅広い協力事業への参加が行われている。加えて、沖婦連や中婦連のその他外部団体の行事への参加も数多く実施している。

■読谷村老人クラブ概要

	事 項	備 考
役員構成	・会長（1名）、副会長（3名）、理事（2名）、監事（2名）顧問（10名）	
運 営	・クラブ大会、評議委員会、役員会、女性委員会、サークル長会	
スポーツ活動	・ゲートボール（年2回） ・グランドゴルフ（年2回） ・ソフトボール大会 ・運動会 ・ゴルフ大会 ・ボウリング大会	
文化活動	・読谷まつり（文化作品展・集団演技） ・囲碁大会 ・老人クラブ大会 ・サークル発表	
サークル	・古典音楽（月2回） ・古典舞踊（週1回） ・男性舞踊（週1回） ・大正琴（月2回） ・手芸（月1回） ・レク（月2回） ・書道（月2回） ・生花（月1回） ・囲碁（週2回） ・ゴルフ（月1回）	
協力事業	・歳末チャリティゲートボール大会（社協事業） ・ゆいまーる共生事業（役場福祉課事業）	
その他	・宿泊研修会 ・公式わなげ大会 ・定期清掃作業（福祉センター、老人福祉センター）	
その他外部団体と活動	・囲碁大会 ・ゲートボール大会、グランドゴルフ大会、シニアゴルフ大会、ボウリング交流大会、 ・市町村リーダー宿泊研修会 ・健康づくり活動リーダー養成講習会、 ・友愛活動研修会、 ・中老連老人クラブ大会 ・老人意見発表大会 ・老人福祉作文コンクール	・中老連 ・県老連

■読谷村婦人会

	事 項	備 考
役員構成	・会長（1名）、副会長（1名）、会計（1名）、書記（1名）、監事（2名）、理事（8名）、評議員（5名）、	
運 営	・総会、役員会、代議員会、理事会、専門部会、執行委員会	
専門部	・総務部、文化部、広報部、生活部、保健レク部 計5部	
事 業	・資金造成バザー ・読婦だより発行（年3回） ・読谷村婦人の主張大会 ・文化講座（年2回） ・演芸の集い ・読谷村婦人会100周年記念碑入れ式 ・コザージュ作り	
研修・講演等	・役員研修会、QL 視察研修、役員視察研修会、	
協力事業	・読谷村老人クラブ大会及び芸能大会 ・青少年健全育成村民総決起大会 ・消防出初式 ・読谷村成人式 ・読谷村植樹祭 ・文化祭 ・朝のあいさつ運動 ・読谷まつり ・読谷村青年エイサーまつり ・よみたん福祉納涼まつり ・よみたん福祉運動会 ・歩く健康ゆんたく会 ・読谷村老人運動会 ・まなびフェスタ読谷、 ・年末・年始交通安全母の会マスコット作り、	
その他協力事業	・更生保護女性の会 ・読谷村青少年健全育成協議会 ・読谷村交通安全推進協議会 ・読谷村学力向上推進協議会 ・読谷村生活合理化運動推進協議会 ・読谷村育英会評議委員会 ・読谷村行政区改善審議会 ・読谷村共同募金委員会 ・読谷村防災会議 ・読谷村地域公共交通会議 ・読谷村健康づくり村民会議 ・読谷村社会福祉業議会 ・読谷村社会教育関係団体合同研修会 ・読谷村地域支え合い推進事業講演会	
その他外部団体との活動	・沖婦連定期総会 ・中婦連代議員会 ・沖婦連中央研修会 ・沖婦連代議員会 ・中部地区婦人連合会リーダー研修会 ・婦人の主張中央大会 ・中部地区「島クトゥバし語やびら」大会 ・沖縄県婦人大会 ・中部地区美化環境講演会 ・結核予防講演会	中婦連 沖婦連

<読谷村青年団協議会>

読谷村青年協議会は、各自治会の会員をもって組織され、事務所は読谷村文化センター内に設置されている。

運営は、総会、評議委員会、理事会、役員会で活動方針等が決定されている。

役員構成は、会長 1 名、副会長 1 名、事務局長 1 名、事務局次長 1 名、会計 1 名、組織部長 1 名、福利厚生部 1 名、スポーツレク部 1 名、教宣部 1 名、顧問 2 名、監事 2 名、理事 9 名の計 22 名体制である。

組織内には、組織部、福利厚生部、スポーツレク部、教宣部の 5 つの専門部が設置されている。

自主事業の最大の事業である「読谷村青年エイサーまつり」をはじめ、平成 25 年度からは会員減少への対応策の一つとして、青年会活動を PR する「広報誌」も年間 3 回発行している。その他新規事業では、会員の親睦融和を図るため「第 1 回読青協体育祭・忘年会」も開催している。

その他の協力事業としては、読谷まつりや読谷村ハーリー大会などの催しへの参加、交通安全街頭指導や青少年健全育成協議会などへの参加がある。

その他外部団体との協力事業では、沖縄全島エイサーまつりや青年ふるさとエイサー祭りなど、沖青協、中青協の関連する催しへの参加が年間を通して行われている。

<読谷村子ども会育成連絡協議会>

読谷村子ども会育成協議会は、各自治会の子ども育成会をもって組織されており、事務所は読谷村文化センター内に設置されている。

運営は、総会（代議員会）、理事会、役員会で活動方針等が決定されている。

役員構成は、会長 1 名、副会長 3 名、事務局長 1 名、書記 1 名、会計 1 名、監事 2 名の計 9 名体制である。

自主事業では、岐阜県白川村子ども会との交流事業をはじめ、ジュニアリーダー定例会、読谷村リーダー育成研究会、親子野球大会、緑の少年団体体験学習等を実施している。

その他協力事業としては、読谷まつりやまなびフェスタ、朝のあいさつ運動などへの参加が行われている。加えて、読谷村学力向上推進協議会、社会教育団体合同連会への協力事業が実施されている。

その他外部団体との協力事業では、沖子連や中子連の関連する催しへの参加が実施されている。

■ 読谷村青年団協議会

	事 項	備 考
役員構成	<ul style="list-style-type: none"> ・会長（1名）、副会長（1名）、事務局長（1名）、事務局次長（1名）、会計（1名）、組織部長（1名）、福利厚生部（1名）、スポーツレク部（1名）、教宣部（1名）、顧問（2名）、監事（2名）、理事（9名） 	
運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・総会、評議委員会、理事会、役員会 	
専門部	<ul style="list-style-type: none"> ・組織部、福利厚生部、スポーツレク部、教宣部 	
事 業	<ul style="list-style-type: none"> ・読谷村青年協議会総会・臨時総会 ・清掃活動・青年会交流会 ・読谷村青年エイサーまつり ・第1回読青協体育祭・忘年会 ・読青協新年会 ・話てい遊ばな青年交流セミナー ・うるま市・読谷村交流事業（各スポット・隠れスポットを探せ） ・行政区改善についての勉強会 ・広報誌発刊（7月、10月、3月） 	
協力事業	<ul style="list-style-type: none"> ・読谷村ハーリー大会 ・読谷まつり ・読谷村成人式 ・まなびフェスタ読谷 2014 	
その他協力事業	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成総決起大会および深夜徘徊防止夜間街頭指導 ・交通安全街頭指導（夏・秋・春） ・青少年健全育成協議会 ・読谷村公共交通会議 ・社会教育団体合同連絡会 ・読谷村生活合理化運動推進協議会 	
その他外部団体と活動	<ul style="list-style-type: none"> ・うんな祭り参加（波平青年会） ・こどもの国エイサーまつり（高志保青年会） ・一万人工イサー踊り隊（伊良皆・都屋青年会） ・沖縄全島エイサーまつり（座喜味青年会） ・青年ふるさとエイサー祭り（渡慶次・波平青年会）、 ・中部地区青年団協議会大忘年会 ・青年一斎クリーンアップ大作戦 ・2014 おきなわマラソン ・中部地区青年団協議会大運動会 ・中部地区青年団協議会歴史勉強会 ・中部地区青年・婦人国内研修 	<p>中青協 沖青協</p>

■読谷村子ども会育成連絡協議会

	事 項	備 考
役員構成	<ul style="list-style-type: none"> ・会長（1名）、副会長（3名）、事務局長（1名）、書記（1名）、会計（1名）、監事（2名） 	
運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・総会（代議員会）、理事会、役員会 	
事 業	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアリーダー定例会 ・読谷連育成者研修 ・少年の主張 ・福島県飯館村交流会 ・読子連・岐阜県白川村子ども会夏の交流 ・緑の少年団体験学習 ・読谷村リーダー育成研修会 ・親子野球大会 ・読子連・白川村子ども会冬の交流壮行会 ・読子連・白川村子ども会冬の交流会 ・読子連・白川村子ども会冬の交流報告会 	
協力事業	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育団体合同ミーティング ・読谷村の教育の日実行委員会 ・読谷まつり（読子連団体演技、各子ども会舞台演舞） ・まなびフェスタ ・朝のあいさつ運動 ・読谷村植樹祭 ・JA 感謝祭（長浜・波平子ども会） 	
その他協力事業	<ul style="list-style-type: none"> ・読谷村青少年健全育成協議会 ・読谷村学力向上推進協議会 ・社会教育団体合同連絡会 ・行政区改善の説明会 ・地域行政に関する説明会 ・読谷村自治基本条例ワークショップ ・村教育委員会功労表彰式典 	
その他外部団体と活動	<ul style="list-style-type: none"> ・沖子連代表者会議 ・中子連定期総会 ・中子連代表者会議 ・沖子連定期総会 ・中頭子連ジュニアリーダー研修 ・中頭教育委員会ジュニアリーダー研修 ・沖子連ジュニアリーダー上級者研修 ・沖子連育成者研修会 ・沖子連こどもまつり ・全国子ども会育成連絡中央会議 	中子連 沖子連

4. 各種団体の問題点・課題・今後のあり方

以下では、関係者ヒアリングを中心に、統計データ、アンケート調査（自由意見を含む）、により、各種団体の問題点・課題及び今後のあり方について整理している。

①老人会

ア. 問題点・課題

平成 25 年度は、21 自治会の老人会が「読谷村老人クラブ連合会」に加入している。老人会は他の団体に異なり、高齢化社会を反映し、会員数は増減を繰り返すが着実な増加傾向にある。ただし、老人会の現状としては、自治会未加入者の 65 歳以上の高齢者が約 7,000 人居住しており、団体としての対応が課題となっている。

また、老人会はスポーツ活動～文化活動まで幅広い活動内容をもつが、今後の新規会員の加入に当たっては、例えば、ゲートボール・琉球舞踊イコール老人会というステレオタイプの老人会に対するイメージの払拭も課題としている。

各自治会単位でみると、小規模自治体における人材不足や、大規模自治会においても役員の役割の大きさから役員を敬遠する傾向も伺われる。老人会においては、特に今度の会員数の増加を見越すと、組織を担うリーダーとして期待される公務員退職者の加入が課題として上げられている。

イ. 今後のあり方

自治会未加入者の 65 歳以上の加入促進については、老人会活動に関わる情報発信が重要となる。若者世代と異なり、インターネット等のデジタルではなく、広報誌等の紙媒体が中心となることから、その伝達手法の検討が行われており、村広報誌への老人会情報提供のスペースの確保、あるいは村広報誌配布時に折り込みセット（独自に作成）で配布する手法等を検討している。また、約 7,000 人と言われる新規会員対象者の居住地の把握や名簿作成のあり方について検討する必要がある。

活動内容の充実化に向けては、団塊世代も会員対象年齢に達しており、価値観の多様化に対応した検討も必要となる。

今後の自治会との関係性からみると、子育て支援、防犯・防災をはじめ、これまでも大きな役割を担ってきた福祉、伝統芸能の継承など、多方面で高齢者の支援が期待されており、独自事業との兼ね合いも踏まえつつ、無理なく誇りを持って行える地域貢献のあり方を再構築することも重要となっている。新たな組織像を構築することが期待されていると言える。

②婦人会

ア. 問題点・課題

平成 25 年度は、17 自治会の婦人会が「読谷村婦人会」に加入しているが、基本的に会員数は長期の減少傾向にある。婦人会の現状としては、以前は子ども会活動をしている人は婦人会に参加する図式があったが、最近では子ども会の活動を終えると、婦人会の会員には入らない傾向がある。また、自治会加入者でも婦人会には加入しない傾向も増えている現状にある。

その背景としては、都市型社会の進展に伴い、女性の社会進出や共働き世帯の増加など、社会の中で女性の立ち位置が以前とは大きく変化し、個人の価値観の多様化などの現状があることが指摘されている。ただし、各自治会での婦人会が担っている役割は依然として大きいものがあり、実祭、中心的に活動している役員は婦人会活動が地域の活性化につながっていることについて誇りを持っている。そのため、持続的な会員数の確保は大きな課題となっている。また、協力行事の多さや冠婚葬祭等の祭祀に関わる役割も担っており、時代の変化に沿った活動内容の再検討が課題となっている。

イ. 今後のあり方

会員の加入促進については、婦人会活動の意義について若い世代になかなか伝わらない現状があることが指摘されており、婦人会を通じた地域での人と人の関係づくりの中で培われる安心感・安定感など、地域活性化、伝統文化の継承、次世代のための基盤づくりへの貢献など、婦人会が持つ意義について各自治会の現状に応じた情報発信を検討することが必要である。

また、役員の役割の負担感から婦人会に加入しない現状もあり、その軽減策も含めた現代社会の時代に合った活動内容に切り替えていくことも検討する時期にあると言える。加えて、基本的に女性の場合は、結婚すると男性側の自治会に対する考え方によっても大きく影響を受ける面があり、30 代以上の男性の自治会活動や地域コミュニティに対する意向を把握することも、今後の婦人会の活動方向の検討のヒントになるとの指摘もある。

いずれにしても、村婦人会の活動内容をみると、独自事業にくらべ協力事業が多く、婦人会独自で取り組み活動の足かせになっていることも否めない。実際、会員加入促進について検討する月 1 回程度の役員同士（村婦人会と自治会婦人会）の話し合いも時間の制約もあり、議論が深まらない現状もある。

そのため、今後の婦人会のあり方を検討する上でも、上記のような婦人会を取り巻く現状について、自治会内でも共通認識をもち、支え合いの中での組織の再構築を検討することが必要である。

③青年会

ア. 問題点・課題

平成 25 年度は、12 自治会の青年会が「読谷村青年団協議会」に加入し、自治会単位でも 16 団体といずれも減少傾向にある。青年会の現状としては、各自治会単位で当該地元だけ会員を構成することが厳しい現実があり、会員募集も村内一円に呼びかける形態となっている。その状況は、青年会の最大の事業である「読谷村青年エイサーまつり」でも会員の減少が可視化されるようになっており、会員減少への対応は重要な課題となっている。

その背景としては、現在は地域の枠を超え高校・大学進学をする時代であり、以前に比べて現在は地元意識も希薄化している社会の現状があると言われている。そのため、エイサーを踊ることは、必ずしも地域の活性化や伝統芸能を継承しているという意識はなく、純粋にエイサーを楽しんでいる傾向にあるという。

上記のような現状を否定的に捉えるのではなく、これまで青年会が担ってきた役割や存在意義等はきちんと踏まえつつ、社会状況に対応した団体組織としての立ち位置を再構築していくことが今後の課題となっている。

イ. 今後のあり方

会員減少へ対応策として、平成 25 年度から「村青年団協議会」の広報誌の発行、フェイスブックの活用、FMよみたんでの情報発信などの取組みを実施している。会員の増加の効果がなかなか見えないと言われているが、今後とも創意工夫を重ねた情報発信は重要であり、継続して取組むことが必要である。

加えて、「読青協体育祭」等の新規の取組みなど、会員が気軽に参加できる場の提供を検討することは今後も必要である。また、自治会単位の青年会では、エイサー等の伝統芸能を継承し、それを披露する発表の場（他府県への派遣等）があることが、活性化に向けた大きな契機となることから、自治会活動の中で再評価することも必要である。

当該自治会出身者だけで会員を確保できない現状の中で、自治会からの補助金支出の面から課題も指摘され、ある自治会では地元出身者の割合を 50%以上確保することを条件にしている事例もある。そのため、前述したように現状の流れは止めることはできず、例えば、「高志保の馬舞」や「儀間の南又島」等の伝統芸能のある青年会は、それを活用し「字同窓会」のような地元意識を醸成する「場づくり」を意識的に取組むことも検討される。

いずれにしても、社会環境が変化する中で、依然として各自治会内で青年会が担う役割は大きいものがあることから、先輩世代については現在社会での青年会の立ち位置の共有化、若い世代については自治会内で新たに青年会が取組める活動など、世代間の新たな認識づくりができる仕組みを検討することも考えられる。

④子ども会

ア. 問題点・課題

平成26年度は、14自治会の子ども会が「読谷村子ども育成連絡協議会」に加入しているが、加入自治会数及び会員数ともに減少傾向にある。特に、南部地域の子ども会が多い（自治会の団体組織としては存続）。自治会単位で見ると、活発な活動を行っている子ども会がある反面、休止・停滞傾向にある子ども会も多く、全体として会員減少への対応が課題となっている。

その背景としては、習い事、部活動やクラブ活動が忙しく、子ども会活動への参加が厳しい社会環境の変化を受け、父母もPTAや子ども会の役員を敬遠し、部活動・クラブの父母会活動に熱心になる傾向があると言われる。

そのため、子ども会の地域活動より、親子共々に部活動やクラブ活動等を優先することになり、組織を担う役員がなかなか決まらない課題を抱えている。

イ. 今後のあり方

今後の会員の加入促進については、これまでの実績や知見から、伝統芸能等との関わりを指摘する意見が多い。棒術をはじめ、獅子舞や太鼓などを子ども会活動に取り入れることにより、活性化した事例が上げられている。一方、大規模自治会でもその足掛かりとなる伝統芸能が衰退傾向にあるところは、子ども会も停滞傾向にあると言われる。

上記のような現状を踏まえると、各自治会単位における足掛かりとなる“伝統芸能”をヒントに、子ども会の会員加入促進と組織の活性化の方向性を各自治会の現状に沿いつつ、柔軟にチャレンジする枠組みを検討することも考えられる。

そのためには、役員の担い手不足への対応が重要となっている。現状では、一人でも熱心なリーダーとそれをサポートする体制ができれば、各自治会での活動が大きく変わる可能性があることが指摘されている。

親子ともに時間に追われる日常生活を送っている現状の中で、子ども達が望んでいる目線で子ども会の活動を活性化するためには、子育て世代の若い世代の父母が役員を担っていくことが求められている。そのためには、子ども会がもつ意義や役割についての共有化が必要であり、活動の情報発信が重要となる。現在でも「フェイスブック」や「ブログ」などによる試みを行っているが、今後とも若い世代への効果的な情報発信の取り組みが検討される。

加えて、県レベルで取組む「ノー部活デー」、他市町村で試みられている「地域行事」と「クラブ活動」の日程調整を行い地域行事への参加を促す取組み、あるいは都市部で見られるNPO法人が行う「スポーツ系」以外の子ども達の活動の場を提供している事例等、今後の子ども会のあり方を検討する場合のヒントとなる。

■ 団体組織の問題点・課題・今後のあり方

	問題点と課題	今後のあり方
①統計データ	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会の会員は増加 ・婦人会の会員は激減 ・青年会は「読青協（村レベル）」の活動を停止している自治会增加。 ・子ども会も「読子連（村レベル）」の活動を停止している自治会增加 	—
②アンケート調査（自由意見含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブの行事の多さ ・未加入者の老人会への加入 ・子ども会や婦人会の加入方法やメリットの提示 	—
③関係者ヒアリング	<p><子ども会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読子連」に加入する自治会が年々減少。 ・「読子連」の情報発信として、「フェイスブック」や「ブログ」を活用しているが成果は上がってない。 ・社会状況が変わり、子ども達自身が忙しい ・役員の担い手の問題 ・行事のマンネリ化も問題 <p><青年会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年会は、地元の青年だけで構成するには厳しい時代 ・役員の担い手の問題 ・広報誌を年2回発行しているが反応はいまひとつ。 <p><婦人会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員の担い手の問題 ・行事のマンネリ化も問題 ・自治会に加入しても婦人会には加入しない。 ・各自治会の婦人会は確実に弱体化 ・婦人会の良さや意義が若い世代になかなか伝わらない。 <p><老人会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとして期待される退職公務員の加入が少ない。 ・村内に65歳以上の未加入者は7,000人いる。 	<p><子ども会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験から棒術等の伝統芸能が残っている自治会は可能性がある。 ・「読子連」の役員は若い世代に引き継ぐ方向で検討。 ・都市化社会が進展する中、他市町村の取組みを調査することも必要。 <p><青年会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地域からの青年もいる中で、地元意識を醸成するため「字同窓会」的な検討。 ・「南又島」・「馬舞」のような伝統芸能があれば、青年会の活性化も期待がもてる。 ・伝統芸能を継承し、県外等で発表する機会があることは青年会活動の大きな魅力。 <p><婦人会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自治会の足元を固める活動が必要。 ・活動内容は、時代に合わせて切り替えていく時期。 <p><老人会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加入促進のため、これまでの「ゲートボール」や「舞踊」等の固定的なイメージを崩したい。 ・情報提供についても、村広報への掲載の工夫も検討。 ・自治会未加入者への広報活動も促進したい。

■ 資料編

自治会カルテ

■長 浜

①年間活動

	活動内容
主な行事	新春トリムマラソン&餅つき大会 午年生年儀合同祝い 読谷ハーリー大会 第40回長浜区民運動会 エイサー 学事奨励会 敬老会・八月十五夜・出産合同祝い 自主防災訓練
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 長浜区総合物産展示会 チャレンジデー 海浜一斉清掃 農事実行組合視察 区民草刈り作業（年2回） 婦人会視察研修 子ども会育成クリスマス会 生け花講習会（婦人会）
祭祀等	二月大御願 字シーミー 清明祭「旗スガシー」 さとうきび満産祝い 慰霊祭

※総会資料未記載のため

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記・会計、区長代理、用務員、行政委員会（23名）	5班	6団体	※書記と会計は兼任

③各種団体

各種団体	団体
老人会、婦人会、青年会、子供会、芸能保存会、浜への会 農事実行組合	7

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
3,824,140円	54.1%	25.2%	20.7%	H25年度決算 ※月額 世帯割：800円 人口割：110円 稼働者割：90円

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
600,000円	2,152,488円	≒2,760,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	1,500,000円	1,200,000円	○	○

※平成26年度予算書案より

自治会カルテ

■瀬名波

①年間活動

	活動内容
主な行事	学事奨励会 父の日ソフトボール大会 区民運動会 エイサー 敬老会 合同出生祝 新春ゲーム大会
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 瀬名波ガー清掃 字ブー（区民清掃） 山芋スープ 馬鈴薯坪堀審査 総合展示会 産業共進会
祭祀等	清明祭 三月ウマチー カンカー（旧4/1） 慰霊祭 五月ウマチー 六月ウマチー 旗すがし 大願（旧8/1） カンカー（旧8/1） 用心燈（旧12/1） 御願ブトッチ（旧12/24） 大願（旧2/1）

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記、会計、用務員、 区政委員会（28名）	6班	10団体	

③各種団体

各種団体	団体
長生会、婦人会、青年会、子ども育成会、泉の会、二三四五会 伝統芸能保存会、リキトーンズ、農事実行組合、体協	10

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
3,652,900円	—	—	—	H25年度決算 ※年額 世帯割：10,000円 人口割：400円 稼働者割：2,500円

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
240,000円	2,120,352円	≒2,360,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
360,000円	1,440,000円	1,080,000円	○	○

※平成26年度予算書案より

自治会カルテ

■宇 座

①年間活動

	活動内容
主な行事	学事奨励会 区民運動会 旧盆エイサー 敬老慰安会 生年合同祝
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 産業視察 宇座技能研修 振興会
祭祀等	清明祭 慰霊祭 解御願 初御願

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記、用務員、 区政委員会（38名）	5班	5団体	

③各種団体

各種団体	団体
老人会、婦人会、青年会、子供育成会、芸能保存会	5

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
7,083,000円	30.0%	20.0%	50.0%	H26年度予算 ※年額 戸数割：6,600円 人口割：960円 稼働者割：5,040円

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
708,000円	2,460,000円	3,168,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	1,728,000円	1,080,000円	○	なし

※平成26年度予算書案より

自治会カルテ

■儀 間

①年間活動

	活動内容
主な行事	学事奨励会 第17回レディース・第15回メンズゲートボール大会 区民運動会 生年エイサーまつり 敬老祝、出生祝 クリスマス会（子供育成会） 初興しゲートボール大会 役員研修会
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 区民清掃 地域保全活動 山芋展示会 共進会
祭祀等	慰霊祭 7月御願 解御願 初御願

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記、用務員、 行政委員会（11名）	4班	8団体	

③各種団体

各種団体	団体
光命会、婦人会、青年会、子供会、伝統芸能保存会、寿の会 農事実行組合、体育協会	8

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
3,500,000円	55.0%	20.0%	25.0%	H26年度予算 ※年額 戸数割：11,810円 人口割：1,220円 稼働者割：2,920円

※運動会費等を除く

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
540,000円	2,184,000円	2,724,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	1,440,000円	1,080,000円	○	○

※平成26年度予算書案より

自治会カルテ

■ 渡慶次

① 年間活動

	活動内容
主な行事	父の日グランドゴルフ交流大会 区民運動会 渡慶次まつり 敬老会
清掃・農事・福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 区民一斉清掃（年3回） 産業視察 ばれいしょ審査 チャレンジデー 新春もちつき大会（がんじゅークラブ）
祭祀等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清明祭 ・ 三月御祭 ・ カンカー祭 ・ 甘藷御主祭 ・ アブシバレー ・ 五月御祭 ・ 六月御祭 ・ 井の御願 ・ 旗スガシ ・ カンカー祭 ・ ボージ又御願 ・ 八月御祭 ・ 獅子之御願 ・ 大御願 ・ カママーイ ・ 解御願 ・ 初御願 ・ 慰霊祭

※総会資料未記載のため

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記・会計、用務員（2名） 行政委員会 15名	7班	9団体	

③各種団体

各種団体	団体
がんじゅークラブ、婦人会、青年会、子ども育成会、農業同好会、体育振興会、文化財保存委員会、青洋会、健青会	9

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
4,982,760円	60.0%	30.0%	10.0%	H25年度決算 ※年額 世帯割：10,000円 人口割：400円 稼働者割：2,500円

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
1,104,000円	2,546,640円	≒3,650,000円

会計	書記・会計	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	2,232,000円	1,344,000円	○	○

自治会カルテ

■高志保

①年間活動

	活動内容
主な行事	学事奨励会 区民運動会（第41回） 青年エイサー、馬舞 敬老祝、出生祝 若保の会観月会 高志保まつり（第21回） 年齢別ソフトボール大会 生年合同祝賀会
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー クリーン・グリーン・グレイシャス 婦人会視察研修 審議委員視察研修 がじまる会視察 山芋勝負（第11回） 婦人会料理講習会
祭祀等	清明祭 イモ主祈願 慰霊祭 旗スガシー マチ祈願 水祈願 年末祈願 初祈願

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記・会計、区長代理、用務員、 審議委員会（38名）	4班	8団体	書記は会計兼務？

③各種団体

各種団体	団体
若保の会、婦人会、青年会、子ども育成会、高成会、馬舞保存会 古典音楽芸能保存会、体育協会	8

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
6,585,465円	55.0%	25.0%	20.0%	H25年度決算 ※月額 世帯割：830円 人口割：95円 稼働者割：145円(18～ 70以上除く)

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
1,007,500円	3,983,500円	4,991,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	2,867,500円	1,627,500円	○	なし

自治会カルテ

■波 平

①年間活動

	活動内容
主な行事	学事奨励会 区民運動会 敬老会、観月会（十五夜） 波平まつり（第29回） 生年合同祝 総蹶起大会（第62回）
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 部落清掃 甘藷坪堀審査 馬鈴薯坪堀審査 甘蔗満歳祝
祭祀等	清明祭 慰霊祭 初御願祭

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記、用務員 審議委員会（37名）	5班 25組	9団体	

③各種団体

各種団体	団体
老友会、婦人会、青年会、子ども育成会、くとぶち会 伝統芸能保存会、農事実行組合、体育振興会、振興会	9

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
9,709,300円	—	—	—	H25年度決算 ※月額 世帯割：450円 稼働者割：350円(19～64歳) 未稼働者割：200円(18歳以下、65歳以上)

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
180,000円	4,051,332円	≒4,230,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	3,516,000円	1,644,000円	なし	○

自治会カルテ

■上 地

①年間活動

	活動内容
主な行事	新春ゲートボール交流会
清掃・農事・ 福祉・防災等	清掃 古井戸清掃補修（前ガー、西ガー） 公園清掃
祭祀等	清明祭、初御願（旧1月1日）

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記・会計 行政委員会（3名）	—	—	

③各種団体

各種団体	団体
老人会	1

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
※平成 25 年度は徴収なし	—	—	—	※月額 世帯割：1,000 円 子供：100 円

⑤役員報酬等(年額)

単位：円

区長		
自治会	村委託料	合計
	1,052,976 円	≒ 1,053,000 円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
なし	なし	なし	○	○

※役員手当、退職金有無については、平成 26 年度予算案により

自治会カルテ

■都 屋

①年間活動

	活動内容
主な行事	学事奨励会 エイサー祭り 敬老会 グランドゴルフ大会
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 区民清掃 防災訓練
祭祀等	慰霊祭

※総会資料未記載のため

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記、用務員、 審議委員会（10名）	3班	6団体	

③各種団体

各種団体	団体
海原会、婦人会、青年会、子供育成会、芸能研究会、体協	6

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
3,629,450 円	58.0%	16.0%	26.0%	H25 年度決算 ※月額 世帯割：1,300 円 稼働者割：300 円 未稼働者：50 円（子供在学者 22 歳以下及び 70 歳以上）

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
720,000 円	1,793,100 円	≒2,520,000 円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	900,000 円	540,000 円	○	○

※平成 25 年度決算所より

自治会カルテ

■親志

①年間活動

	活動内容
主な行事	親志エイサー 敬老会 おやし灯籠まつり（第4回） 親志区区民スポーツ大会 トリムマラソン&餅つき大会 視察(平成26年度より) 村ハーリー大会（平成26年度より）
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 区内清掃 特産品開発会議
祭祀等	御願解ち 菊酒 親志エイサー前の奉納演舞

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記、会計、用務員、 区政委員会（11名）	1班	5団体	用務員は班長兼務？

③各種団体

各種団体	団体
仙寿会、女性部、子供育成会、親友会、体協、多幸山の会	6

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
851,000円	—	—	—	H25年度決算 ①1,200円（一般家庭） ②1,000円（子供がいる家庭、生活困窮家庭等）

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
600,000円	1,727,000円	2,327,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
180,000円	180,000円	720,000円	なし	なし

※平成26年度予算書案より

自治会カルテ

■座喜味

①年間活動

	活動内容
主な行事	豊年祭 区民運動会（第 45 回） 学事奨励会 観月会 敬老会 除夜の鐘 生年祝い 各班対抗ソフトボール大会 各班対抗バレー、バスケット、卓球大会 各班忘年会 座喜味城通りふれあいまつり 新・旧役員引き継ぎ会
清掃・農事・福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 区民清掃（春・夏・秋）、各団体毎月第 1 日曜日花園清掃 さとうきび満産祝い 総合展示会（第 61 回） 総合共進会（第 61 回） じゃが芋坪堀審査 甘藷坪堀審査 山芋スープ
祭祀等	清明祭 三月ウマチー 五月ウマチー 慰霊祭 豊年ウガミ（6 月 14 日） 六月ウマチー 旗スガシー シーシー、 旗スガシー 出生者報告ウガミ（ウバギー） 霜月カンカー 師走ウガン。 初ウガン アガリバナ（旧八月十日） 山田ウガミ

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、会計、書記、用務員 行政委員会（26名）	5班	14団体	

③各種団体

各種団体	団体
老人クラブ友愛会、婦人会、青年会、子供会育成会、城寿の会 棒保存会、交通安全友の会、古典芸能保存会、生活研究会、 字誌編集委員会、農事実行組合、遺族会、紅の里まるみの会 体育協会	14

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
6,850,970円	43.0%	39.0%	18.0%	H25年度決算 ※月額 世帯割：650円 人口割：170円 稼働者割：160円

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
360,000円	2,880,000円	3,240,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
240,000円	2,316,000円	1,260,000円	○	○

※平成26年度予算書案より

自治会カルテ

■喜 名

①年間活動

	活動内容
主な行事	各種団体ゲートボール大会 区民運動会（第45回） エイサー 敬老会 出生祝
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 各種団体清掃作業 ジャガイモ勝負 サトウキビ満産祝 山いも勝負 農産物展示会
祭祀等	御願解ち 初御願 清明祭 慰霊祭 カーサレー 旗スガシー 観音堂祭 カンカー

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記、会計、用務員、 審議委員会（41名）	8班	9団体	区長は公民館長兼務

③各種団体

各種団体	団体
若竹会、婦人会、青年会、教育隣組、協友会、成人会、福寿会 伝統芸能保存会、体協	9

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
6,313,700円	54.0%	14.0%	32.0%	H25年度決算 ※月額 戸数割：600円 人口割：50円 稼働者割：200円

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
3,360,000円	1,120,000円	4,480,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
1,080,000円	2,580,000円	1,440,000円	○	○

※平成26年度予算書案より

自治会カルテ

■横 田

①年間活動

	活動内容
主な行事	自治会レク・バスツアー 夏祭り 敬老祝賀会 トリームマラソン・餅つき大会
清掃・農事・ 福祉・防災等	清掃活動
祭祀等	

※総会資料からの抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
会長、副会長、書記、会計・用務員 役員会（25名）	10	2	

③各種団体

各種団体	団体

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
1,196,800 円	—	—	—	H25 年度決算 ※550 円× 2,176 世帯

⑤役員報酬等(年額)

会長		
自治会	村委託料	合計
—	1,560,000 円	1,560,000 円

※平成 25 年度は村からの補助はなし。

※平成 26 年度から村の団体として位置づけられたことから村委託料を発生。

副会長	書記	会計・用務員	備考	
			役員手当	退職金
240,000 円	120,000 円	960,000 円	○	なし

自治会カルテ

■ 楚 辺

① 年間活動

	活動内容
主な行事	区民運動会（第 46 回） エイサー 楚辺まつり 艦砲唄大会 トーカチ 十五夜 敬老会 カジマヤー 区民ソフトボール大会 楚辺区防災訓練 生年合同祝賀会 楚辺ムーチャー（旧 12/7） さんしんの日
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 区民大清掃 七御嶽・赤犬子宮清掃 楚辺公園・前浜清掃 山芋多収穫審査 鳥取交流 人参・ジャガイモ多収穫
祭祀等	浜下り 清明祭 アブシハレー（旧 4/16） 五月ウマチー 合同慰霊祭 六月ウマチー 菊酒 赤犬子スーギ（旧 9/20） ムスピー小 シーダチ小

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記、会計、使丁（2）、 審議委員会（36名）	4班	9団体	

③各種団体

各種団体	団体
老人クラブ若松、婦人会、青年会、子ども育成会、芸能保存会 クラガー会、遺族会、水利組合、体育振興会	9

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
4,209,310円	60.9%	20.8%	18.3%	H25年度決算 ※年額 世帯割：4,200円 人口割：420円 稼働者割：760円

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
0円	3,891,360円	≒3,890,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
3,398,400円	2,575,200円	1,674,000円	○	○

※平成25年度決算書より

自治会カルテ

■大 添

①年間活動

	活動内容
主な行事	学事奨励会 総合防災訓練 大添まつり 敬老祝賀会 新春の集い もちつき大会
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 清掃活動 30周年記念誌編集委員会 健康講座
祭祀等	

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記、会計 行政委員会（25名）	5班	4団体	

③各種団体

各種団体	団体
千歳会、萬代会、伝統芸能保存会、体協	4

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
1,671,000円	100%	0%	0%	H25年度決算 10,000円×177世帯 (内字費免除世帯 10世帯)

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
0円	1,810,740円	1,810,740円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
480,000円	1,776,000円	—	○	なし

自治会カルテ

■大 木

①年間活動

	活動内容
主な行事	各種団体ゲートボール大会 区民運動会 エイサー 敬老会 生年合同祝 区民ボーリング大会
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 各種団体清掃作業 ジャガイモ勝負 山いも勝負
祭祀等	井戸御願 慰霊祭 徳武佐祭 銅像浄め

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記・会計、用務員 区行政委員会（13名）	4	6	書記・会計は兼務

③各種団体

各種団体	団体
若松会、婦人会、子供会、わかさ会、農業実行組合、体協	6

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
4,348,500円	44.1%	—	55.9%	H25年度決算 ※月額 世帯割：700円 稼働者割：500円

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
660,000円	1,888,212円	2,548,212円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	1,320,000円	960,000円	○	○

自治会カルテ

■伊良皆

①年間活動

	活動内容
主な行事	エイサー 十五夜語れー トーカチ 敬老会 十五夜あしび 十三祝
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 部落拝所清掃 やまんむスーブ
祭祀等	清明祭 五月ウマチー 慰霊祭 旗スガシー 旧十五夜御願 火ゲージ 七廻るー 初御願 豚カンカー 二月ウマチー 鶏カンカー 牛カンカー

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記・会計、用務員、 評議委員会（4名）、行政委員（10名）	5班	10団体	書記・会計は兼務 ※3班はA・B

③各種団体

各種団体	団体
老人会、婦人会、青年会、子供育成会、農事実行組合、寿楽の会 遺族会、芸能保存会、読谷飛行場地主会、体育協会	10

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
1,481,570円	—	—	—	H25年度決算 ※世帯割：一世帯 220円 ※人口割：16歳以上 50円 ※稼働者割：20～60歳（学生除く） 120円

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
1,104,000円	2,005,356円	3,109,356円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	2,190,000円	1,176,000円	○	○

※平成26年度予算書案より

自治会カルテ

■牧原

①年間活動

	活動内容
主な行事	各種団体グランドゴルフ大会 各種団体ボウリング大会 エイサー（子供会） 学事奨励会 野外学習 敬老会
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 各種団体清掃作業 （年中行事、チチェーン、坊主ガー、ウカマ、児童公園、公民館）
祭祀等	御願解ち 初御願 チチェーン（旧9月9日）

※総会資料未記載のため

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
自治会長、書記・会計、用務員 行政委員会（15名）	班	4団体	書記・会計は兼務

③各種団体

各種団体	団体
老人会、女性会、子供会、まきばる会（青年OB）	4

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
1,272,000円				H25年度決算 ※2,000円×50世帯 ※1,000円×6世帯

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
217,655円	1,762,345円	1,980,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	540,000円	960,000円	○	○

※平成26年度予算書案より

自治会カルテ

■長 田

①年間活動

	活動内容
主な行事	盆踊り 敬老会 バスツアー（区民親睦） バーベキュー（区民親睦）
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業
祭祀等	

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
自治会長、書記、会計 審議委員会（12名）	2班	4団体	

③各種団体

各種団体	団体
老人会、婦人会、子ども会、わかば会	4

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
532,800円	—	—	—	H25年度決算 ①1,600円×4世帯 ②1,400円×8世帯 ③1,000円×7世帯 ④800円×8世帯 ⑤500円×2世帯

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
0円	740,000円	740,000円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
220,000円	220,000円	114,000円	○	なし

※平成25年度決算より

自治会カルテ

■渡具知

①年間活動

	活動内容
主な行事	旧盆エイサー道ジュネー 渡具知区自主防災総合訓練 午年生年合同祝い
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー 緑の会定期清掃 共同美化清掃作業（海浜一斉清掃） ミンチェーガー清掃（水利組合） 東日本大震災被災地視察研修 先進地農業視察研修 渡具知山芋スーブ 農業満産祝 年末区民清掃作業
祭祀等	清明祭 慰霊祭 ウマチー（2月、3月、5月、6月） 井戸 御嶽拝み

※総会資料より抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記・会計、用務員（2） 審議委員会（32名）	3班	6団体	書記・会計は兼務

③各種団体

各種団体	団体
老人会、婦人会、青年会、子供会、泊城の会、自主防災会	6

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
4,116,690円	66.6%	0%	33.4%	H25年度決算 ※月額 世帯割：1,000円 稼働者割：300円（18～ 65歳、学生除く）

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
660,000円	1,978,092円	2,638,092円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	1,560,000円	1,200,000円	なし	なし

※平成25年度決算書より

自治会カルテ

■古 堅

①年間活動

	活動内容
主な行事	学事奨励会 獅子舞 エイサー 敬老会 生来改め（出生祝） 新年会
清掃・農事・ 福祉・防災等	泉井清掃 共同作業（年2回） 字展示会
祭祀等	神御清明 慰霊祭 山田拝み 泉井拝み カンカー拝み ナンカヌシーク拝み

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、書記・会計、用務員、 評議員会（12名）	6班	5団体	書記と会計は兼務

③各種団体

各種団体	団体
老人会、婦人会、子供父母会、芸能保存会、体協	5

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
2,486,305 円	60.0%	—	40.0%	H25 年度決算 ※年額 戸数割：8,800 円 稼働者割：3,550 円 (20～64 歳)

⑤役員報酬等

区長		
自治会	村委託料	合計
636,000 円	1,816,536 円	2,452,536 円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	1,344,000 円	948,000 円	なし	なし

※平成 25 年度決算書より

自治会カルテ

■大 湾

①年間活動

	活動内容
主な行事	父の日グランドゴルフ大会 夕涼み会 敬老会 出産祝 午歳合同祝賀会
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー カーそうじ（共同作業） 共同作業 公民館職員視察研修
祭祀等	清明祭 慰霊祭 旗スガー

※総会資料から抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
自治会長、書記・会計、用務員 運営審議委員会（17名）	5班	6団体	書記・会計は兼務

③各種団体

各種団体	団体
百才会、婦人会、青年会、父母の会、わぶくの会、体協	6

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
3,394,000円	—	—	—	H25年度決算 2,000円×146世帯 1,000円×1世帯

⑤役員報酬等(年額)

自治会長		
自治会	村委託料	合計
960,000円	1,713,696円	2,673,696円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	1,680,000円	—	○	なし

自治会カルテ

■比謝町

①年間活動

	活動内容
主な行事	視察研修（6月） 敬老行事（9月）
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業
祭祀等	慰霊祭

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
区長、会計 行政委員会（7名）	班	団体	

③各種団体

各種団体	団体
体育協会、ゆいまーる比謝川の会	2

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
396,000円	—	—	—	①1,400 ②1,200 ③1,000 ④ 800 ⑤ 500 ⑥ 300

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
240,000円	1,143,408円	1,380,00円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
204,000円	—	—	○	○

自治会カルテ

■比 謝

①年間活動

	活動内容
主な行事	ひじゃ朝市（第2・第4土曜日） 「父の日」グランドゴルフ大会 寿クラブ GG 大会 比謝まつり（第五回） 新春もちつき大会・グランドゴルフ大会
清掃・農事・ 福祉・防災等	ゆいまーる共生事業 チャレンジデー カラオケ歌い隊（毎週月曜日） 寿クラブ清掃作業 婦人会花壇掃除 比謝草刈り隊 婦人会「母の日」バス視察 役員視察研修
祭祀等	清明祭 慰霊祭 旗スガー 旧正月初拝み

※総会資料より抜粋

②自治会運営

役員体制	班	各種団体	備考
自治会長・会計、書記・使丁、 審議委員会（29名）	4班	5団体	自治会長と会計、書記と使丁は兼務

③各種団体

各種団体	団体
老人会、婦人会、青年会、子ども育成会、ゆうなの会	5

④自治会費(字費)

字費	内訳割合			備考
	世帯割	人口割	稼働者割	
1,942,260円	—	—	—	H25年度決算 ※年額 世帯割：10,983円 稼働者割：3,000円 H26年度より

⑤役員報酬等(年額)

区長		
自治会	村委託料	合計
480,000円	496,898円	976,898円

会計	書記	用務員	備考	
			役員手当	退職金
—	1,200,00円	—	なし	なし

※平成25年度決算書より

事務局	読谷村総務企画部総務課 課長 安田慶知 係長 知花 正 係 山城拓也
作業班	株式会社 沖縄計画機構 知念弘聡 有銘 真

読谷村自治会振興基礎調査

発行：読谷村

〒904-0392 沖縄県中頭郡読谷村字座喜味 2901 番地

<http://www.yomitan.jp/>

Tel.098-982-9201

編集協力：株式会社 沖縄計画機構

